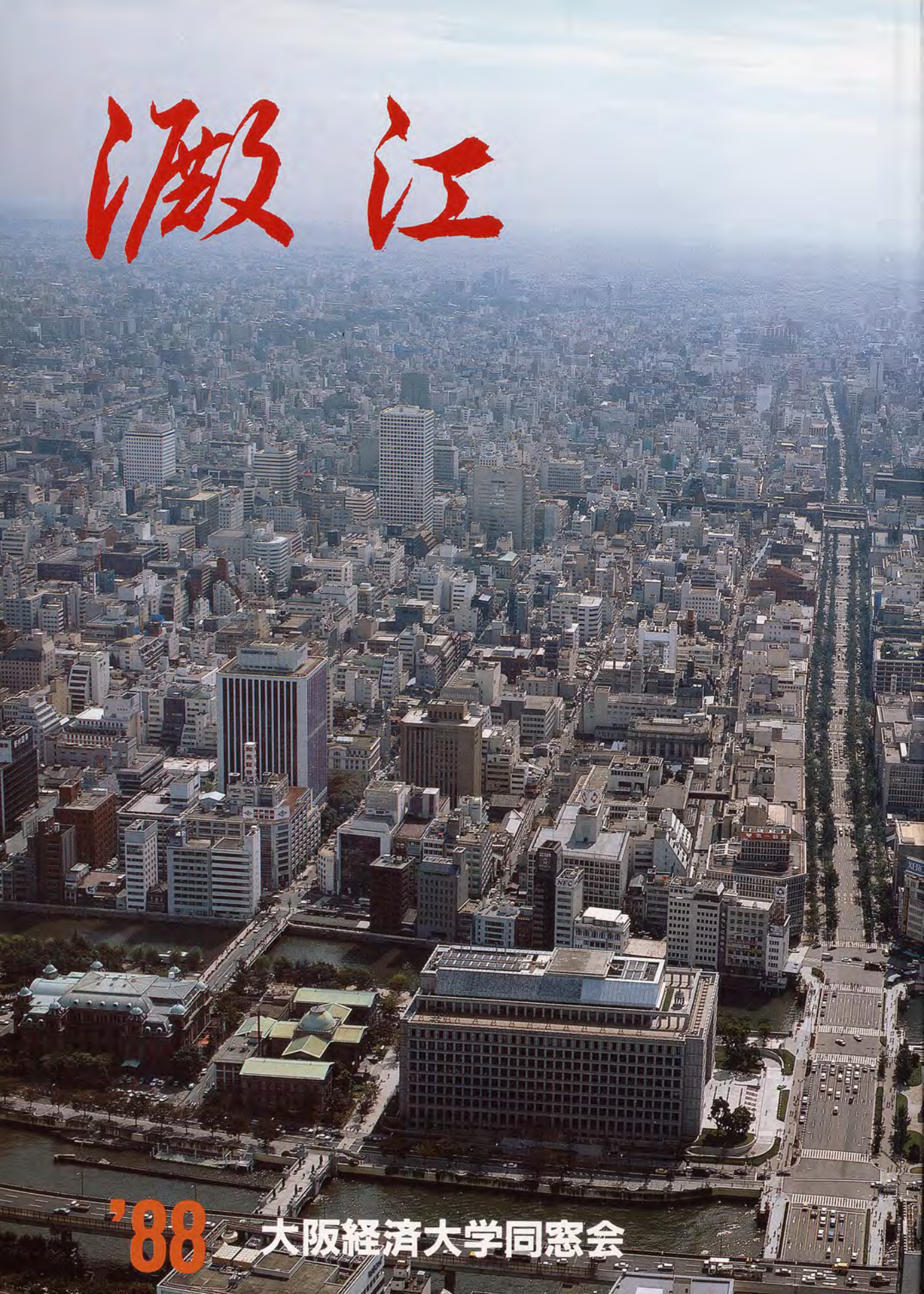


激江



'88

大阪経済大学同窓会

集談
特座

心のふるさと我が母校

——東京のOBは、今——

▼同窓会本部だより……………20

昭和63年度理事會盛會裡に終了
昭和63年度全國支部長會開催
再び母校50周年記念館にて63年度同窓會總會盛大に開催

▼卒業生直撃インタビュー……………25

大隅常松さん・田上敬一さん

▼話題の同級生……………26

西生和秀さん・能本欣一郎さん

▼同窓會支部だより……………27

全國35支部、集いは年々盛り上がる

▼学園の近況……………44

▼ゼミ短信・先生の近況……………57

▼キャンパスだより……………65

監督紹介 準硬式野球部 牧田安夫……………68

▼同期生クラブOB會……………71

▼北から南から……………85

▼グラビア (感性豊かな一人びとりを)……………1

大学の感性が

インターナショナルな舞台をつくる……………20

ごあいさつ……………44

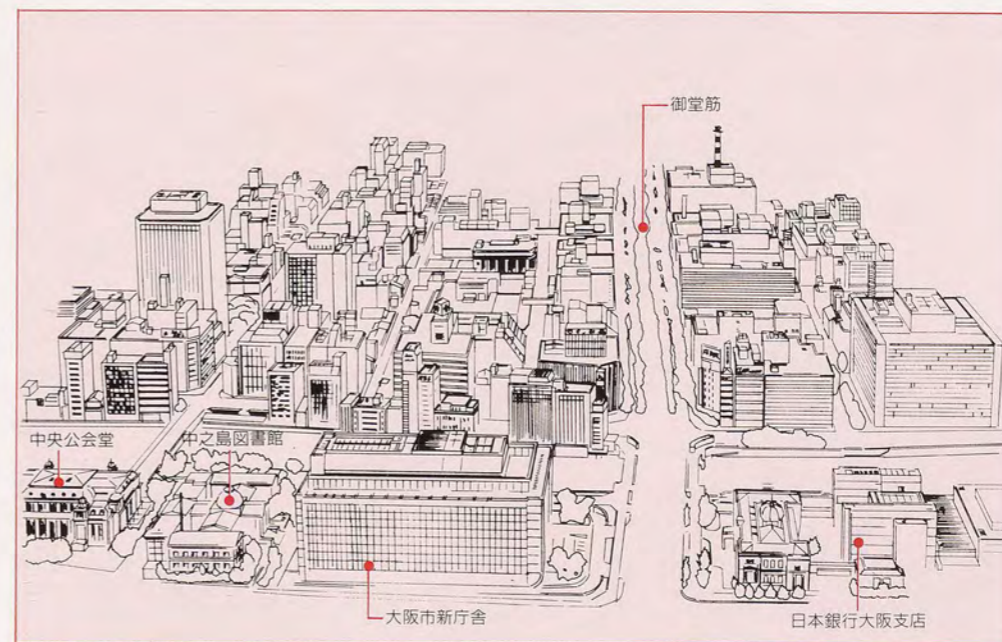
同窓會會長 磯野 齊
學長 山本 晴義……………44

同窓會支部役員……………43

事務局だより……………93

都市型大學をめざし、
自由と融和の
塾的精神のもと、
感性豊かな一人びとりを
世の中へ。

學校法人 大阪經濟大學理事長 鈴木 亨



●表紙写真

御堂筋上空から南へ向かって、中央公會堂、中之島圖書館、大阪市新庁舎、日本銀行大阪支店をとらえる。
(昭和63年10月4日撮影)

●表紙題字

名譽會長渡辺達好氏の筆によるもの。

緑ゆたかなキャンパスのもと、
未来へ向かう研究が始まる。



⑬大学院館



⑤本館



⑥図書館



⑨芸術会館



⑩体育館



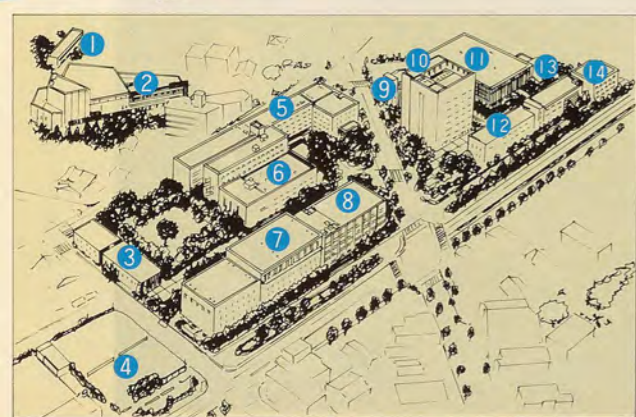
⑭50周年記念館



記念彫刻「風」



②学生会館



①学生クラブ室 ②学生会館 ③学生クラブ室 ④テニスコート ⑤本館 ⑥図書館 ⑦D館
⑧C館 ⑨芸術会館 ⑩記念館 ⑪体育館 ⑫B館 ⑬大学院館 ⑭A館



⑧▲C館



⑦D館▶



- 生賀 豊 (16) 日産懇話会事務局次長
- 高橋時造 (16) 財建設物価調査会 副理事長
- 濱淵隆男 (16) 吉原製油株式会社 常務取締役
- 田中富三 (18) 日立金属株式会社 機械事業部長
- 井阪健一 (19) 野村證券株式会社 委託取締役
- 前田悦子 (13) 総務・広報部参与
- 波根伸俊 (32) 広報部長(司会)



昭和63年8月3日(水)
日立金属株式会社「高輪和彊館」

特集 座談会

心のふるさと、我が母校

東京のOBは、今

'88年度同窓会総会



▲総会風景



▲受付風景



▲功勞者表彰



▲逍遙歌作詞作曲者表彰



▲パーティー風景

「澱江」座談会も4回目

司会(波根) 本日はお忙しい中、同窓会機関誌『澱江』の特集座談会にお集まり頂き、厚くお礼申し上げます。これは『澱江』の座談会としては4回目になりますが、今回の座談会の特徴は二つありまして、一つは卒業生だけの座談会であるということ。二つ目は大阪の地を離れて首都東京へ、同窓会の広報部が出かけて来て座談会を行うということ。今後いろんな場所、いろんな方々にお集まり頂き続けていきたいと思いますが、今日がその皮切りの座談会でございます。

本日のテーマは「心のふるさと、我が母校、東京のOBは、今」ということで、いろいろお伺いしたいと思っておりますが、今回特にお集まり頂いたのは、(大阪経済大学は旧高商以来既に五十数年を経、その間社会科学系単科大学として多くの卒業生を世に送り出してきましたが)首都東京の、しかも有力企業の第一線で経営に当たっておられる方々にお集まり頂いたわけでございます。

ではまず最初に、自己紹介をかねた近況報告をお話し頂きたいと思えます。順序はこだわらないのですが、今回纏め役でお世話頂きました田中先輩からお願いいたします。田中 弱りましたな。生賀 司会のいう通りして下さい(笑い)。司会 のちほど現在の地位になれるまでの苦労話、学生時代の思い出、そして最後に母校への提言・要望について、そういう内容で

やっていきたいと思えます。

母校の名誉のために(田中)

田中 私は昭和27年、大学第1回の卒業でございます。ゼミナールは黒羽先生でした。実はアルバイトで忙しゅうございましてね。とにかく苦学生で、学校にいく日数は極めて少



田中 富三

なかつたのですが、まあなんとか卒業させて頂きました。その年、日立製作所から大学に募集が2名来たわけです。それで応募したのですが、その日立を受けたいきさつというのがおもしろございまして、私は貧乏学生だったものですから、大阪より東にいったことないわけです。列車に乗って東京で試験あるところをひとつ受けてみよう。受けましたらどういうわけか採用されました。当時50人入ったんです。茨城県日立市の日立工場というところで入社式がございまして、そこで2カ月間全員集合教育だったのです。そして「新入社員名簿」を貰ってびっくりしたわけです。要するに帝国大学ですね、昔の。これが8割で、この中から何年勤めるかわからん

けれども、大変なことだということが、入社当日の感想でございました。

それで集合教育を受けたあと、私は日立の関西支店に配属になりました。それ以来営業一筋にやって参りましたのですが、昭和31年に日立製作所があまりデカくなり過ぎたものですから、会社を分離することになり、日立金属、日立電線、本来の日立製作所の三つに分けたのです。そのとき私は金属の仕事に従事していたものですから、そのまま横滑りとなつたわけです。

45年に東京へ転勤いたしました。依然として営業部門だったのでございますが、60年から取締役機装事業部長をやっております。システムとかプラント部門です。これはどちらかというとは本来技術屋さんがなるべきポジションなんです。技術部門を含めて工場を運営しなければいけない。要するに工場を持つた一つの独立事業部ですから、本来技術屋がやるべきことを事務屋でしかも営業畑出身の私がやっております。かと思つたのですけれども、かえって素人の強みということで、物事を客観的にとらえていけるというので、なんとかやって来ております。

先ほど申しましたように会社に入ったとき非常に驚いたわけです。旧帝国大学が多くて、この中で大変だな。そのときに感じたのは、キザないい方ですけども、「彼らの倍努力すればよいのじゃないか。よし、やっつたれ」という気にさしてくれたわけです。まあこの先どうかわかりませんが、母校の名誉のために(笑い)なんとか今までやって来た

わけです。

幸いにしてわが母校の卒業生は、数は少のうございませけれども、3人ばかりあとに続いておりますし、この人たちがとても優秀なんです。それから日立金属グループが後輩を採用してくれまして、その人たちが中堅になっていきます。実は昨年の11月に「日立大樟会」という会をつくりました。何人おりますかな、そう17人です。

高橋 それは系列を入れて。

田中 日立金属グループですね。去年第1回目の会合をやりました。大阪で。今年同窓会総会に合わせてやろうということを決めております。大変結束しており、皆それぞれの職場で頑張っており、評判よろしゅうございませす。

前田 去年の『澱江』に記事を出して頂きましたね。

田中 取りとめないことを申しましたが、一応そのくらいで。

統計学が役に立った(高橋)

司会 高橋先輩、お願いします。

高橋 この中で私だけはおちよつと毛色の変つた半官半民の財団法人におります。私どもが卒業した25年というのは非常に不況の年でございまして、いわゆるシャウブ勧告の受け入れ、これの関連でデフレ政策が行われ、物価が24年から下つて来たのです。各事業会社も緊縮で、まあ学校への求人もほとんどが金融関係くらいでして、非常に苦労した。そんな



高橋 時造

規模は職員が276名、全国的に出先支部を置いて直接調査をしております。田中さんのと

ころなんかも本会の資料を利用して貰つていたのでございませ。

田中 いや、これはもう大変なものですよ。

高橋 まあ、橋だとか住宅だとか、いろんな建設をするときの予定価格の査定、それから調査研究の委託を官公庁、公社公団等から受けてやっております。皆さんのところから見ると非常にささやかな、年間45億くらいの事業予算でやっております。学校の勉強をあまりやらなかつたのですけれども、一番役に立ったのは統計学ですね。何先生でしたか。一番実務的に役に立ったのはこれで、それから付け足して勉強ができたということで、非常にありがたかつた。

田中 木村保重先生、統計学は。

高橋 そして、たまたま30年代の後半に、建設省の会計検査で、建設工事の原価計算をもう少し合理的にやるよう勧告を受けていたのですが、予算がなくてなかなか研究できない。それじゃ私がそれに取り組もうかということ。実は2年ばかりでやりました。それから引き続き技術研究補助金を2年度に亘つてつけてくれたりしまして、それを二応やり遂げたということで、38歳かだったのですが、理事に選任されて、現在までやっております。ところで公益法人に対する世の中の風当たりが非常に強いものですから、なかなか運営もむずかしいことで、頭を痛めておる昨今でございます。

まじめ一筋(生賀)

司会 今度は生賀先輩。

生賀 私、この6月まで日産火災海上保険という、損害保険会社に勤務していました。昭和25年専門学校で卒業し、就職するよう考えておりましたので、ゼミの方も商法で西島彌太郎先生に入っておりました。そういう関係で就職の話をしてましたら、「私が入れてあげます」「それじゃお願ひしましょうか」ということで、実は日産火災がなをやっている会社か知らなかったのです(笑い)。

田中 法律顧問しておられたんでしょう、西島先生は。

生賀 西島先生は久原に在職されたことがあり、日産系列には知己がおおかつたんです。

田中 久原商事ですね。

生賀 そうですね。あの時は私もまじめでしてね。勉学一筋——そういつちやちよつと体裁いいのですが。

田中 いやいや、その通り(笑い)。

高橋 ぼくらと違ってまじめだった。

生賀 それは和歌山の近くからの遠距離通学だったものだから、のんびりしておられない。食糧事情が悪い、電車の回数も少ない、学校終れば早く帰らなければいけない。余裕がないというような事情だったのです。

西島先生の紹介で日産火災に入りまして、37年に東京本社の秘書をやれということが出て来たわけです。それまでは大阪の庶務をやっておりましたので、大学の方には就職関係

の先生といろいろ付き合いつつ連絡は結構やっていた。東京では6回卒の土手勲次先輩がおられまして、その方が母校愛に燃えており、後輩をたくさん入れようということ、いろいろ盡力しておられました。大学の就職担当の玉井井上先生に会社に立ち寄って頂いたり、そういう連絡をしておりましたが、土手さんがおられなくなつてから私の力不足もありまして、学校との連絡が途絶えてしまいました。それに、今日久しぶりに皆さんとあひさつするということ、大変失礼しました。

仕事は損害保険会社ですから、海上保険関係の仕事をやりましたが、主に総務畑、まあ総会对策もやりましたし、秘書もやりました。現在は田中さんご存知の日産懇話会というところで、日立・日産グループ、旧日産コンツェルンの会社間連絡の世話役のようなことをやっております。今までの秘書という仕事の関係から、社長会の世話係を受持っています。



生賀 豊

昔から私どもの会社には、西島先生の関係があつたのか、母校の卒業生が結構おるので。私の同期で2名。同じく大阪経大の1回

谷支店、大阪支店の営業部、丸ノ内支店長のあと本店営業部長ということで、満18年間営業の第一線をやっておりました。

入社したのは、旧制大学、新制大学同時の卒業で、えらい就職難のときでした。野村證券には76名の入社でした。先ほど田中さんのおっしゃつた通り名簿を見ると、みんな一流のそうそうたる大学卒業で、大阪経大及び専門学校からはかつて野村證券には誰も入ってない。大阪経大出身の第1号だということで、学校からも「君が途中でへこたれるようなことがあると、あと卒業生がいけなくなるから、どんなことがあつても歯をくいしばって頑張れ」といわれましたし、何はともあれ頑張るしかない。あとへは退けんというので、セールの仕事を18年やつたわけです。

野村證券という会社は非常に開かれた会社でして、学閥もなければ派閥もなにもない。とにかく仕事をやつた人は引き上げる、若手の抜擢。そういう会社だったものだから、私は取り得がなにもないものの人が外交に1日10軒回るときは15軒でも16軒でも回る。3割増し、5割増し余計回れば犬も歩けば棒に当たるといふことで、徹底的に外交をし、帰社したらプライベート・レターをお客さんに出し、そんなことをずっと続けておりました。それが結果としてよかつたのか、お客さんにも割合かわいがつて頂いて、客から客へと次々紹介して頂いた。そういうようなことで営業成績が割合いい方になつたんだろうと思います。

18年間営業をずっとやつておりましたが、

昭和46年に株式会社として商品本部に入り、以後12年間株式畑で相場に密着した世界におりました。58年の末、野村證券副社長から野村投資信託委託会社という、ちよつとおわかりにくいですが、投資信託を運用する会社に変りまして、そちらの方の経営を仰せつかつたのです。以後5年半で今日に到つているということでございます。

高橋 一度、機会があれば井阪さんに聞きたいと思つていたんですが、評論家の厚田さんの『調査力』という本で、井阪さんのことを取り上げているのです。若いながら抜群の成績をあげたこと、また、そのために人のやらない努力をし、調査に力を入れたと。

田中 私もずいぶん拝見しましたよ、いろいろな雑誌で。

高橋 それをうちの職員が見まして、「こんな出ていますよ」というので、こちらも非常に鼻が高くなつた。

司会 じゃあ最後になりましたけれども。

出会いを大切に(浜淵)

浜淵 さつきの田中君と一緒に27年ですか、第1回の卒業生です。ゼミは木村先生、ケインズ経済学。ところで先ほどから伺つていて、皆さんのように一つの会社一途に來られたというのを非常に羨ましいなあと思つていました。私は非常に流浪の民をいたしまして、現在は吉原製油という会社でございます。これはまた古い会社で安政2年創業、日本で油では一番古い会社。もちろん生まれつき油売るのが

生、田中さんの同期で2名。それ以外にも後輩が入つて居るのですが、実は今日人事で調べてみましたら、50年に入つたあと途切れているのです。どういふ関係で途切れているのかと人事課長に聞いてみたら、「毎年指定校として大阪経大には採用申し込みをして居るんですけども、なかなか合つた人がお互いに見当らんのか、入つていないんだ」ということでした。

それから余談になりますが、私は卒業してから神戸経済大学の第2学部に移りましたが、同窓会が二つに跨がつておりまして、神戸の方の同窓会の連中も日産火災に17、18人、大阪経大の方も17、18人おりました。両方の後輩を比べましても優秀なし、かえつて大阪経大の方がバイタリティーがあつてガンガンやるような形でやつて頂いております。その点氣を強くしておりますが、正直いまして、両方の卒業ということ、どちらも立てなければいけないというような形な感じです。

人一倍の努力(井阪)

井阪 昭和28年卒業、大学になつてからは第2回卒、田中さんの1年後輩になります。ゼミナールは木村保重先生、近代経済学でございました。野村證券に入社させて頂いたのですが、そのときは竹林庄太郎先生にお世話になつて紹介して頂いた。こういういきさつでございます。28年本店の投資相談部に配属されてまして、東京でございますが、そのあと洗

うまかつたのですが(笑い)、本物の油を売るようになりました。

そもそも大学を出ましたときは、就職が非常にむずかしく、おやじの知人を頼つて砂糖業界に入つたのです。当時統制撤廃になり砂糖がまだいいころだった。砂糖の販売会社に入つて、約10年砂糖をやつておりました。ところが昭和30年の半ばごろから、ご承知の流通革命がはやされまして、日本でもちらほらスーパーマーケットがアメリカあたりから入つて来た(まだダイエーさんが1、2店だったころですが)、アメリカにセーフウェイというスーパーマーケット、これは世界で一番大きかつたのですが、ここと住友商事が日本でスーパーマーケットをやるといふとき、一緒にやらんかというお話があつて、これを住商で担当したのがMさんなんですけれども、この人に招かれて、砂糖も飽いたからスーパーやってみようかといふことで、スーパー業界に入ったのです。そして非常に苦勞いたしました。なんのノウハウもない、ただまねてやつて居るわけです。ただアメリカから外人が5、6人来て指導してくれて、朝から晩まで英語の会議でスーパーを学んだ。現在東京でサミットというスーパーのチェーン、今は相当なスーパーになつてますが、こまでくるまでには非常な苦勞もありましたし、初めは赤字も累積しました。アメリカのセーフウェイが日本じややっぱりむずかしいということ、2年後に逃げ出しました。その後住友商事だけで100%子会社のスーパーを続け、何とか軌道に乗つて、今ではかなりの黒字も出る



浜淵 隆男

ように成長しました。そしてようやくホッと
し、これで楽できるなという矢先に、住友商
事から派遣されて一緒に仕事をやってきた専
務のKさんが吉原製油の社長になられた。吉
原製油というのは今、住友グループですが、「お
前米い。どうしても来ないかん」ということ
で、また赤字の油会社に入ったのが56年、従
って油屋の名刺出して常務といいますが、も
う油のベテランのように（笑い）思われます
が、まだ5、6年の素人なんです。従って油
のことあんまりよくわかりません。わかりま
せんが、今のところ五つの部門を担当して、
何とかやっています。

このように、私だけがあつちいきこつちい
きしているのですが、決して自分が望んでそ
うなつたのじゃなく、人との出会いの中から
何となく自然とそういう道を歩んじやつたな
という気がします。去年東京の同窓会に何わ
せて頂き、久しぶりに陰下君に会ったので
が、彼は「お前みたいな勉強せん男がなんで
会社の役員になつたのか」（笑い）、というこ
とをいわれました。事実そうで、私は自然と
そういう人の繋がりが自然とこうなつちや
つたというのが実情で、自分自身はなんの実

力もないというふうに思っております。
生賀 いや謙遜ですよ。
浜淵 そんなことで、今油屋で一生涯命油売
っております（笑い）。
生賀 アメリカ式スカウト人事で。
高橋 近代的な人事だ。

企業経営とこれからの人材

司会 どうも司会者が大先輩を前に少々固く
なっておりますし、自己紹介はご謙遜のご発
言が多いのですが、最近の仕事関係のお話し
をもう少しして頂いて、それから母校にまつ
わる思い出に移っていきたくと思います。
生賀 やっぱり井阪さんあたりの抱負ですよ。
高橋 ぼくも厚田さんではないが、井阪さん
は大変な努力家で抜群の成績を上げられ今日
があると思いますが、基本的には人とは違つ
た努力の結果だと思えますね。日々の積み重
ねというのが5年、10年、20年というトレ
ンドの中で、非常に大きなものになってくる
ということを感じましたね。そこら辺でひとつ
井阪さんの実体験を聞かせて頂けませんか。
井阪 私そんな力あるわけじゃありませんが、
幸い会社に入つてからいい先輩、また同僚と
かに恵まれた環境のおかげで、まあやっつい
るわけです。
投資信託という仕事は日本で今52兆円の資
金になっていきます。野村投資信託はおかげさ
まで14兆円の資産を運用させて頂いてまして、
大体シェアが26%ございますでしょうか。こ
のうち野村証券が大体80%以上、残り20%弱

が日本全国の証券会社二百数十社社で取り扱つ
て、売って頂いているわけなんです。けれど
も、やっぱり仕事をやっておりまして、金融
という仕事はのれんというか、野村という信
用が非常に大きな比重を占めるものですから、
のれんを傷つけないように一生懸命運用する。
利回りが国債の利回りより1%でも2%でも
有利なように計算しながらシステムをつくつ
て運用する仕事をやっております。ただ相手
が変動する相場商品ですから、努力の函数と
しての結果が出て来ないで、当り外れがかな
りあります。それをどう調査してパフォーマンス
として成績を上げていくかというのが、投
資信託に従事してからの一番大きな悩みなん
です。ただ仕事の将来性、アセットマネージ
メントのビジネスというのは非常に将来性の
ある仕事だと思えます。だからこれから大阪
経大の卒業生も大挙して証券界、金融界の方
に来て頂いたら、非常に運が開けていく、特
に日本は円高で通貨も強い、経済のファンダメ
ンタルもいい、世界経済を日本がかなりの部
分リードしているという時代になっておりま
すので、国際化、自由化の中で大きく伸びら
れる業種ではないだろうかというふうに思つ
ております。たまたま私が証券界に昭和28年、
竹林(庄)先生のご紹介で入れて頂いたおかげ
で、非常に幸運な業界に入れたということ、
会社が学問なものにもない非常にさっぱりした
会社だったものですから、一生懸命やればそ
れを見てくれてだんだんポジションも上つて
いく、という非常に恵まれた環境で仕事をさ
せて頂いた。その意味で野村証券には心から

感謝しています。今経営を任されている投信
の会社も立派な内容にし、次世代の人にバト
ンタッチしていきたいなと考えております。
前田 経済雑誌にもよく「井阪氏はこう語る」
という見出しが新聞広告に載るのを見るだけ
でも、私たちにすれば、アツ井阪さんは忙し
い中でもやはりこういう評論的なお仕事も
されているんだなあ、私たちのプライドに
ちにとりましても力になる。そういうご自分
の金融感覚を研ぎ澄ましていくための日々の
努力、底に流れる井阪さんの経済勉強とい
うものです。金融感覚が劣らないようにする
ための努力を、どういう形でやりになりま
したか、その辺を掘り下げて頂けませんでし
ょうか。

井阪 実は私そういうむずかしい勉強をして
おりませんで（笑い）、野村証券から委託会社
にくるときに証券の田淵会長、社長に優秀な
部下を貰つて来たのです。こういう人を下さ
いというんで、そういう優秀なスタッフをキ
ーパーソンとして連れて来まして、それを重
要なポジションにおいて、そういう人たちが
やってくれているのです。だから私自身は
そういう理論とかガクが特別あるわけじゃな
くて、優秀なスタッフを纏めて、人間関係を
作り、それを纏めて一つの方向をきめて走る
んです。走つてみてあと誰もついて来ないと
きは、これは「方針の問題」か「自分の不徳」
のいたすところだから方向転換か、自分が身
を退くよりほかないわけです。日常のビジネ
ス上の情報は、たとえば私どもの仕事でい

ば『日本経済新聞』を徹底的によく読む、精
読するということくらいです。あとはお客さ
んと会つたり、経営者にお目にかかつての耳
学問で補つていきます。ただ、情報産業とい
うことで、会社の調査情報組織がちゃんとでき
ています。また、グループとしてもですね。
それでまあ今のところ無難にいつているとい
うことでして……。
田中 そうですよ。大将たる者はいかにスタ
ッフを使いこなすか、いかに部下にやる気を
起こさせるか、それがすべてじゃないでしょ
うか。
生賀 田中さん、あなたのことも褒められて
ますよ。大所からバツと掴んでバリバリやっ
ているって。田中人物評（笑い）。
井阪 そうですね。
田中 いや、さつきの浜淵さんがおっしゃつ
たように、勉強しなかつたのになぜ役員やっ
ているのか（笑い）。それは冗談としても、そ
こだと思つて来たいです。ぼくは、目先の仕事を器
用にこなす人いるでしょう。その部分も大事
だけど、むしろ人間的に厚みのある、幅の広
い、魅力的な人、こういう人たちがこれ
からの企業に必要なだと思います。

学生時代に育まれたもの
生賀 入社したとき、官立大学のそうそうた
る連中の中に伍して、やろうというファイ
ト、なにくそという気概がなければ、やっぱ
りだめでしょうからね。
前田 やっぱり雑草のたくましさが見えん

にあつたということでしょうね。
田中 大学時代に勉強しないでアルバイトと
か、演劇部で陰下さんなんかと一緒にワーワ
ーやっていた。ああいうのが結構こやしにな
っているんですよ。
前田 結局授業にまじめに出るとか、本を何
ページ読んだかというのが勉強の総てじゃな
いということですね。部活動でいろんな人た
ちと会つたり、遊び方一つにしても……。
田中 ぼくたちのときは先生方との交流とい
うか、触れ合いというか、勉強してない私で
もやっぱりそれがありませんか。
生賀 先生の家にいった回数が多かつたな。
田中 専門学校から大学の5年間にああいう
交情が育まれていた。それが会社に入つて
もやっぱり生きていて、人とのつき合いの仕
方とか、協調の仕方とか。
生賀 私がどうして神戸にいったかといいま
すと、ESSに入つていて、私の1年上の連
中が神戸大学、当時は神戸経済大学（旧制）
を受けて入った。「それじゃおれもいつてみよ
うか」というような形で受験し、入つたとい
うことです。そういうクラブや周囲の環境と
いうものが大いに影響していると思うのです。
前田 それから先ほどお話の出たおりました
木村保重先生、木村先生は神戸商大を受験す
る者は自分のところに来い、特訓してやると
いうお話を以前聞きましたが、先生方も皆に
やる気を起こさせて、それこそ経専を踏台に
して次のランクへ進ませるような、それにつ
いて手を貸そうというような雰囲気があつた
わけですね。

生賀 それは大学昇格前の雰囲気だと思えます。私らのときはあまりそういうことは感じませんでした。
高橋 それでも夏休みには自宅へ勉強にいきましたよ。だがなにも覚えてない(笑)。
前田 いかれたという記憶がね。やっぱりそれが次のステップになるわけですよ。ほかの人たちより先生の雑談の一つ、先生の余談の話、人の知らない話を自分は知っているというのが励みになりますよ。

生賀 今でもそうかもしれませんが、やはり個人の教授と数人の学生と、それからあの当時は在校生が多くないですから、ゼミの数人との接触の度合いというのは魅力だったと思うのですよ。ですから先生の家に夜いって食事と一緒にして、そういう触れ合いが貴重で、西島先生はまた別ですけれども、ESSでも信垣先生の家にいった記憶がありますよ。今は学生の人数が多くなっており、先生方も多士済済になっていきますから、ゼミの個人的指導はやられていないと思いますが、あの当時の方が食糧難という事情もあって、そういうものがよけいに加味されて、親密の度合いが深かったと思いますね。
田中 そういうことはありましたね。

青春時代に良き先輩を得る

司会 そろそろ母校の思い出話に入りかけていますが、諸先輩の皆さんは、ほとんど関西の方ですね。
高橋 私は京都。

一応やはり啓蒙されたものですね。
生賀 藤原先生が経済原論だったけどな(笑い)。

学歌そのままの雰囲気

司会 大阪経済大学を受けられたころの思い出は？ たまたま入学されたのでしょうか。
浜淵 入れてくれたから(笑い)。
田中 私は昭和22年です。士官学校とか海軍兵学校からの復員学徒と一緒に受けたでしょう。
浜淵 競争率が割合ね。
田中 だから相当厳しかった。むずかしい時代ですよ、当時は。だから入れてくれるところならどこでもいい(笑い)。だからまたま入った。

生賀 私が1年のとき2年先輩の信太山から通学していた、高橋幸子さんの家を、1年先輩の方々と同ったことありますよ。
前田 それは14期の方でしょうね。
生賀 そういうように女子経済専門が経済専門と名前が変わっても、先輩との繋がりはいろいろやりましたよ。
前田 それで教科書を譲り渡していきますね。生賀 私は今の泉南支部の重里実(11)先輩から帽子を貰ってね。
前田 昭和高商の？
生賀 そう！ その帽子を3年間被って卒業したら返しましたよ。
井阪 私はね、もう大学はいくつもりがなかったのです。高校卒業して野球でもやってた

田中 大阪です。
生賀 私も大阪ですが、ほとんど和歌山に近い泉南市です。井阪さんは三重ですね。
井阪 三重県の伊勢。
浜淵 ぼくは神戸の隣の芦屋です。

井阪 私は昭和6年伊勢で生まれて、当時ですから軍国少年ですね。それで戦争が終つたら草野球の野球少年、大阪経大に入ったらマルクスボーイかぶれというような形になるわけですが、いなかでのんびり育つたものですから、高校卒業して大阪経大に入つて、上新庄の井上さん方に下宿しました。
前田 駅の向う側ですね。
井阪 ええ、駅の向う側で四角誠一さん(当時大阪ガス重役)の家の隣で、大きい家でした。そうしたらそこに先輩で丸善石油に入られた上岡覚(16)さんという四国の土佐の方。それから島根の八木節の陶山益三(18)さん、このお二人と同じ部屋に入れて頂いて、自炊生活ですね。先輩たちがマルクスだとかエンゲルスだとか。そういう話をしておられるのですけれども、私はいなかでマルクスってだれか知らないし、エンゲルスも知らない(笑い)。まあデカンショ、カントくらいは聞いたこともあるけれど、これは大変なところに来たものだ。軍国時代だからそんな勉強もしてませんし、そのあとは1年間野球して遊んでいたものですから、議論していることがチンプンカンプン、むずかしい話で全然わからないのです。これが1年の差ですから、ものすごいショックを受けましたね(笑い)。「陶山さん、上岡さん、どうしてそんなむずかし



井阪 健一

らと考えていたんです。体が小さいのに野球好きだったものですから。いなかのどこかに就職して、そんなつもりでおったのですが、家の前に私の同級生で下宿しておった方がいて、「これからは大学についておかんといかん」ということをえらい私に説教しましてね。それで、「じゃあどこにいったらいいんだ」といったら、新聞広告にたまたま大阪経済大学が載っていたのです。「これはいいぞ、名前すつきりしてるじゃないか」ということで、私はなんの予備知識もなく、「それじゃ二人で受けにいこう」と、友だちと来たんです。だから、もうそのときは慶応も早稲田も皆大学の試験終つてましてね。
高橋 よく似た話だ。私もいなか者だから事情はよくわからんし、家業の整理を手伝っていたのですが、たまたまちょっと人のツテで、ある鋳物工場の「経理を手伝って貰いたい、複式簿記ならなんとかできるだろう」ということで手伝っていたのですが、そこに入入る機械の技術屋さんが、それが大阪の機械工専出た人で、くるたびに私を掴まえて話をします。「俺は高等教育を受けている」と、得々と話すわけですね。世の中どうなる

いことがしゃべれるんだ」といったら、「この本を読め、あの本を読め」と、いろいろ先輩が、倉田百三の『出家とその弟子』とか、いろんな本をずいぶん与えてくれましたね。だが読解力がなかったんでしようね。むずかしい本は読めなくて、それで1年間くらいいいわれた通りそんな本ばかり読んでまして、ようやく議論の中へ入れたというか、そんな状態でした。
田中 それはよき先輩に恵まれましたね。
井阪 ええ、よき先輩で、だから大阪経大に入つて、夜になると、あれどブロックでしょうね(笑い)。それを飲んで天下国家を論じていました。今から思うと非常に蛮カラなところもあるし、1カ月みんなが10円だか金をカシ合つて、それで3人分、共同で炊事しましたよ。だから、今思うとまさに青春時代で、そしてアルバイトはダイキンの江口工場ですか、あそこによくいきました。そんな生活で、大変大阪経大の時代というものは懐かしいし、新幹線からあの校舎を見ると、思い出がよみがえって来ます。私は大阪経済大学に入つて、初めて自分のこれまでのわからなかったことを全部啓発されました。特に先輩に。そういうことで大阪経大が自分の青春時代の一つの目覚めみたいな、脱皮させて頂いたというふうに懐かしく思っております。
田中 あのころはマルキシズムが盛んで、これは避けて通れない時代だったですね。一応は必ず通過せねばいかん道程だったですね。やっぱり最初読んだのが越村信三郎の『やさしい資本論』、河上肇の『貧乏物語』(笑い)。

田中 学校にいつてないから(笑い)。

前田 それは専門学校？
井阪 大学になってからの選択科目、割合先輩と近しく感じて指導して頂いたように思うのですね。それでずいぶん啓発されましたね。やっぱり1年先輩の人は、「お前のスペルは間違っている。なんだ、勉強せんとだめじゃないか。こういうスペルだよ」と教えて貰って、そんな校風があったように思うのですよ。田中 そういえば私もお付き合いする範囲は1年上と1年下、前後で3カ年ですね。多いんですよ。

高橋 非常に驚いたのは、私なんかが入ったときは、商業出と普通中学出と別の試験だったですね。クラスも別で、生賀君と一緒にだったかな。
生賀 そうそう、ぼくは商業だから。
田中 だから簿記なんかやったわけですよ。
高橋 そうすると「今年入った新入生は英語の試験成績がよくない。希望者は集まれ」と空いた教室を使って先輩が、だれだったか若月さん、あの人が2、3人で英語の特訓をしてくれた。記憶ない？

田中 ぼくは覚えてませんけれどもね。そういうことをやるような学校というのはいずれです。上級生が下級生を特訓する学校なんて。高橋 ぼくは一応顔出したが、2回か3回でなぜか沙汰やみになった。
田中 レベルが上がったんだ(笑い)。
前田 じゃあ若月さんはいろんな形で後輩たちを指導したのですね。
高橋 そうそう、先輩はほんとうにいろんな

つて来たかというところ、リスクは自分が負うからとにかく成功例をつくらう」ということで、まず成功例をつくる。そして、「このように次やってみる」とやらしてみる。そして、今度は任せちゃうというようにやらせて来たわけです。やはりそういうリスクをなんといたしますか、失敗したら自分がこうなるというところで逃げてますと、これからの厳しい世の中では部下を引張っていけないと思います。それから、先生方にぜひお願いしたいのは、必ずしも勉強だけが総てじゃなくて、なにかこう人間的なぬくもりといたしますが、これも一般論なんですけれども、たとえばそばにいるだけでホッとするような人がいますね。そういう心の豊かさを重視する学風といえますか、大阪経大出の人間は一応人並みな常識は持っているけれども、人間的にはなんかホッとさせるもの、ぬくもりというものを持っている。なるといって大学にして頂ければ、世の中に出たら必ず役に立つ人になると思います。私が歩んで来た経験から、学風としてそういうものができるだけつくって頂ければありがたいなと、そう思いますね。
田中 今のお話に盡きるのじゃないですか。
高橋 骨太のしつかりした人間を養成して頂ければ、それからもう一つはこれからやっぱり国際感覚をどう身につけるか、これを抜きにしては語れないでしょうね。勉強の中に感覚的に注入されていると、非常に役に立つのじゃないですか。
田中 日本の経済も、日本だけで考えられないです。世界の動きの中でどうなのか。

ところでそんなことを。
田中 例の大学昇格運動のとき、なんといつてもあれはもう一丸ですよ。
前田 そうでした。今の状況からは想像できないのですよ。あのときの生徒自身が受けとめていた危機感というのは。
田中 あのときは自治会を中心に全学生一体の盛り上がりだった。
高橋 大変なものでした。

母校と後輩に望む

司会 それでは纏めといたしますが、母校も過年50周年を迎えまして、立派な記念館も建ち、着実に充実しているわけですが、われわれ卒業生は誰しも、母校が誇りあるものであってほしいと思います。その辺の将来へのご提案とかご要望をお話しして頂きたいと思えます。特に大学の昇格運動に関係された方々と、そういう話がまだあったか時代が学生生活を過ごされた方が本目お見えだと思えますので、その辺とも関連づけて、母校の発展のためにお願いします。

前田 あのとときは今でいう自治会だけが昇格運動に向うというのじゃなしに、運動部も学芸部もいろんな形で生徒が結集しましたですね。それが今の時代とちよつと変つてきているのですが、自治会に籍をおいていて運動部にも籍をおいているということもあると思えます。
生賀 今は大きくなり過ぎて、広がっているという感じでしょうな。

高橋 産業の構造改善はいろいろいわれるけれども、これからは流通改善、物価を見ておつてもつくづく感じますよ。大規模化の問題なんかもむずかしい雲行きになっているように感じられます。
田中 だからわれわれが学んだ経済学も、いまやここに来て、景気変動もああいう方程式になってないでしょう。要するに地殻変動です。三原山の爆発みたいなものです。あの日突然グラグラつとくるわけですよ。円高問題、株問題、みんなそうです。地殻変動です。だからそういうときにいかに変化に対応できるかという人間が大事でしょうね。
高橋 オタオタしてしまわないでね。
田中 いかに変化に対応しているか、国際感覚も含めて、そういう人間を養成していかなければいけないでしょうね。
浜淵 ぼくなんかちよつと神がかり的ないい方をしますけれども、努力だけじゃだめだと思ふのですよ。努力と運が必要だと思ふのです。おそらくここにおられる井阪さん初め皆さん非常に努力をされている。しかし努力でこういう地位になられたかという、そうじゃなくて、やっぱり人との出会いとか、いい人と巡り会ったとか、これを運といえれば運だけども、その運というものは偶然くるものじゃないに、自分が持っている人柄というものがあるので、そういう人たちとの巡り合わせになっているので、そういう意味で先ほどいいました、なんかぬくもりのある人間性のある人たちが、大阪経大からどんどん出てくれればいいなという感じがしますね。

前田 だから一部の自治会だけがやった仕事



前田 悦子

じゃなく、みんなで昇格を勝ち取ったんだから、胸張って堂々と自分たちがつくった大学だという気持がまだまだ強いと思えます。みなさんはそれを通じて、今度は社会人として卒業生を迎え入れる立場になっている方々なんです。その場合にこういうポイントの後輩たちに望むとか、そういう面からお話を進めて頂けませんでしょうか。

浜淵 じゃあ私から。私の経験では、「世の中であつては優等生という人たちが必ずしも社会に出て役に立つとは思わない」ということも実感で経験して来ているわけなんです。だからみんな大阪経大を出たということの自信を持って頂きたい。たとえば私の歩んで来た道でも全部が全部じゃないけど、国立出あるいは旧帝大出の人たちを追い抜いても来たし、あるいは部下に使つても来たわけですが、やはり官立出の人たちは総じてプライドは非常に持っていますが、なんというのですかね、エリートだけに自分で泥を被るというのを非常に逃げる傾向がありますね。われわれはエリートではないのでとにかく頑張らなにかんというところで、どうして部下を引張

田中 厚手の、幅の広い人間ということでしょうね。

社会のニーズと母校

司会 そういう人を育て、学生を育てるときに、大阪経済大学よりもっと歴史の浅い大学があとからどんどんできて、また大学の規模としても大きくなり、世間でも名前も売れてくるような状況もあるわけですが、その中で会社経営をなさつておられて、大阪経大が経済、経営の伝統ですつといくのか、やはり大きくしていった方がいいのか、その辺のお考えはいかがでしょう。
浜淵 ということは学部をふやすとか。司会 大学経営で、大学の将来についてもしなにかお考えがあったら。
高橋 人の養成というのと学校経営というのとまた違うわけですね。だからそこらが非常にむずかしいでしょうけれども、私は大学経営の活性化とか、いわゆる社会がなにを今求めているかという観点からみますと、やはり男女雇用均等法もできたわけだし、女性の戦力アップというのはこれから非常に重要視していかねばならないと思います。
人事関係の方々の話を聞いても、女性の仕事ができるということ、どんなところが評判がいいかというところ、津田のスクール・オブ・ビジネスとか――なぜかというところ、やはり企業がなにを必要としているかというところ、よく捉えてやっていると、どう思うかというところ、それでぼくは前にも一度申し上げ

たことがあります。昔、女子経専時代もあつたことだし、私も学校に入ったときに非常に女性がなくて驚いたのだけれども、非常になごやかでいい空気があったですね。だから女子短期大学をつくって貰って、そういう時代の要請にこたえる女性を送り出して頂ければ、活性化と両方で非常に役に立つのじゃないか。浜淵 今何人いらつしやるのですか、学生さんは。

前田 6,000人強ですね。

高橋 単に学部をふやしても、ただ薄くなつていくばかりですから、それこそ個性豊かな人育てというふうにやって頂いて、大阪経済大学女子短期大学、たとえば経営と情報と国際科ですか、お嬢さん集まれといったら、実利的な個性を持った人を送り出して頂けるのではないかと思つています。

前田 もう一つお聞きしておきたいと思うのは、母校からかなり離れた東京へ現在出ていらつしやつて、40年のキャリアをお持ちになられたということですが、たとえば、



大学4年を終えて実務に就いた。実務に就いたけれども、さらに証券関係等々きめの細かい勉強をもう一度したいという要求の方が仮に出てきた場合、それが大阪周辺の人たちの場合だったら母校へまたリサイクルすることが出てくる。東京にいたらそれはできない。その辺でなにか今までお感じになったことございせんか。

井阪 今、社会がそういう方向へ進んで来ていると思つてますね。今の大学の4年の教育の中で、専門科目でも社会に出てきて仕事するには役に立たない。そこは体系的な学問の系譜というか、そういうものがわかる程度で、社会へ出てくると、より専門化された、細分化された事柄がいっぱいあるわけで、そういうことをもう1回やる必要がある。目的意識を持つてもう一度大学で勉強する。こういうことが社会的なニーズとして当然出てくると思つてますね。

田中 私の会社も技術系はそれがあるので。よ。会社に入つてからの留学です。もう一度勉強のやり直しをするわけです。医者の世界でもそうです。昔の医専出た人は再勉強しなければついていけないでしょう。

井阪 金融とか証券の仕事でも、われわれのときは、金融論と証券論というくらいの分け方だったので。ところが証券市場の中でアセットマネージメントとかポートフォリオ理論とか投資信託とか、細分化して、海外の大学ではそういう講座ができています。各大学、官立大学でも冠講座という企業が資金を出して、たとえば日立製作所が

——当然産学共同でやってもらえるでしょうが、超電導の講座を出すとか、いろいろそういうことが出てくると思つてますね。

私どもも今会社が30周年ですから、そういう講座を会社の設立記念としていろいろ委託しようという方向が出てきています。だからそういう専門化、細分化の方向が一つあります。更にいわゆるビジネススクール型が一つ。もう一つはより大きい、これは大きいマーケットだろうと思つてますけれども、大阪経済大学は絶対にこの素質があると思うのですが、女子経専だった経歴がありますから、今家庭に入っている短期大学卒業の奥さん方、子育てが終つてカルチャーセンターはやりだったので、それに飽き足りなくなつてくるので、そういう人たちをもう1回吸収する、それは東淀川の大隅通だったらできると思つてます。あまり郊外だとそういうマーケットがございせん。もうこれからは20代、18歳から22、24歳までが教育期間じゃなくて高橋 そう、生涯教育。

井阪 そういうことになると、男子の場合は社会に出てきて、必要性があつてもう一度勉強しよう。女子の場合は家庭で子育てが終つたらもう1回自分の趣味を生かして勉強しよう。そういうふうなマーケット別にやつていくと、かなり変わってくるのじゃないか。昔、中京商業とか亨榮商業だとかいうと野球の学校だったのだが、今、中京高校は受験校、進学校に変わつて。これは世の中の変化を掴まえていったと思うのです。そういう中で大学を大きくすると、全部を商業主義に乗

つけるという形にはいろいろ問題があるでしょうが、ある意味じゃ大学が大きくなつていかなければいけない。それから名前を天下に知られるようにしていかないとけない。好循環しませんから。そういういき方があるのじゃないでしょうか。大阪経済大学の東淀川の校舎、それは立地条件としては恵まれていると思うのです。少し郊外ですけども……。

ウーマンパワーの伝統

高橋 今、女子学生さんは何割、2割か3割くらい。

前田 そこまでいってないのです。200人までいかないでしょうね。

高橋 これからはやっぱ女性に目をつけなければいけないでしょう。

井阪 大卒の女性が企業のもの凄いい戦力になってくるのです。今年なんか丙午ですから大分とりにくいのですけれども。

前田 そこで一寸ご紹介しますと、去年、今度できました記念館で女子学生だけの会合が

あつたのです。この会合は、学生相談委員の先生方が主催され、当日は7階の同窓会ホールに100人近くの女子学生が来ました。それは日ごろ経大で見たことのないような風景で、やっぱ女子もこれだけ揃つたらかなりのものになるなと思つてました。そのときに出ました話ですが、1回生の時は、「周りが男ばかりだ、だから動物園の檻の中に入れられたみたい。爪先から頭の上までジロジロ見られて、肩身が狭くて、談話室は……。」それは声もシヨボシヨボしてます。

ところが2回生、3回生のゼミが始まり出した女子学生の発言は、これは徐々に背が伸びてくるのですよ。そうすると女子だけではないのが、この小人数のところから生まれて来ているというのがわかつたんです。そして「昔の女子経専のしたたかさが、ちやあんとこの人たちにも受け継がれているんじゃないか」という安堵感を確かめたことがございしました。だから今おつしやつていましたように、「昔短大出たけれども」という主婦たちが入つてくれば、かなりこれは男性に刺激となる状態が学内に雰囲気としてでてきますわね。それをゼミ形式でだんだん学生同士の先輩、後輩の形で年代を超えたものにして（そういう学風が昔あつたんですからね、それを復活させるという意味でも）今、井阪さんのおつしやつたように、学科別、コース別というのですか、そういう形の再編成が生まれてくれば、これからの発展も期待できますわね。

伝統ある国際的活動

高橋 これはちよつと別の話になるのですが、昔「支那経済研究所」というのがあつたのですか。

前田 はい、ございました。

高橋 あれはどういういきさつでできたのですか。

前田 『道理貫天地』の本（昭和62年同窓会発行）に多少触れてございますけれども、黒正先生があつた当時、日支事変のときに、上海に軍人が接収した家屋があつたのです。そこに中華経済研究所をつくられ、1人だけでしたけれども、研究員を派遣されてましてね。そうして向うの情報をこちらへ送つて来させたものを、菊田先生たちが翻訳されて、それを今でいう「ダイヤモンド」「東洋経済」の原形みたいな、日報的なものを出して、それで業界との交流をつくつて売つておられた。そういう時期があつたのです。それは昭和50年代とは別で、独立採算の形で、80何号でしたかね。

高橋 各企業を会員がなんかにして。

前田 はい、会員制にしまして、会員にこのくらいのB5の横とじにした速報でしたけれども。ところが、当時大手の出版社がどんどん類書を出しかつて来て、たちまち、経営難に陥つたわけです。それであの建物も、研究所の書籍も、全部昭和50年代が引き取つたという事です。当時から支那経済研究所という研究所名が建物の名称になりまして、ずっと長い間来まして、今学内で一番古い建物に

なりました。
田中 右の方でしょう。通用門入って。
高橋 前にクラブの部屋があった。
前田 そうです。今は大学院館といっています。
だから母校を訪問される古いOBの人たちは、あの建物をあのままの形で結構だから補強して、大隅校地のどこかに、保存館という形で、資料館的な形で残して貰いたいとおっしゃるのです。

高橋 支那経済研究所があったという、それがこの間拝見した書物ではわからんのですが、これから世界を見渡すと、やはり中国は日本に対して大きな影響力をもってくるでしょう。そのためにはこつちも勉強しておかなければいけません。現在アジア研がやっているくらいで、系統的にやっておられるところもあまり知りません。中国はまだまだ試行錯誤はあるけれども、やはり同じ土俵の上での企業活動なり経済活動ということになってくるだろうと思います。そういう過渡期の非常に重要な時期でもあるのです。データ収集を今から心掛けていけば、10年先くらいにこの地道な活動が開花してくるのじゃなかろうかと感じております。

浜淵 不勉強なんですけど、今学部なにと間に。 **司会** 経済と経営があつて、それぞれ昼と夜間の4学部制になっています。
高橋 それと大学院でしょう。
井阪 大学院は今の生涯教育、一度社会に出た人がもう一度入る、こういうことになっているのですか。

生賀 あのととき専門と大学とに分れていたからね。
田中 だから上級生から下級生までみな顔知ってましたね。名前は覚えんでも顔見たらわかる。
生賀 印象がほんとうに濃くなっていったな。
高橋 今いっておられた話は東京の大学でもどこか2校ほど始めていますね。社会人の受け入れをね。
井阪 海外に勤務している人の子女の教育が問題になっていますが、それを優先的に受け入れる大学が必要になって来ているのですね。今、関東では立教と上智がそれを受け入れているのですが、関西ではそういうのがありますか。

司会 同志社が。
高橋 やっぱそういう関係の学校だ。
井阪 あれ必要だと思つたのですが、それやっていますとずいぶん国際化になる。
浜淵 そのニーズは多いですね、今。
高橋 昔商業と中学出身者に分けて、その代わり1年間は、
生賀 クラスが別だった。
高橋 そのために数学とかそういった単位をとらなければいけなかった。そういうのがあるのです。そこらをやはり国語なりに1年間重点をおいたカリキュラムをつくらばいい。
井阪 世俗的ないい方ですけども、女子学生がたくさんくると男子学生がついてくるのですよ。そして外人が入っているとまたよく集まる、というようなことがあるみたいですね。

司会 そうですね。そのためにはビジネススクールの、研究者養成だけでなく、アメリカのビジネススクールのに充実しないとできないと思います。

話はつきず

井阪 それと大阪経大の卒業生は割と自営業が多いのでしょうか。次男とかそういう人はどこかに勤めるということになれば、一つの業界に集中的に入っていくと、ずいぶん業界が変って来ますね。また学校のネームバリューが変ってくるのじゃないでしょうか。私どもの野村證券にも卒業生が20人くらいおるでしょうか。今ちよつと私も詳しいデータを持つておりませんが。
田中 一業界に集中するわけですね。非常に影響力が大きくなって波及効果がある。
司会 金融が多いですね。
井阪 金融とか証券とか、特に銀行の方は固まっていますが、証券というのは割合に開かれた社会で、努力のしがいがあります。
生賀 採用人員も多いですし。
井阪 こういうところに毎年50名とか、100名とか継続的に入ってくる、10年経つと1、000名になりますから。これはかなりのパワーです。そういう可能性があると思うのですね。私も4、5年前でしたか。大学の就職部の企画で4年生の諸君にお話をしました。あのとき、一つの業界に纏めて入れたらどうだろうというお話をしたのですけれども、今証券業界はかなり来ておられますね。この間も

高橋 だからいきなり今の制度で女子学生の募集といつてもなかなかむずかしい。そのためには女子短期大学をつくって、優秀な者は3年に編入させるという。
浜淵 女子短大の需要は多いね。
高橋 金融機関は一步進んで、4年制をどんなおとりになっている。だがやっぱ普通の企業は短大で間に合えばということですね。ところが、仕事がどんどん変わっていくから、企業に来てから皆教えなければいかん。
井阪 この間、東大の元地震研究所の竹内先生にお会いして、私の会社で招いていろいろ話を聞かして頂いたのですが、今、竹内先生は代々木ゼミの学長をやつていらつしやるのですが、代々木ゼミナールは現在生徒が20万人いるんだそうですね。
生賀 大したものですね。
井阪 今、大きいのは代々木ゼミが1番で、2番目が駿台予備校、3番目が河合塾かな、それで学生1人が年間に50万円払うのです。それが正規の学生で、そのほか夏休みだとか春だとかは小学生をパッと短期でやるとか、2週間で特別の受験の講習をやつて、もの凄利益をあげている。大変ですよ。東大にいるときはこんなことやれるのかと思つたけれども、来てみたらびびりましたといつておられましたけれども、ああいう予備校というのがあんなに隆盛を極めているという事は、なんか今の学校制度を考えさせられるという感じがしたのですけれども。まあそれと今の大学の経営と、ちよつと私どもわかりませんがね。

同窓会やりましたら、神栄石野証券、ほかに6、7名おられました。
田中 東京の同窓会でも若い証券マンが多いですね。
井阪 だから私どもも、会社をいろいろ紹介させて頂いたりしています。
生賀 先程大阪を離れて東京に居て感じる事について話がありました。母校を離れて東京に出ていますと、何か調べたり聞きたいというときに、やっぱ不便を感じますね。勝手知った母校の図書館へ行つて調べる、或いは学校を訪ねて専門の先生に気軽に聞くといいことが出来ない。東京の大学出身者はそれが出来るのに、我々は不便ですね。こんなことを調べたいと思つても、自分の知り合の方のちよつと学校に行つて来てくれと頼むよりほかない。昔陰下さんにいろいろ頼んだことがあるが、そういうことが離れているとやりにくいんですね。その点からも、ずっと先輩、後輩の繋がりと、お前ちよつと学校に行つてこれ調べて来い。社内ですういう後輩がおると頼みやすいし、学校の方の勝手も知っているからす早く対応出来るんですね。
浜淵 現在6、000人もいるのですか、大きくなったね。ぼくたちのときには何人いたかな。
高橋 4クラスでしょう。50人として200人。
井阪 私のとき800人位でしたか？
生賀 3学年だから、200人ずつとして600人。
田中 ぼくら大学第1期生は100何人しかいなかったのじゃなかったか。

高橋 それからやっぱ専門学校という位置づけですね。現在の各種専門学校ですか。新卒の学生なんかみんな画一的になって、どこかの大学の学生もみんな同じようなタイプになってしまったでしょう。そういった意味から価値観がどんどん変わつて来て、たとえば自分に向くものはなにかという選択を最近の若者はしてくるようになるだろうと思う。
田中 それとまた専門学校はいろんなコースありますね。あれが一番役に立つ。
井阪 コンピュータのソフトは一番役に立つ。
田中 即戦力になりますね。
司会 それではまだ話が盡きないところですが、これからあとは食事をしながら、記録にとりませんで、自由にお話し合いを続けて頂きたいと思つています。どうも長時間ありがとうございました。



波根 伸俊

(座談会後、母校の鈴木理事長、同窓会の磯野会長、陰下事務局長を囲んで懇親会が持たれました。)

大学の感性がインターナショナルな舞台をつくる

同窓会会長 磯野 斉



最近の情報によれば、日本の海外経済援助額は1兆円を上回り、米国を追い越すのも時間の問題だと言われています。我が国を核とする東アジア経済圏の目ざましい発展は、更にグローバルな企業の生産意欲を促進し、世界経済のシエラ拡大に貢献するものと期待されています。

かかる国際経済情勢のなか、わが大阪経済大学は、今春千三百名の新卒業生を世に送りました。経済学専門の長い伝統と、研究的環境下で勉学に励んだ諸君は、いま最も囑望される人材です。大学において習得した知識を、社会活動

のなかで継続練磨することによって、必ずや期待される社会人になる長ずるでありましょう。

また、長らく途絶えていた卒業式における同窓会長祝辞が復活し、卒業生諸君にお祝いの言葉を述べ、機会を得ましたが、誠に嬉しい気持ちでいっぱいでした。新しく同窓会員となる諸君に、同窓会長がはなむけの言葉を贈ることは当然のことと思われませんが、それが十数年の間、卒業式行事から外されたままになっていたことは、何か心許ない感じでありました。幸いにも、本年久しぶりに復元されたことは、大学の感性が戻りつつある証拠かと考えるわけであり

ます。あと4年で母校は創立60周年を迎えます。たまたま18歳年齢の減退期になるわけですが、私学の直面する危機の年でもあります。古い老舗の大阪経済大学とは言え、常に新しい真理探求の府として社会的評価をうけるには、それ相当

の努力が必要です。この時こそ、同窓会は大学と忌憚のない討議をもつて、アカデミックな伝統を再確認し、特色ある大学の価値ある未来をかちとるため、積極的協力を惜しんではならないと思います。

さて、昭和62年度決算並びに63年度予算につきましては、6月25日、全国の支部長、理事、監事100名の方がたにご参集頂き、各議案とも終始熱心なご審議を経て、総て滞りなく承認可決されました。ここに厚くお礼申し上げます。

また今後、恒例行事になるものと思いますが、昨年と同様理事会に先立って、鈴木理事長、山本学長はじめ先生方のご臨席のもと、全国支部長懇談会が開催されました。会議は極めて和やかな雰囲気

のなかに、大学を思う真剣な発言が相次ぎ同窓会ならではの感を深くしました。おわりにのぞみ、『濠江』編集にご尽力下さった方がたに心から感謝申し上げますとともに、国内外

各地でご活躍の同窓生各位のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



昭和63年度理事会盛會裡に終了

昭和62年度決算 昭和63年度予算(案)、
会則一部改正案 満場一致で可決。

◇昭和63年6月25日(出)

◇新阪急ビル12階、レストラン・パレス

◇議案

第一号議案

昭和62年度決算について

第二号議案

昭和63年度予算(案)について

第三号議案

会則の一部改正について

司会 陰下事務局長

◇定刻6時、司会者より開会挨拶

◇磯野会長挨拶

「理事各位に日頃の同窓会活動に対する協力を謝意を表し、特に支部長理事に対しては、全国支部長会に引き続いての理事会への出席の労をねぎらい、最近は理事、支部長各位の努力により同窓会活動がますます活発になり、大学当局との協調も進み、更には会員の増加に伴ない職域会の結成も多く、本部としても今後は能動的な活動を展開するよう指示していく」旨など、最近の同窓会の活動状況に

ついて説明が行われた。

◇司会者より議案審議のための議長選出方法について議場に諮ったところ、「司会者一任」の提案があり、議長に広田実理事(1)を選出した。

◇広田議長就任挨拶のあと、第一号議案、第二号議案の一括審議を提案、承認のあと、ただちに議案の審議に入った。

◇第一号議案

平尾財務部長(2)から昭和62年度収支決算について、各項目別に説明が行われた。

◇第二号議案

西本総務部長(3)から昭和63年度予算(案)について、予算編成の趣旨を各項目別に説明、提案された。

第一号議案、第二号議案について一括審議に入り、広田議長が両議案について、その賛否を議場に諮ったところ、満場一致で承認可決された。

◇第三号議案

西本総務部長から会則改正(案)の趣旨並びに主な改正点を説明。

〔改正の趣旨〕支部長会の要望により、同窓会組織の中における支部並びに支部長会の位置づけを明確にした。

〔主な改正点〕(1) 新12条に諸会議の会議の招集権者を明記した。

(2) 旧第6章 第31条「学校法人の評議員」を第18条に移し、一部表現を変更した。(3) 今回の会則改正の主要部分で、従来、支部については、旧第28条に支部の設置基準についてのみ規定していたが、

新らしく第4章として「支部」の章を設け、第21条、22条、23条に支部、支部長会に関する事項を明記した。

以上について、議長がその賛否について議場に諮ったところ、全員これに賛意を表し、満場一致で承認可決された。

◇第四号議案
特別審議事項なし

以上をもって昭和63年度理事会は終了し、広田議長は閉会を宣した。

◇松原和男就職部長よりご挨拶
前年度の就職状況の詳細についてご説明いただき、新らしい卒業生の就職についての協力依頼と日

頃の配慮に対する謝意を兼ねたご挨拶がありました。

◇中谷和一入試部長よりご挨拶
今年度の入試について概要の説明があり、母校の地方試験に際しては同窓会支部の協力を得ていることに謝意を述べ、今後とも協力を得たい旨のご挨拶がありました。

昭和63年度理事会は、以上をもってなごやかなうちに終了し、司会者が終了を告げ、別室で懇親会に移りました。

◇懇親会

恒例の通り、渡辺名誉会長の乾杯の音頭で開宴した懇親会は雰囲気が一変し、大いに歓談し、あちこちと席を立って旧知と話し合う姿も見かけられ、予定時間は一瞬のうちに過ぎてしまいました。

最後に、当日、日本列島最南端の支部から出席された南九州支部長宮田順一氏(2)の万歳三唱で、元気で再会できることを祈念しつつ散会しました。



昭和63年度全国支部長会開催

全国支部長会幹事会の設置を承認可決して活発な意見交換

昭和63年度同窓会理事会に先立って左記の通り全国支部長会が開催されました。

記

- ◇日時 昭和63年6月25日(土) 午後2時30分より
- ◇場所 新阪急ビル12階、レス トラン・パレス会議室

◇出席者 鈴木理事長、山本学長、伊藤経済学部長、内海教務部長、松原就職部長、藤本教養部副部長、渡辺理事、玉岡事務局長
同窓会より

磯野会長以下常任理事15名並びに東京、東海、岐阜、京都、豊中、大阪市、大阪市役所、尼崎、神戸、東播磨(代理)、姫路、岡山、広島、山口、北九州、南九州、福井、富山、香川、愛媛、徳島、丹有、奈良、北海道の各支部長及び徳島支部顧問福井昭吾氏(3)

◇報告 今回の支部長会は、前年10月17

日に開催された支部長会において、同窓会組織の中における支部長会の位置づけを明確にするため次のような要望が出され、それらの案件を具体化するための重要課題をもって開催されました。

- ① 全国支部長会を定例的に開催された。
- ② 全国支部長会を年1回開催することを会則に明記された。
- ③ 本部との連携を強化し、運営を円滑にするため、近隣の支部長によってでも支部長会世話人的なものを組織して常任理事会との連携を密にする方法を検討された。
- ④ 支部の運営強化に配慮されたい。

磯野会長の挨拶に続き、梶村丹有支部長(8)を議長に選出し、議長の有支部長(8)を議長に選出し、議長の要請により南部大阪市支部長(9)が前回の支部長会以降の経過説明を行う。そして、磯野会長から世

話人としてお世話いただいた5名の方々から支部長会幹事会「幹事」を委嘱したい旨を表明し、出席者全員これに賛意を表し、「大阪経済大学同窓会全国支部長会幹事会」が発足した。

梶村丹有支部長(8)、南部大阪市支部長(9)、筒井豊中支部長(11)、野尻奈良支部長(19)、桐月神戸支部長(22)

更に陰下事務局長から、当日までの詳細な経過報告並びに理事会に上程する会則改正案について説明、全員これを了承の後、大学当局との懇談会に際しての意見交換が行われ、「昭和63年度第2回全国支部長会」は無事終了した。

続いて当日ご臨席いただいた鈴木理事長、山本学長他の諸先生方との懇談会に移り、梶村丹有支部長が支部長会を代表して、概ね次のような大学に対する意見、要望等を説明した。

- ① 大学のPRを積極的に行ってほしい。
- ② 魅力ある講座の開講。
- ③ 私立大学の進学説明会や高校への対策検討。
- ④ 女子学生の増員を図ってほしい。
- ⑤ 学生の質の向上、語学教育



を重視してほしい。

それに対し大学側から

- ① それぞれの要望に対し充分配慮する。
- ② 高校教職関係卒業生の懇談会は12月3日(土)開催するため準備をすすめている。
- ③ 後援会主催の父母懇談会を11月12日(土)に開催する。
- ④ 今年度は女子学生が相当数入学している。
- ⑤ 情報化時代、国際化時代に対応できる学生を育成するため語学教育を重視する。

等の説明があり、懇談会は和やかなうちに有意義に終了しました。

昭和62年度収支決算書

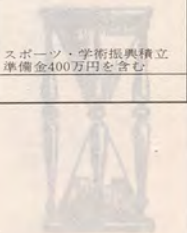
自 昭和62年4月1日 至 昭和63年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	2,065,783	2,065,783	総会費	4,235,365	5,000,000
会費収入	50,224,000	47,000,000	役員会費	1,497,440	1,500,000
総会費収入	787,000	500,000	支部費	5,835,190	6,500,000
利息収入	536,168	700,000	事務費	678,860	700,000
利江収入	543,790	500,000	人件費	7,834,480	8,300,000
名簿収入	685,800	1,200,000	旅費交通費	2,744,480	3,000,000
雑収入	1,494,200	0	旅費交通費	2,744,480	3,000,000
			瀬江編集費	13,168,297	13,000,000
			名簿追跡調査費	1,175,585	2,000,000
			学対費	2,010,000	3,500,000
			諸会助成費	699,260	800,000
			50周年対策費	4,692,300	5,000,000
			慶弔費	97,000	300,000
			予備費	(168,297)	2,365,783
			次期繰越金	11,668,484	0
合計	56,336,741	51,965,783	合計	56,336,741	51,965,783

昭和63年度収支予算表

自 昭和63年4月1日 至 昭和64年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	11,668,484		総会費	5,000,000	
会費収入	48,000,000		役員会費	1,500,000	理事会・常任理事会・各分会
総会費収入	500,000		支部費	7,000,000	運営費・支部総会援助
利息収入	700,000		事務費	700,000	
利江収入	500,000		人件費	7,300,000	事務局人件費
名簿収入	500,000		旅費交通費	3,000,000	
			瀬江編集費	14,000,000	
			名簿追跡調査費	2,000,000	
			学対費	3,500,000	大学祭・クラブ活動援助
			諸会助成費	1,500,000	諸会援助・同窓会のしおり
			慶弔費	300,000	
			特別基金戻し入	6,000,000	
			名簿発行積立金	4,000,000	
			予備費	6,068,484	
合計	61,868,484		合計	61,868,484	



再び母校50周年記念館にて 63年度同窓会総会盛大に開催

「もういちど記念館で逢いましょう」の呼びかけで、昭和63年度同窓会総会が、母校50周年記念館の4階大会議室、7階同窓会ホール、黒正展示ホールで盛大に開催されました。

母校50周年記念館での開催は昨年続き2回目とあって、セレモニー会場、懇親会場の設営はもとより総会当日の準備万端はスムーズに整えられました。

当日は文化の日にふさわしい秋晴れに恵まれ、出足は早く、午前10時過ぎにはポツポツ参会者の姿が見かけられ、午前10時30分の受付開始と同時に1階ロビーは急に活況を呈しました。

しかし、今年はお越しいただいたご来賓並びに会員各位を、同窓会総会のため特別に中田電算室次長に編集していただいたBGMの流れるセレモニー会場へ順次案内したため、ロビーの混雑もなく、総会セレモニーは中村敏啓組織部副部長(別)の司会で定刻11時に開会されました。

卒業生 直撃 インタビュー

誠心誠意の「誠」

北九州市助役
大隅常松氏(9回卒)



「福岡県出身、昭和17年9月、昭和高校を繰り上げ卒業、久留米第二予備士官学校から陸軍中野学校を19年に卒業、任地の朝鮮で終戦を迎えました。朝鮮で農場を経営していた父母、妹などとの着のままで故郷に引き上げ、しばらくは農業をしましたが、21年小倉市役所に就職しました。今、市役所では65歳の最年長者、助役として2期目、任期があと2年あります。」と、長身にドッシリした体で語られる口調は優しいが、貫禄十分、正に北九州市の重鎮とお見受けした。

「随分空がきれいになり、街が整備されましたね」という問いかけに、「整備計画は着々と進めていますが、昭和38年に門司、小倉、八幡、戸畑、若松市の伝統ある5

水納総会特別委員長(別)の開会のことば、グリーククラブの学歌斉唱にはじまり、磯野同窓会会長から「昨年に引き続き、母校50周年記念館で元気に再会できたことを喜ぶとともに、現在の同窓会活動は大変盛り上りをみせているが今後とも会員各位の情熱溢れる、より一層の協力をお願いする」旨の挨拶がありました。

続いて、鈴木理事長からは「総会開催を祝福するとともに本学の将来展望について、慎重に審議を重ね検討された企画検討委員会の答申も受けたので、これを具体化するための第一歩を踏み出す時期にきていると思う」との力強いご挨拶をいただき、また、山本学長からは「本学発展のため諸施策を講じ、具体的には、父母懇談会、高校教職関係卒業生との懇親会等を計画しており、今後更に同窓会との協調関係を維持する」旨の温かいお祝いの言葉をいただき、両先生のご挨拶に万雷の拍手が送られました。

市が合併して北九州市が誕生、最近基幹産業の衰退によって産業構造の転換など、市政の推進に多忙を極めており、10万市民の高齢化の進行と若手の雇用対策等、責任は重いです。そんななか、むずかしい行政に向け、本年度から職員採用では、別枠で迫力ある個性豊かな人物本位の採用を取り入れました」と、秘めた闘志が感じられた。

「スポーツが大好きで在学中はサッカーをやりました。当時、高専の全国大会を制覇した思い出があります。今も趣味はスポーツで暇を見つけてはゴルフをやり、新聞のスポーツ欄に母校の活躍記事が出るのを楽しみにしています。市議会開催時以外なら、私でできることがあれば母校のためにお役に立て下さい」

「生きがいは奉仕。夢は8年間の経済局長時代から中国との交渉に力を注ぎました。おかげで大連市の榮譽市民の称号を授与されました。余生を日中友好に貢献したいと思います。なお、座右の銘は、誠の道を実行する、誠心誠意の(誠です)」とのこと。
ホッとするのは、「公務は、24時間勤務と同じです。その合間に孫と遊ぶとき。お陰で老妻と二人、

なお、今年と同窓会総会の意義ある行事として、大学当局から現在多くの卒業生、在学生に愛唱されている追遥歌の作詞、作曲者に感謝状並びに記念品が贈られました。

追遥歌は、昭和23年、当時大阪経済専門学校の2年生だった中村行男氏(別)が作詞、同3年生の松川圭一氏(別)が作曲されて以来、今日まであらゆる機会に歌いつがれてきたものです。

更に、永年同窓会発展に貢献された三重支部長水上敏夫氏(3)、前山口支部長串田一氏(8)、富山支部長重松尚氏(23)、本部役員山中良夫(別)の各位に対し、磯野同窓会会長から感謝状並びに記念品が贈られ、当日ご出席の母校来賓ならびに支部長各位のご紹介を終え、懇親会に移りました。

懇親会は津秋広報部副部長(別)が司会を担当し、鈴木理事長、山本学長、渡辺同窓会名誉会長、磯野同窓会会長の鏡開きではじまり、広田相談役(1)の乾杯の音頭で会場の雰囲気は一変、料理をつつき、ビールをつぎあい、久し振りの再会を喜び、旧交を温める会話で場内は熱気に溢れました。
一方、今年茶道部の学生の協

健康に暮らしております」
そしてインタビューが終わるやいなや、秘書の方と急ぎ足で公用車に向かわれた。(広報部H)

西山先生の「体温計の研究」を支えていたOB

東芝硝子大阪支店長
田上敬一氏(22回卒)



「私どもの朝日スクラップには大学の名前が出ており、NHKも動き出すとわかって、それなら西山先生に登場して貰おうと、学校へ急拠伺いましたわけですよ」と田上さん。西山豊先生が『経大論集』に「電子体温計の落し穴」の論文を発表されたのが62年9月、メーカー主導型の電子体温計販売競争から、消費者の確かな眼を喚起しようというアクションを起こされる。

以後、朝日新聞記事、NHK取材、63年7月全国ネットで放映という一連の対応の中で、水銀体温

力で会場横にお茶席を設けたのが意外に好評で、懇親会の途中でもゆっくりくつろいで語り合う姿も多く見受けられました。

時間の経過とともに大学生協心づくしの料理もどんどん減り、またたく間に時間は過ぎ終宴を告げるには惜しい雰囲気ではありましたが、定刻午後2時、水上三重支部長の万歳三唱で昭和63年度総会は盛會裡に無事終了しました。

最後になりましたが、総会開催のため何かとご協力いただきました関係者各位に心からお礼を申し上げます。



計トップメーカー東芝硝子大阪支店長の田上敬一さんが大きく関わっておられたことが確認。

「車の免許をとりまく時間があれば商売へ……、この齢で免許証持っていないんですよ」と、同窓会ホールで語る営業畑の人、田上さん。東京・静岡・名古屋・大阪と一カ所にじっとしていない人生を歩む。本部のデスクワーク、工場の生産管理を付加価値付けた幅広い営業マン。東芝グループ70社のうち、ガラスセクション——体温計を含む医療機器も——を受持つ会社一筋に。「武田薬品さんの武内先輩(武内美次氏・10回・18年卒)は大きなより所でした」と、人の関係、人とのつながりの大切さを強調。

気がつけば、若手研究者と同窓生が結ばれていて、田上氏も記念館を訪れる機会を掴む。何ともうれしいうれしい。「先生の講義は、学生にはこれから世の中で役に立ちましようね。従来の経済原論も大切でしょうけれど……」。31年、軽音楽部の卒業パーティーはメトロを借り切って、超満員に——、その売上金をプラス資金に寄付。現在の吹奏楽部の生みの親であるとは、一寸いい話。

(広報部M)

話題の同窓生

これからも「則天去私」

福井支部 西生和秀氏(40)



彼は若冠26歳で3期連続の武生市議会議員。今や武生市民の衆望を集め、あらゆる面における人望と政治的手腕を発揮している。現在は教育厚生委員長として活躍中である。

過般、公務多端な彼を訪問したところ、たえず柔和な笑顔の中で、「経大OB、後輩たちは申すまでもなく、市民各位のお陰で議員の職を全うさせてもらっております。自治体の中央、地方を問わずに、財政難で住民要求に対し充分に応えにくいときではありませんが、漱石先生の『則天去私』を座右の銘として、今後も頑張り抜きたい」と、ハッキリ力強く語ってくれたことは、本当に頼もしい限りだった。

なお、写真は武生市議会議場において一般質問中の西生和秀氏です。

福井支部長 内田 甫

音楽教育家

能本欣一郎君のこと



「洲本市はもとより、淡路全域に亘り能本さんが長い間培って来られた、吹奏楽を中心とする音楽教育家としての功績が、今度の全島的な催しとして盛り上がったのはむしろ当然のことです。益々の御健勝を祈ってやみません」

右は、能本欣一郎オリジナルコンサート(昭和62年8月15日)、於・兵庫県洲本市に、贈られた大阪フィルハーモニー交響楽団、音楽総監督、朝比奈隆氏のメッセージである。

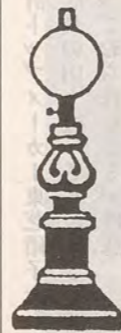
淡路島で音楽に関心のある人で、「能本欣一郎」の名前を知らない人はいない。戦後、淡路の中学、高校の教師をし、全島の吹奏楽団、合唱団を育て、自ら指揮、編曲は無数のこと、作曲もし演奏会も開いて、音楽の普及に努めてきた。そして今も精力的に活動している偉大な音楽教育家である。

「能本欣一郎」、この人こそ昭和・高商第6回卒業生である。播磨期の昭和・高商音楽部の基礎を築きあげたのもこの人である。6回生といえは太平洋戦争勃発の前年、昭和15年の卒業、巷には応召兵や千人針を乞う姿も見られ、暗く戦雲の立ちこめていた時代、音楽部はグリークラブ、リードバンド(ハーモニカバンド)、アンサンブル(軽音楽団)の3部門で構成されていたが、いずれも能本欣一郎君が監督、指揮をやっていた。甚だ音楽活動のやり難い環境のなかで、能本君の天衣無縫の人柄と、卓抜した彼の音楽知識、あらゆる楽器をこなす技術力に牽かれて部員達は明るく精神的に練習し、校内演奏会は無難、校外での演奏会、陸軍病院での慰問演奏、大阪放送合唱団のメンバーや他の楽団のメンバーに加わったりしながら幅広く活躍し、歴史の浅い昭和・高商音楽部の存在を位置づけていった。

戦後、能本欣一郎君が大阪フィルハーモニー交響楽団で活躍したり、プロジャズピアニストとして楽しく稼いでいたことはクラスメイトの間でも知られていない。

今、淡路島で彼は優れた音楽教育者として素晴らしい演奏家であり、指揮者として高い評価を受けている。

昭和・高商音楽部の星であり、異色の卒業生、能本欣一郎君を紹介しておく。戸田 秀親(6)



西新宿「野村クラブ」に

160余名が集う

東京支部

代表幹事 西山 昭吾

88年度の東京支部総会を10月27日、西新宿の超高層野村ビルの48階「野村クラブ」で開催。3回卒の方から54回卒の最若手まで今までに例を見ない多勢の方々が6時半の開会を前に5時過ぎから続々とつめかけ、その数160余名に達し、眼下にひろがる百万ドルの夜景を誇る「野村クラブ」の会場もやや狭さを感じた盛況となりました。

同窓会本部より磯野会長、松本副会長、陰下事務局長、小松常任理事のご出席をいただき、大学側からは玉岡事務局長(法人理事)と就職部の小池課長がお祝いにかけていただきました。錦上添花をそえていただきました。

開会に先立ち今回の盛会を迎えることが出来たそのルーツを紹介者として、昭和27年8月に設立総会が開催され、初代支部長に就任された船橋氏(3)、2代目支部長で20余年の長期にわたりご苦勞された服部氏(10)、その後をついだ名実共に大阪経済大学第1回生の3代目支部長鮫島氏(18)の3氏に、37年目の今日成熟期を迎えることの出来た感謝の意を表すべく盛大な拍手の中、井阪支部長より花束を贈呈し総会に入りました。

支部長の挨拶のあと磯野会長より、同窓の絆のより強からんことの決意のお話を賜り、大学側からは昭和67年以降の受験生減少の対策と、将来を展望する大学像について玉岡事務局長よりご説明いただきました。

続いて副支部長欠員補充の件を皆さんにはかりました。本年3月まで永年、副支部長を務めていただいた、高野君(2)が不帰の客となり、存命中は総会の2次会を彼の経営する熱海・来の宮「かじか荘和楽亭」で恩師はじめ役員共々夜を徹して歓談し、その終わりを知らない程色々お世話になりましたが、49歳の若さで他界されました。その後任に矢倉君(30)を推薦、満場一致で梅本君と共に副支部長に就任していただきヤングパワーを当支部に吹き込んでもらいたいと大いに期待して支部長を補佐してもらうことになりました。

支部長も挨拶の中で、30回卒以降の自称若手で「経友会」なる組織を結成し、気楽にしゃべり、飲み、助けあい、新らしく卒業してくる会員諸君とより身近な話し相手になるため、同窓会東京支部の下部組織として大いに活躍してもらおうこととなった旨を説明。

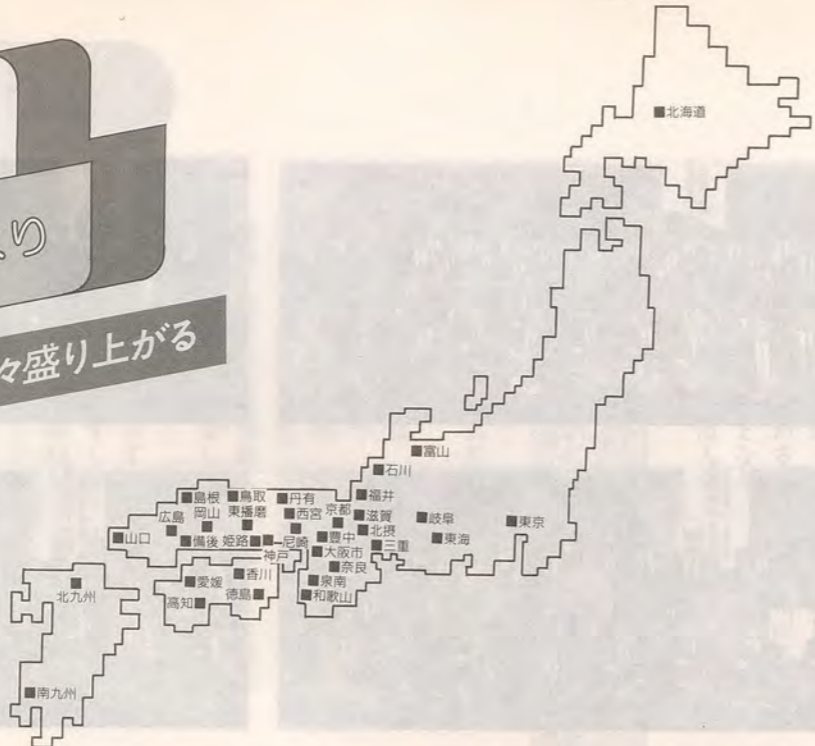
その会長に矢倉君、副会長に青井君(30)が就き、従来の支部役員と密接な連絡をとりながら東京支部活動に協力してくれることとなりました。今回の総会準備に際しても経友会が中心となって活躍してくれたことが盛会になった最大原因であったと思います。

今回はじめて、各地の同窓会支部に東京支部総会のご案内をお送りしましたところ、多くの方々から激励のお言葉をいただきましたが、特に佐々木広島支部長、南部大阪支部

同窓会

支部だより

全国35支部、集いは年々盛り上がる



豊中支部は、多くの会員が親睦を深めるための良き仲介者となるよう、努力しています。63年度の催しの概況と、今後の予定をお知

ファミリィハイキングで楽しく

豊中支部
支部長 筒井 英夫

豊中支部は、多くの会員が親睦を深めるための良き仲介者となるよう、努力しています。63年度の催しの概況と、今後の予定をお知

東海・岐阜合同支部総会は、隔年に交替当番制で支部総会を開催し、今年で5年目になりました。

日 時 昭和62年11月21日
参加者数 30名

同窓会本部 2名
大 学 3名
東海地区 12名
岐阜地区 13名

東海・岐阜合同支部総会
長良川畔の「石金」で開催

岐阜支部
支部長 坪内 敏男

から強引に実施へと踏み切られた経過がある。来春を待たないとはっきりした結果は判らないが、今後は特色ある私学以外は先細りを余儀なくされる運命となる。これは母校の経営大にとても決して他人事ではないはずだ。

母校では、現在全学をあげて今後の魅力ある大学作りを検討中とあるが、1日も早く同窓生みんなが納得できる画期的な結論を、首を長くして待っている。

いかと思います。今回も、岐阜地区の参加者13名中10名が名古屋地区の在勤経験者でした。しかし、支部活動は母校のPRにつながるものと思ひ、できるだけ活発にしたいと努力しています。

今回の総会では、開会前に放映されました学校紹介のビデオ「大淀の水は春ゆく」を見て、母校の発展ぶりを知った人も多く、大変有意義だったと思います。

最後に支部会員の皆さんに支部運営に関するご意見、ご希望等をお寄せいただくようお願いすると共に、総会通知の返信は必ず返送くださるようお願いいたします。

複合選抜方式に答えを

東海支部
支部長 加藤 正秋

タモリのナゴヤベン以外にあまり話題のない愛知県だが、昭和63年だけは大きな事件で、全国から注目を浴びた。

その一つはプロ野球の中日ドラゴンズの活躍。この記事が皆様にご披露される頃は、当然セ・リーグの優勝は決定しているだろうが、たどえ栄冠を逃がしても地元へ落とした経済効果は大きい。東海銀行の試算によると、このままシーズンが終わっても50億円、日本一にでもなると、240億円が百貨店など地元経済界へころがり込むそうである。

これというエース選手もいなかっただけに、人気は星野監督に集中、県警が交通キャンペーン用に作った星野監督のポスターが、中年女性から引つ張りダコの人気になったというほほえましい話題も伝えられた。

小生が球団経営の新聞社にいたせいか、同窓生からしばしば観戦キップ依頼の電話をいただいたが、指定席は1カ月以上前から売切れ、人気カードになると3日も徹夜というフイーバーぶり、ほとんどお役に立てなかった。改めてお詫び申し上げます。

もう一つは昨年の「瀬江」でもご紹介した県下高校入試の複合選抜方式である。予備校が夏休みの1日、市内高級ホテルで開いた模擬テストには、2000人近い中学生が殺到し、全国紙のニュースにまでなる騒ぎだった。これは来春から公立高校へ4度も受験のチャンスが与えられるという制度で、目ぼしい生徒はごっそり公立校へ引き抜こうというもの。私立校の関係者はもとより、国立大学教授陣からも「官尊民卑の風潮」と反対論をあげな

ル第2回読書会を開催しました。推薦本は遠藤周作著『自分をどう愛するか』の読書感想文を、黒田(15)・吉村(35)さん達18人出席、真剣な話の中にユーモアあり、活発な意見が続出、しかし肝心の「愛」は広範囲すぎて結論の出ぬまま、閉会となりました。

次回の推薦本は田中真澄著『人生勝負は後半にあり』PH P研究所¥680です。塩見委員(31)の苦心のすえ選ばれた本、次回まで必ずご一読下さい。



刀禰啓一(19)さんをリーダーに東山縦走コース、参加者は斎(30)・金子(4)ご夫婦・子達一人を含めて14人、理想的なファミリィハイキングとなりました。試走と下調べに気配りして頂いたリーダーに感謝しています。

第3回通常総会は11月に実施の予定です。紅葉の飛鳥路を少時散策した後、飛鳥鍋をつ



長にはご出席をいただき、感激するとともに、同窓会発展のためにより一層努力しなければならぬと決意を新たに、ご両人を参会者に紹介させていただきました。

その後、支部長としてではなく、野村證券投信委託(株)社長としての井阪健一氏の経済講演は大変好評でメモをとる人もある程でした。いよいよ開宴、和・洋、中の料理に舌づつみを打ち、超高層ビル階上からの夜景をめでつつ同窓生の語らひは、東京にいたというよりは大阪に戻って瑞光通りで、上新庄のプラ

ットホームで、学園のキャンパスで、グラウンドで旧友と語り合っているという本当に楽しい集いになりました。

会費は安くして多くの皆さんに集まってもらいましょう、という井阪支部長のご厚意と、先述の経友会若手のパワーに従来の幹事諸氏の協力があり、すべての力を結集して今回の盛大な支部総会を開催することが出来ました。

今後更に、一人でも多くの同窓諸兄弟とその絆を深め、より有意義な、より盛大な支部に発展させたいと願っています。



め、地域社会の発展に寄与されることを願うとのあいさつがあり総会に入りました。
平沼勇吉副支部長兼事務局(3)より1年間の活動報告がなされると共に、本総会を迎えるに当たっての各役員の取り組み状況及び苦労話等の報告がなされた後、議事に移りました。

議長に就任した沢井隆雄幹事(2)の手際よいスムーズな議事進行もあり、議案はすべて原案通り承認可決されました。
続いて役員選出が行われましたが、前年度と大きく変わることなく同じ顔ぶれを中心に決定し、また1年引き続きご苦労をおかけすることとなりました。
第2部では、来賓として磯野同窓会会長及び山本学長のご挨拶をいただきましたが、創立総会を上回った参加者をもって開かれることは大変めずらしく貴重なことであるとの激励のあいさつをいただきました。



- ① 昭和62年度 事業報告
- ② 昭和62年度 決算報告
- ③ 昭和63年度 事業計画
- ④ 昭和63年度 予算について
- ⑤ 役員選出
- ⑥ その他



引き続き親睦会に移り、2回目の支部総会ということで前回で顔見知りが出来たこともあり、お互いに自分達の会社PR、自慢話や取り引きに関する会話が交わり、なごやかな雰囲気を楽しんでいると思いが花が咲くひとときでありました。
時間の経過も忘れ、いつの間にか学生気分に戻り、オイ・オマエの中で大変盛り上がりしました。宴たけなわではありましたが、ラグビー部OBが中心になり、学生気分に戻り校歌を全員で合唱し、別れを惜しみながら、来年の再会を約しつつ午後9時閉会しました。
終わりに、同窓会本部・大学のご来賓ならびにご参加いただきました方々、そして本年の設営準備にご尽力いただきました方々に心から感謝いたします。来年度は、本年参加いただきました方々を中心になって一人でも多くの仲間を声を掛け合っご参加下さるようお願いいたします。

母校の隆盛を祈る

大阪市役所支部
幹事長 角谷 泰秀

母校、大阪経済大学もますます充実し、発展していることは、我々同窓生としましても喜ばしくご同慶にたえません。
当大阪市役所支部は、大阪市役所に奉職するもので構成された同窓会としては稀な職域支部であります。

昭和25年1月、当時10余名の先輩方で発足し、爾来30余年の伝統と歴史を築いてきました。

その間、母校の新制大学としての発展とともに大学2部卒業生も増え、現在では特別会員30名、一般会員20名の多さを数えています。
現在は第6代支部長倉田秀太郎氏(2)のもとに支部活動として年1回の総会開催を予定し、また、機会あれば麻雀大会、ゴルフコンペ等も計画していますが、なにぶんにも大規模な大阪市役所のため、毎年の人事異動に伴う、

前回は越えた素晴らしい総会!!

尼崎支部
支部長 小谷 芳男

昭和63年度、尼崎支部総会を5月26日(木)、午後7時より尼崎総合文化センターの玉翔の間で開催しました。
昨年4月に尼崎支部が誕生、早や1年が経過し、昨年の創立総会を上回る70名の会員が集まりました。

同窓会本部より、磯野会長、陰下事務局長、大学を代表して山本学長をお迎えして盛大かつ有意義な総会が開催されました。
総会は、監査の芝網雄氏(15)の司会で始まり、小谷芳男支部長(24)より支部の事業に一人でも多く参加され、大学の発展を願い、親睦を深

この伝統ある大阪市役所支部を育てあげられた先輩諸氏に深く敬意を表するとともに、会員全体の方で支部の発展と会員相互の親睦をはかりたいと考えています。そのためには、とくに若い会員諸君の一層の支部活動への参加を要請したいと思えます。
最後になりましたが、母校の隆盛を心からお祈りいたします。

局・事業所・出張所・区役所等々に分散している会員の把握に時間がかかり、総会開催等のペースも遅れがちです。
今回の総会は10月中旬に予定しています。その節には、以前本学の職員として勤務された関係から特別会員となっておられる大阪市長西尾正也氏に出席をおおぐよう計画しています。

つきながら(直通コースも別途考えています)の和やかな雰囲気の中にしようと計画しております。報告は来年の『濑江』に掲載予定です。
豊中支部は、同好サークルを随時開催して好評を得ております。前記のほかゴルフ・旅行・古寺鑑賞等と活動しております。
会員の皆様ドシドシ参加してみませんか。参加希望者は支部長までご連絡下さい。開催日時等をご案内します。
なお、63年度の支部会費¥2,000の払込みにご協力願います。



大阪経済大学同窓会豊中支部
代表 筒井英夫



一〇〇〇名の支部総会

① 63年度は、待望の瀬戸大橋の完成もあ

今や技術革新の暁鐘は至るところに鳴り響いており、この革新こそは21世紀を告げる前兆であり、吉兆とも言うべきものでありましょう。問うこともなく答えることもなくして深き沈黙のうちに、その歩みを続ける自然の現象とは異なり、人間の経済社会には自ら問い、且つ答えなければならぬ問題を含む、いわば歴史的現実であります。

支部結成以来、長い間自らの足跡を以って自らのコースを緩やかに歩んで来た姫路支部は、2年前の姫路独協大学の出現によって

若返った西宮支部

去る8月23日(火)午後6時から、昭和63年度西宮支部総会が市民会館で山本晴義学長、磯野齊同窓会会長をお迎えして開催されました。八木支部長、来賓のご挨拶につづいて役員改選が行われ、不肖私が支部長に、金子赫(24)

姫路支部雑感

姫路支部
支部長 永川 仁一

大いに刺激・発奮・反省させられたものであります。当初は市民・学校関係者及び第三者の間では志願者の質量共に落ちるのではないかと風評が流布されましたが、市当局と大学の渾身の努力によりいざ外国語学部と法学部の2学部の開部と共に、その悪評は一転して吹き飛び、地元大学志向の播州の風土とマッチし志願者も逐年激増している現状であります。更に同大学の目玉ともいえるべき経済情報学部が64年に開部増設されることに決定致しました。昨年10月17日、全国支部長会議の

西宮支部
支部長 中山 隆

中島茂(25)の両氏が副支部長に選任されました。役員がすっかり若返った感がありますが、八木前支部長は顧問に就任され、次期市長選挙に出馬され、3選をめざして全力投球されることになりました。支部としても全面協力体

岡山支部
支部長 村上 一夫

り、「一〇〇〇名の支部総会としよう」と役員一

同努力し、盛大に開催しました。

記

- とき 63年6月4日(土) P.M.6時より
ところ 平和楼
ご来賓 (大学) 山本学長・黒正係長
(本部) 磯野会長・陰下事務局長
- 第1部 総会
第2部 懇親会

② 岡山支部も昭和25年発足以来、40年を迎えますので、昭和65年には、支部結成記念行事を計画・実施しようと思っております。

また、支部名簿の更新(5年毎)を64年に行うべく目下進行中です。

役員の方及び県下同窓の皆さまには、何かとご多用のことと思いますが、建設的なご意見と、特段のご理解ご協力をお願いいたします。

雨上がりの夜空に

備後支部
支部長 守屋 毅

第2回目の88年度備後支部総会は9月25日(日)、「福山ニューキャッスルホテル」で盛大に開催されました。当日は、昨夜来の雨もあがり、出席者34名全員集合し、定刻に開会されました。

同窓会本部より磯野会長、陰下事務局長、大学側からは伊藤経済学部長、細羽教務部長(当地出身)、黒正就職部係長(牧本福山市長は同氏の同志社大学の後輩)、更には広島支部から佐々木支部長、岡村先輩のご出席をい

制でのぞむことを確認しています。

しかし、八木顧問は、依然として西宮支部のシンボリック的存在であり、リーダーであることに変わりはありません。

今回の総会参加者は50名程度でしたが、今後より多くの会員諸兄弟に参加を呼びかけ、支部のより一層の発展に努力したいと思っています。

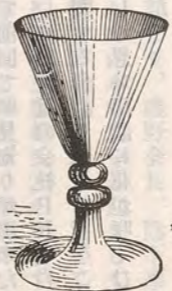
文責・中山 隆(15)

席上で小生が資料を基に提案した様に、母校としては過去37回姫路で出張試験場がもたれ、かなりの志願者の獲得に成功しておりますが、近き将来のことを考えると緊急に具体的対策を講ずべきであることを重ねて申し上げます。

この点に関しましては支部としても大いに協力する心積りであります。慎重なもの結構ですがタイミングが外れては効果がありません。要は実行のみです。

次に姫路市及び付近の進学校からは独協大学への入学者が増加し、母校への入学者が減少している現状をみて聊か寂寥の感が致します。

今年度役員改選(一部交替)



'88・9・10記

- ③ 今年度役員改選(一部交替)
- 顧問 大森喜太志(6)
- 支部長 村上 一夫(12)
- 副支部長 小野 隆(35)
- 常任幹事 渡辺 肇(35)
- 地区幹事 高畠 典治(28) 高橋 良彰(32)
- 岡本 健也(23) 光本 京市(39)
- 寺尾俊一郎(40) 岡本 勝也(33)
- 月田 武士(26) 伊達 正二(42)
- 香取 進(26) 直原 武司(44)
- 小谷 哲生(49)
- グループ幹事 中塚 節也(24) 武田 郁文(33)
- ④ 来年度(64年)支部総会予定—64年6月3日(土)

ただきました。

今回は、前回の設立総会の際に比べて約半数の顔ぶれが変わっていましたが、あちこちで学生時代の懐かしい思い出話に花が咲いたり、余興の連続で、閉会時間は大幅に遅れてしまいました。

当支部の誇りは、わずか300数名の会員ですが、電話1本で10数名の会員が直ちに集まるという団結の強さです。来年は更に多くの会員の参加を呼びかけて開催したいと思っています。

晩秋のよく晴れた昭和62年11月8日、同窓会本部より磯野会長、平尾財務部長、大学より大槻理事、黒正就職部長をお迎えし、支部同窓生15名は、小田君(55)経営のレストラン・シーテラスに会し、同窓会山口支部総会を開催した。テラスの下を流れる急潮は数百年の歴史を呑んで何事もなかったように穏やかだ。流れの速くに長府沖の満珠千珠の二島が浮かぶ海峽を挟んで対岸には門司田ノ浦が近い。そのむかし義経に力をかけた田ノ浦漁師の生活の地も、現在は工業地域として昔の面影を偲ぶよすがもない。

13時30分より支部長挨拶に始まり、磯野会長の挨拶、同窓会の近況についてのお話があり、続いて大槻理事より大学の近況並びに将来の展望についてのご説明を受ける。続いて支部長交替についての提案があり、新支部長

山口支部総会の報告

さて、案内のわりには参加者の少ないのが残念でなりません。次回にはぜひ多数の参加を期待しております。又、今年も、我々広島支部同窓生にとって二つの喜びがありました。その一つは、野内利夫野球部長(30)引きいる広島商業高校の硬式野球部の全国優勝。もう一つは、和木憲一野球部長(30)引きいる広陵高校軟式野球部の全国優勝であります。

私ども地方にいる者にとって、新聞等で大経大の名前を見ますと、非常に勇気づけられ

仕事にもハリが出てきます。また、同窓会員共通の話題としてふれあい広がり、同窓会活動がより充実していくものと思います。よって、我が母校大経大、そして体育会の益々の発展を期待しております。

最後に、次回の支部総会には多数出席を賜わりご歓談いただき、また支部運営その他についてご意見がございましたら、ご教示下さいますようお願い申し上げます。

山口支部

前支部長 串田 一

に第29回生の江村育巳君を推薦する。出席者全員拍手をもって賛同、本総会終了後江村育巳君を新支部長とすることに決定した。以上をもって総会を終わり、支部長の音頭により乾杯懇談会に入る。この間学校のビデオが映写され学生時代の思い出にふけりながら、学友の話など懐古談にしばし時を忘れる。盛り上がったムードの中で名残を惜しみながら、新支部長の音頭で乾杯、15時30分閉会した。



最後にりましたが、総会開催に当たり、色々お世話いただきました「福山ニューキャッスルホテル」用度課長、村上恭氏(39)に参加者一同心からお礼を申し上げます。

(備後支部事務局長 畠 輝雄(30)記)



88 大阪経済大学同窓会備後支部総会

三つの喜び

本年の広島支部総会は、2月8日(月)安芸の国42万石の城主浅野公によって造られた、名園「萬象園」において開催されました。

大学側からは、近藤秀麿先生ほか職員2名、同窓会本部より磯野会長、水納組織部長、そして今年も仲川硬式野球部監督を迎えて34名の出席。出席者の中には初めての方も数名あり、お互いになつかしく旧友をあたためたため楽しい一刻を過ごしました。



広島支部
副支部長 島村 昭生





事業報告では、支部活動の報告とともに、理事会当日の6月25日に大阪で行われた全国支部長会に、支部長代理で出席された事務局長の高橋努氏(34)より、支部長会、理事会、大学との懇談会の報告がありました。特に「会則上支部の位置づけが明確となったこと、及び大学側の姿勢として、情報化、国際化に対応し、68年度以降の18歳人口の減少期に備え、企画検討委員会の答申を受け、学科増設や特色を出しつつ大学の社会的評価を高めたい」と報告がありました。議案も原案通り承認され、また支部の活性化をめざし役員改選の議もどこおりなく終

家族ぐるみで母校見学

福井支部大淀会
会長 大丁 雄治

福井支部では、年1回の支部総会だけでは物足りないとの意見があり、昭和59年2月19日に若手グループで福井支部大淀会を結成しました。大淀会では支部総会を含め、年6回の例会を開催しています。

特に年一度は家族ぐるみの親睦会を開催し、昭和60年度は3周年記念ということで、8月に2泊3日の「つくば万博家族旅行」を行いました。初めての企画で予想以上に家族に喜ばれ、続く61年、62年は福井近郊と奥越の九頭龍でキャンプをしました。

以前から、同年代の家族同士の交際はありましたが、二度のキャンプ後は年代を越えて奥さん同士、子供さん同士仲良くなった家族も多く、この催しは大変有意義だったと思っています。

そこで今年は「家族共々母校の見学を」ということで、去る8月20日観光バスをチャーターして40数名、母校の見学に赴きました。

結成20周年、万歳三唱

結成20周年を契機に支部の活性化を!! 全国各地の同窓生の皆様、ますますお健やかにそれぞれの分野において活躍のこととお喜び申し上げます。

大学は夏期休暇中ではありませんでしたが、黒正就職部係長、陰下同窓会事務局長の出迎えを受け、50周年記念館7階の同窓会ホールでワイワイガヤガヤと昼食を共にし、黒正展示ホールの見学、学内散策の後、校門前で記念撮影を終え、母校を後にして須磨水族館へ向かいました。その車中で話は自然と母校の思い出話となり、30年代以前の会員は「我々の在学中に新幹線が通った」とか「学校の横には悪臭のただよう小川があった」とか、めいめい勝手なことを話しながら母校の変わりように驚いていました。

出発前には途中の無事を祈っていましたが、全員楽しく1泊2日の旅を終え無事帰郷しまして幹事一同ホッとしました。

今後、より一層親睦の輪をひろげて会の発展をはかりたいと思いますので、福井在住の諸兄弟の一人でも多くの参加を希望します。

富山支部
支部長 重松 尚

昭和63年度の富山支部総会は、6月26日(日)午後3時からJR富山駅前の「東急イン3Fバルザック」を会場として開催いたしました。当日は、大学から経済学部長の伊藤武教授

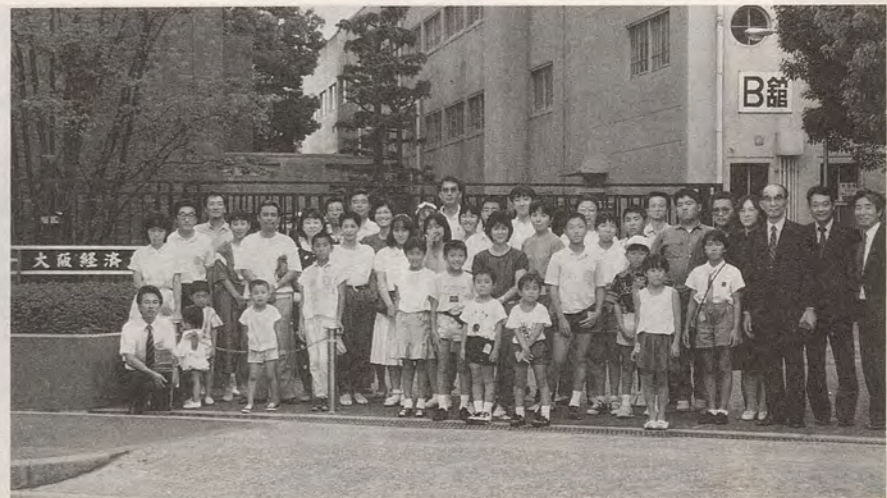
了しました。閉会のことばに続いて記念撮影の後、重松支部長の乾杯の音頭で懇親会へと移りました。各自の自己紹介が始まり、学生時代の思い出話や仕事の話があり、会場の雰囲気は盛り上がりしました。本年度総会は新卒の荒川剛氏(53)を初め黒田孝一(33)、山本勉(47)の両氏も出席され一同心強くした次第です。最後に、学歌、追遥歌を合唱し、万歳を三唱して散会しました。今回の総会を開催するにあたりまして、多くの皆様方にご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

「飛翔した大経大」を切望

愛媛支部
支部長 小野 茂樹

昭和63年度愛媛支部総会を9月3日(土)「国際ホテル松山」で開催しました。支部結成5周年を記念して池内氏(33)のお世話でスポーツタオル200枚を新調して来賓ならびに出席者の皆さんに配りました。本年も、昨年同様木村氏(33)の名司会で午後7時の開会、一分間の黙とうの後、小野支部長の挨拶、来賓の祝辞と続きました。当日ご臨席いただきました大槻・高城両先生、黒正就職部係長、谷口副会長、陰下事務局長には心からお礼申し上げます。大槻・高城両先生のごあいさつで「大阪経済大学の現況ならびに21世紀へむけての展望」をお聞きしましたが、茨木にある校地の活用

は今後の母校の発展にとって重要課題の一つであると痛感しました。愛媛には松山商科大学がありますが、昨今、総合大学化へむけて躍進する姿がマスコミによって報道されています。母校も近い将来「飛翔した大阪経済大学」となることを切望しています。記念撮影のあと懇親会に移り、乾杯に続き恒例の自己紹介も終り、相互に名刺交換する頃には会場は最高潮の盛り上がりとなりました。特に広島から出席されました古谷さん(28)、国西さん(29)、渡辺さん(36)、遠くからありますがうございました。また、今治の島諸部から出席の赤瀬さん(33)はくるまえびを養殖されているようですが、来年は是非くるまえびと一緒に





徳島支部総会

懇親会の予定時間はまたたく間に過ぎ、グリークラブ出身の荻田君(33)の音頭で学歌ならびに追遠歌を合唱し、最後の万歳三唱で懇親会は無事終了しましたが、木村さん一名司会者のお世話で、前例のない全員2次会へ参加ということになり、松山の町へ繰り出しました。

総会会場の世話から、司会、更には2次会会場としてスナック2軒借り切りという木村さんの実力には、感心するやら感謝するやら、出席して下さい。

昭和63年度支部総会は10月15日(土)午後6時30分から徳島市の中心を流れる新川町河畔の「ホテルサンルート徳島」で開催されました。

当日は、大学、同窓会本部から磯野同窓会会長、渡辺理事、黒正就職部係長、陰下事務局長のご臨席をいただき、会員26名出席のもとに盛大かつなごやかに開催されました。

まず、ご来賓の先生方より、大学の現況、就職状況等のご報告やご挨拶をいただき、議題として本年度の支部行事報告、行事運営等について支部事務局より発表があり、本年度はテニス大会、ゴルフコンペを各々2回行った結果、大変好評であり親睦の輪がひろがったこと、さらに本年度は支部会員名簿を整理発刊しようと計画しているので、その節は広告等で協力をお願いしたい旨の説明がありました。



愛媛支部総会

多かった。これらの不便を解消するため、林氏は防水性ビニール素材を使い、底部分のついた円すい形の袋を考案して、袋内部のフックにタオルを掛け、袋ごと傘の骨部分に取りつけるようになった。

懇親会は、終始同窓ならではの明るい雰囲気、花が咲き、時間の経過を忘れる程に

早く過ぎ去ってしまいました。その後は、2次会、3次会へと有志が流れ、学生気分に戻って大いに歌い、飲み、語り、日が変わるまで徳島の夜を楽しみ、再会を約して三々五々解散しました。

最後に、当日遠路ご臨席いただきましたご来賓の方々、ならびにご参加いただきました支部会員の皆さまに心からお礼申し上げます。

高知支部総会の報告

高知支部
支部長 横田 憲介

本年度の高知支部総会は、7月16日(土)、午前中、パシフィック・カントリークラブでゴルフの後、午後6時30分、高知第一ホテルで開催されました。

当日は、大学から渡辺理事、土井乙平教授、黒正就職部係長、同窓会本部より、磯野会長、陰下事務局長をお迎えし、ゲストとして、仲川雅俊硬式野球部監督、大阪在住の野球部OB 中平秀賢氏(25)をお招きしました。

総会は、幹事長、野崎邦男氏(32)による司会で開会し、横田憲介支部長の挨拶で始まり、磯野会長、そして高知へは初めてという陰下事務局長より同窓会からの報告。渡辺理事、土井教授より大学の現況、入試状況等のお話があり、教授の乾杯の音頭で懇親会にはいりました。

参加者は現役の学生3名を含め27名、昨年よりは若干増加。土佐のさわち料理をかこみ、一年ぶりのせいか、話に花が咲き、杯のやり

記念写真撮影の後、懇親会に入り杯をくみかわしながら、林武(28)共栄造機株式会社がこのほど開発した、ゴルフ用アイデア商品についての話が聞かれました。

これは雨の日のプレーに欠かせないタオルをぬれないように工夫したもので、実用新案の出願もしているとのこと、商品名は「テルボウズ」。

雨の日のゴルフは傘をさしていても、スイングする時は傘を横に置くので顔や手がぬれてタオルが欠かせない。プレーヤーの中には傘の骨の部分にタオルを掛けたりしているが、普通のタオルより長めのスポーツタオルを使う人も多く、傘からはみ出したり、傘をたたむ時に邪魔になるなど収納に苦労することが

アイデア商品「テルボウズ」

徳島支部
支部長 河野 昭夫

また、会計の山地さん(33)には多大の出費で、やりくりご苦労をかけ申し訳ありません。東予宇摩地区の会員方の参加が少ないように思われますが、楽しいものです、今後こぞって参加されることをお待ちしています。

最後に四国4県合同同窓会開催の実現にも努力したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。

(愛媛支部事務局長 宮崎 望記)

宴も進み、来年の再会をと、工藤幸輝氏(40)のエルで、学歌、追遠歌を合唱し、万歳を三唱して閉会しました。

最後に遠来の大学・同窓会本部・ゲストのご来賓の方々には、厚く御礼申し上げます。

(高知支部 山脇 宣明(32))





泉南支部総会

昭和63年度泉南支部総会を5月22日(日)羽衣「天兆閣」に於いて開催いたしました。同窓会本部より磯野斉会長、陰下嘉典事務局長、また大学より泉谷勝美、永野仁先生と多数の来賓を迎え、盛大に楽しい一時を過ごすことが出来ました。

泉南支部は現在岸和田市以南岬町迄の在住者約500名の会員をもって構成しておりま

泉南支部総会盛大に開催

泉南支部
支部長 中川 克己



皆様ますますご健勝でご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年も、支部だよりをお届けすることが出来るのは誠にうれしいことです。『澁江』の発行時期の都合により、一年以上も遅れての報告になりますが、お許し下さい。

われわれの支部は、神戸市の北部に隣接した、三田市・多紀郡・氷上郡が主体で、支部総会は三地区が順番に担当することになっています。

皆がとけ合い楽しく集う

丹有支部
支部長 梶村 文弥

昭和62年度総会は、氷上地区の役員が中心となって、きめの細かい準備を進め、次のおり盛大に開催することが出来ました。

とき 昭和62年11月15日(日)午前11時

ところ 氷上郡柏原町 喜作

出席者 56名(大学・本部来賓5名)

大学からは、学長山本晴義先生と理事大槻弘先生それに就職部副部長石井敏雄氏が、本部からは、磯野斉会長と新任の陰下嘉典事務局長が、それぞれご多忙の中をご出席いただきました。ことに学長がお越し下さったのは、20年前の藤田敬三先生以来のことです。

例年のことながら、地元の高校を卒業して大阪経済大学に学んだ同士が、この日を待ちかねたように、当地域内はもちろんのこと、東京・大阪・神戸・西宮・伊丹・福知山などからも参加してくれました。みんなが一つに溶け込んで歓談に旧交を温め、美酒に酔い、カラオケや福引に興じ、逍遙歌に余韻を残し、再会を約して散会しました。

皆様、支部の支には、分かれるということと共にささえるという意味があるのです。連携して、母校と同窓会の発展に努めましょう。ご健勝とご多幸をお祈りいたします。



山陰なまりで、はればれと

島根支部
支部長 渡部 弘一郎

昭和58年6月に結成され、翌59年7月第2回総会が開催されて以来4年ぶりの島根支部総会が左記の通り開催されました。

日時 昭和63年7月3日(日) 午後3時

場所 松江東急イン 平安の間

来賓 磯野同窓会会長 大槻弘先生(学

校法人理事)、黒正就職部係長、陰下同窓会事務局長

開会一時間前には夜来の雨も降り止み、会場前ロビーで三々五々雑談を交わしていた会員諸君が当日の司会を担当してくれた陽気な津田恭一氏(16)の合図で総会場に入ると、外の天候とはうらはらに、さん然と輝くシャンデリアに照らされた面々の顔は晴ればれとして

ス、文化、商業などの機能を分担する4つのブロックに分け、街全体が立休ネットワーク化される全国初の未来都市が実現する予定です。想像も出来ないような立派な建物、その間に動く歩道や立体道路等、街全体を統一整備の素晴らしい世界が出来上がる予定です。

又、65年から前島の分譲が始まり、66年には建物の構成が出来てくることでしょう。来年の『澁江』には空港の記事を書かせていただきます。また、大阪経済大学卒業の諸兄姉様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

総会は定刻に開会されました。

渡部支部長の「今後共支部発展に努力するので会員諸君の協力を要請する」旨の力強い挨拶に引き続き、神田事務局長(10)から事業報告並びに会計報告が行われ、全員拍手で両報告に賛意を表しました。

続いて、磯野同窓会会長から、支部長はじめ日頃支部発展のため尽力している幹事・会員諸君に謝意を表すると共に同窓会の現況報告を交えての挨拶、大槻先生の学校の現況報告を兼ねての祝辞の後、黒正就職部係長が就職状況を報告される途中で手許の書類に目を通そうとされたところ思うように見え、大槻先生が「私の老眼鏡を貸しましょう」と差し出され、「ああ、これで良く見えますわ」と

大阪経済大学同窓会 丹有支部総会



「黒正係長の言葉に一同大笑い、急にリラックした雰囲気の中で司会者が陰下新事務局長を紹介し懇親会に移りました。懇親会は、宮原史郎氏(2)の音頭で乾杯、会場は一気にワイワイガヤガヤの雰囲気となり、少々アルコールのまわったところで会員の自己紹介が行われました。在学当時の思い出話から仕事のPRまで、中には「自分の会社には偉くなっている先輩もいるので次回は必ず連れてきます」という威勢のよい自己紹介まであり、予定時間はまったく間に過ぎてしまいました。



島根支部総会

ゼミナールを思い出し

ぼつぼつ山陰なまりの方言が出る頃には、既に予定時間をオーバーし、学歌、逍遙歌斉唱の後、渡部支部長の音頭で万歳三唱して懇親会は終了しました。

日時 昭和63年10月7日(金) 午後6時
場所 札幌第一ホテル

広大な地域に会員数30名の支部ですが、その中8名の会員が出席し、学校当局から渡辺達好理事、同窓会本部から陰下事務局長が出席され、形式ばったことは一切抜きにして、小人数ゆえの本当に楽しいわきあいあいの会合を持つことができました。

支部運営のために献身的な努力をしてくれている長崎史明君(43)の朗らかな性格が会の雰囲気を親しみのあるものにし、少々アルコールの入ったところではじめられた自己紹介は、仕事のPR、将来への抱負、人生相談等々、最後には人生論談議にまで発展し、予定時間を一時間近く過ぎても誰も腰を上げようとせず、誰いうとなく「学生時代のゼミナールを思い出す」という始末。

渡辺理事も皆の話に相づちを打ちながら熱弁をふるわれるので話はずきずき、9時も過ぎたので全員を2次会へ誘導して1次会はやつと終了しました。

北海道支部 支部長 田中 喜三郎

金曜日の夜とあって盛況をきわめるスナックへ繰り込んだ連中は、今までは打って変わってマイク片手に自慢ののどを競い、若手諸君の変わり身の早さはまた見事なものでした。

歌の競演2時間、再会を約して散会したのはネオンまたたく深夜の町でした。

来年また一人でも多く若い会員諸君がこの会合に参加されることを期待しています。

今後北海道で活躍しようと思う会員諸君にとって決して無意味ではないと確信しています。



同窓会支部役員

東京支部 支部長 井阪 健一 尼崎支部 支部長 小谷 芳男 北九州支部 支部長 嶋原 正孝 丹有支部 支部長 梶村 文弥

東海支部 支部長 加藤 正秋 西宮支部 支部長 中山 隆 南九州支部 支部長 宮田順一郎 奈良支部 支部長 野尻 忠正

岐阜支部 支部長 坪内 敏男 神戸支部 支部長 桐月 正邦 福井支部 支部長 内田 甫 三重支部 支部長 水上 敏夫

滋賀支部 東播磨支部 支部長 永井 宏 石川支部 支部長 柚木 繁 泉南支部 支部長 中川 克己

京都支部 支部長 深田 稔 姫路支部 支部長 永川 仁一 富山支部 支部長 重松 尚 和歌山支部 支部長 松本 旬弘

北摂支部 支部長 石川 裕 岡山支部 支部長 村上 一夫 香川支部 支部長 和田 憲明 鳥取支部 支部長 亀井 寛

豊中支部 支部長 筒井 英夫 備後支部 支部長 守屋 毅 愛媛支部 支部長 小野 茂樹 島根支部 支部長 渡部弘一郎

大阪市支部 支部長 南部 俊一 広島支部 支部長 佐々木一義 徳島支部 支部長 河野 昭夫 北海道支部 支部長 田中喜三郎

大阪市役所支部 支部長 倉田秀太郎 山口支部 支部長 江村 育己 高知支部 支部長 横田 憲介

学園の近況

学長のあいさつ



学長 山本晴義

まず、常日ごろ母校のため一方ならぬ御世話にあずかっております皆様方に、この場をお借りして心から御礼を申しあげます。最近における同窓会の発展は目を見はるものがあり、大学との交流もますます緊密さを増し、

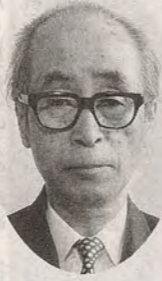
本心に喜ばしく存じております。大学は現在、社会の要請に対応して五〇周年記念館を中心とする情報処理教育施設の徹底と、増加しております女子学生のための諸施設の充実に緊急に力をいれております。おかげで大学全体がずいぶんと明るくなることと思っております。また秋には後援会と同窓会と私達の一致した希望のもとに懸案になっておりました父母懇談会を行うことになりました。さしあたり本年は大阪を中心に直接、ご父母と親しく教学懇談会や就職説明会を持たたいと思っております。今後各地域で開催してゆく予定でございますが、その節にはどうか同窓会の皆様の御支援を切にお願い申し上げます。そのほか秋から冬にかけて、教職関係の同窓生との懇談会も行うことになっており、ま

た毎年大阪府立文化情報センターと共催で行っています公開講座も今年は「現代社会を問う」というテーマで行いますが、定員一五〇名のところ8月26日現在で例年どおりすでに七七二名の申し込みがあり目下その対策を考えている状態です。最後に理事長、学長が新学部、新学科増設について諮問いたしました全学的な「企画検討委員会」の答申もそろそろ提出される段階になっており、今後全学一致して短・中・長期のそれぞれの段階にしたがって実現していく覚悟しております。課題は数かぎりなくございますが、急速な国際、国内情勢を先取りしながら個性ある大学づくりに邁進したいと考えております。どうか今後とも皆様方のきたんのないご意見、ご協力をお願い申し上げます。

人事

◆名誉教授称号授与

昭和63年3月末をもって特任教授を退職されました鈴木正里先生に大阪経済大学名誉教授(第15号)の称号が4月1日付で授与されました。



鈴木正里先生は昭和29年4月1日日本学に着任され、58年の定年まで主に社会政策の講座を担当されるかたわら、理事、理事長代理、経営学部長、教務部長、学生部長などの重職を歴任されました。専任教授退職後は、特任教授として本学の発展に大きく貢献されました。

◆新任—よろしく願います—
63年4月から、左記の方々が着任されました。今後の活躍が期待されます。
教養部 講師 Michael Rube Redfield (M・レッドフィールド) (英語)



1974年に初めて日本へ来ました。そして5年前に再び日本を訪れ、4年間南山女子短期大学の特任助教授をつとめました。1986年、非常勤講師として大阪経済大学で英語を教えることになり、そして今年の4月から専任講師として本学に着任しました。

これから一所懸命授業し、研究にも情熱を傾けます。それだけではなく、本学の学生のお手伝いをするように思います。例えば、留学したい人、外国語を勉強したい人、スポーツ選手(アメリカカンファットボール・ラグビー・野球・バスケットボール等)にいろいろアドバイスをしようと思っております。

総務部人事課 阿部 衣子
今春、経大を卒業し、今度は職員として「経大」に席を置くことになりました。学生の頃と通う場所は同じでも、自分の周囲のものが全く別なもののように目に映り

ます。この新鮮な気持ちを忘れることなく、何事に対しても素直な気持ちを持ち続けたいと思います。「大淀の水は春ゆく豊かな春だ」すべての物が光り輝く今、私の新しい生活がスタートします。



情報処理センター 藤原 広太郎

神戸の下町の長田で生まれ育ち、少年時代は六甲山、須磨の海岸等で親しみ、経大で山岳部に入部しました。おかげで山でのいろいろな体験をさせていただき、今では良き財産となっています。本学を卒業してすぐ就職しましたので、学生時代のような甘えが出ないよう努力しようと思っております。



◆退職
永い間ご苦労さまでした。
教養部助教授 田中 耕治(依願) 63・8・31付
厚生課係長 林 義昌(依願) 63・7・18付

- ◆海外出張
六浦 英文 講師
目的 調査研究
行先 西ドイツ・スイス
期間 63・4・1〜64・3・31
- ◆国内留学
北崎 豊二 教授
目的 調査研究
行先 大阪府立大学
期間 63・4・1〜64・3・31
- ◆役職者一覧 (63・10・1)
- 学長 山本晴義
- 理事長 鈴木正里
- 経済学部長 伊藤武
- 経営学部長 高城寛
- 教養部長 永野仁
- 大学院委員長 松本剛
- 教務部長 内海健一

- 学長のあいさつ
- 人事
- 教学関係
- 計報
- 63年度入試結果
- 施設関係
- 就職関係
- 国庫助成
- 新刊紹介
- 公開講座
- マスコミ関係
- その他の行事

- 入試部長 土井 乙平
- 学生部長 岡本 昌夫
- 就職部長 松原 和男
- 図書館長 門坂 正人
- 体育館長 浜田 幸策
- 広報部長 西野 証治
- 日本経済研究所所長 鈴木 亨
- 中小企業経営研究所所長 山本 晴義
- 産業経済経営研究所所長 玉岡 浩
- 事務局長 田所 清市
- 総務部長 田所 清市

教学関係

◆昭和63年度新入生歓迎行事
4月4日(月)の入学式終了後引き続き新入生歓迎行事が11時から行われ、今年度は『草魂・今君達に望むこと』と題して元近鉄バファローズ投手鈴木啓示氏の講演会が開催されました。



岡本昌夫学生部長の紹介で演壇に立った鈴木啓示氏は近鉄入団当時のエピソードから現役引退に至るまでの野球一筋の人生を体験談

訃報

◆梅田武文名誉教授逝去

本学名誉教授梅田武文先生は、心不全のため62年12月3日午前3時30分、自宅で逝去されました。享年82歳。



先生は明治38年8月17日のお生まれで、ご出身は大阪市住吉区阪南町。昭和5年3月大阪外国語学校支那語科を卒業。同年11月大阪市経済研究所に勤務、昭和7年9月から旧大阪商科大学内の同研究所で、経済学辞典、経済学文献大鑑、世界経済年表の編集事務に参画。昭和11年4月、本学の前身校昭和高等商業学校助教授として赴任、中国語をご担当、13年4月教授に昇格、その後、大阪女子経専、大阪経専、大阪経大へと本学が発展するとともに、教学、研究はもとより学生の指導には文字どおり身を挺してご尽力賜りました。とくに25年7月から学生第一課長

を踏まえ、何事も「投げたらアカン」と新入生に語りかけました。氏のバチンコ・麻雀・タバコをたしなまない野球一途の求道者的な態度は317勝達成、「草魂」という造語まで生みましたが、その鈴木氏の1時間半に及ぶ講演に新入生は圧倒されつつ、最後まで熱心に聴き入っていました。

◆第2部授業時間変更年次計画について
昭和63年2月5日(金)の教授会において2部の授業時間は、昭和66年4月から現行の80分授業3講時制から90分授業2講時制に変更することが了承されました。これを年次計画としてあらわすと次表のとおりになります。

年度	62年度入学生	63年度入学生	64年度入学生
62年度	3講時 1年次(80分)	—	—
63年度	3講時 2年次(80分)	3講時 1年次(80分)	—
64年度	3講時 3年次(80分)	3講時 2年次(80分)	2講時 1年次(80分)
65年度	3講時 4年・卒業(80分)	3講時 3年次(80分)	2講時 2年次(80分)
66年度	—	*2講時 4年・卒業(90分)	2講時 3年次(90分)
備考	66年度より全学年を対象に2講時制に移行(90分) 64、65年度は2講時制、3講時制の並行時間割とする。		

66年度よりの1部・2部の講義時間計画(予定)
——2部2講時制移行に伴う——

1部	①	9:00~10:30
	②	10:40~12:10
	③	12:50~14:20
	④	14:30~16:00
	⑤	16:10~17:40
2部	⑥	17:50~19:20
	⑦	19:30~21:00

◆全国経営学部長会議開催



昭和63年6月25日(土)本学記念館で開催された、全国経営学部長会議は無事盛会のうち終了しました。

参加大学 33大学
参加者 75名
その他山本晴義学長をはじめとする大学関係者13名、毎日新聞記者1名の計89名の参加を得て、現

結腸憩室のため逝去されました。享年39歳。



池田さんは、昭和22年11月19日のお生まれ。45年本学経営学部卒業後、中小企業経営研究所に事務職員として就任。永く研究所に勤務され昨年11月図書館に異動されました。図書館では研究所での経験を十分に発揮されました。10月21日入院以来教職員・学生の願い空しく、あまりにも突然の逝去でした。
11月12日友淵コーポ集会所において午後12時から告別式がしめやかに営まれました。
喪主は奥様のキヌ子さん。
謹んで故人の冥福をお祈りいたします。

63年度入試結果

◆特技(スポーツ)推薦
62年11月6日に実施されました
標記入学選考の志願者・合格者状況は左記のとおりです。
1 志願者・合格者状況
経済学部 経営学部
合格者数 82 108
37 33

2 合格者の種目別内訳
柔道 5 卓球 3
剣道 4 バドミントン 2
陸上競技 6 サッカー 9
競技スキー 1 ラグビー 11
硬式野球 9 バスケットボール 3
準硬式野球 4 バレーボール 3
硬式庭球 1 ハンドボール 5
軟式庭球 4

◆普通科・商業科推薦

62年12月6日に実施されました
標記推薦入学選考の志願者・合格者等の状況は左記のとおりです。
(普通科)

1 志願者・合格者等状況	経済	経営	合計
志願者数	130 (3)	121 (12)	251 (15)
受験者数	130 (3)	121 (12)	251 (15)
合格者数	130 (3)	121 (12)	251 (15)



2 依頼校別状況
依頼高校数 (200)
志願者のあった高校数 130 (200)

(商業科)

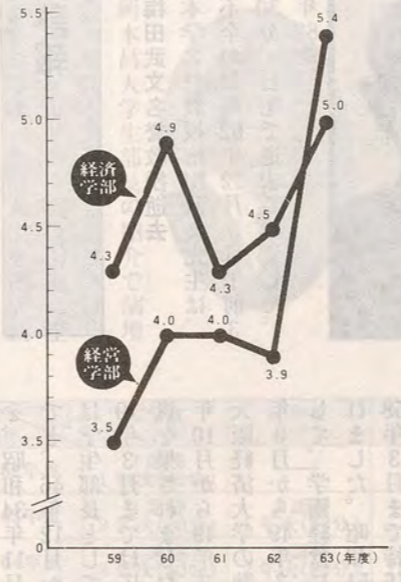
1 志願者・合格者等状況	経済	経営	合計
志願者数	22 (5)	47 (17)	69 (22)
受験者数	21 (4)	46 (16)	67 (20)
合格者数	18 (4)	33 (15)	51 (19)
入学手続者数	18 (4)	33 (15)	51 (19)

※()は女子内数

◇昭和63年度入試結果

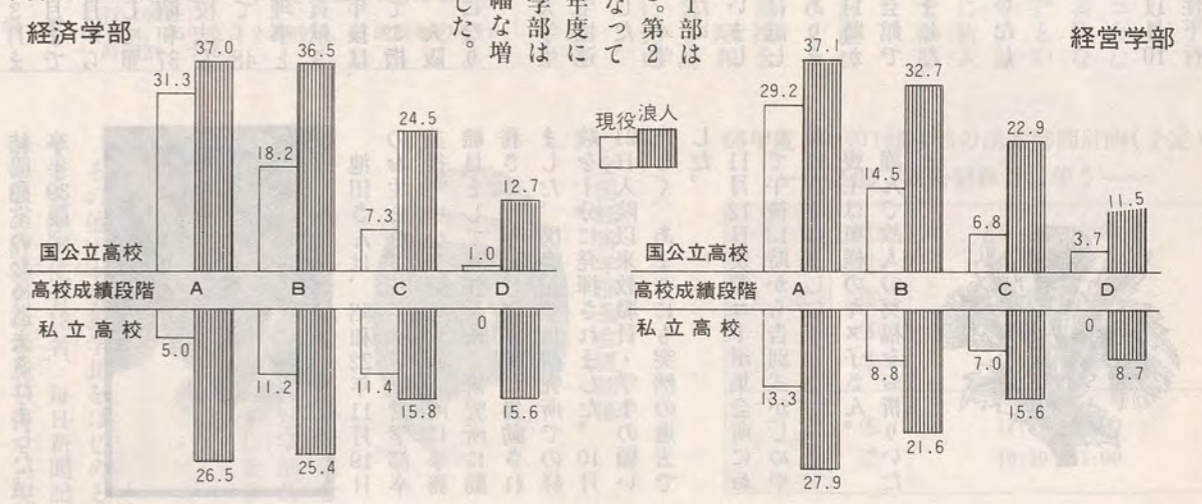
2月9日・10日の両日実施されました入学試験の志願者・合格者等の状況は次表のとおりです。
63年度の志願者合格は16、400名で前年度と比べ、2、049名の増加(+14.3%)となりました。

倍率の推移(第1部)



1・2部別で見ると、第1部は1,703名の増加(+13.3%)。第2部は346名の増加(+22.0%)となっています。第1部をみると前年度に比べ経済学部は微減、経営学部は1,703名(+30.8%)の大幅な増加となり隔年現象となりました。

高校成績段階別合格率(第1部)



64年度 推薦入学選考日程

◆特技(スポーツ)推薦

出願期間	63年10月11日
選考日	63年10月14日
合格発表	63年10月28日

◆普通科・商業科対象推薦

出願期間	63年11月21日
選考日	63年11月25日
合格発表	63年12月4日
選考日	63年12月10日

(普通科)

募集学部・人員	120名
経済学部第1部	20名
経営学部第1部	100名

(商業科)

募集学部・人員	20名
経済学部第1部	20名
経営学部第1部	0名

推薦依頼校 全国の商業高校と商学校

業科のある高校

選考科 30、000円
◇推薦入学説明会の開催
入試部では普通科高校対象の推薦入学説明会を、推薦依頼校(210校)を招き、次のとおり実施しました。

- 6月23日(休) 高松市 京王プラザホテル 高松
- 徳島・香川・高知・愛媛各県の高校対象
- 6月24日(金) 岡山市 岡山タミナルホテル
- 広島・岡山・山口・島根各県の高校対象
- 7月7日(木) 神戸市 神戸東急イン
- 兵庫県の高校対象
- 7月11日(月) 大阪市 東洋ホテル
- 大阪・三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・富山・石川・福井・大分各府県の高校対象

◇64年度入学試験概要

- 1 募集学部・学科・人員
- 経済学部 第1部 経済学科 550名
- 経営学部 第1部 経営学科 550名
- 経済学部 第2部 経済学科 550名

教科	科目	配点	時間
外国語	英語I・II	150	70
	英語I・II・C	150	70
	英語I・II	150	70
国語	簿記会計I・II	150	70
	地理	150	70
	政治経済	150	70
選択科目	簿記会計I・II	150	70
	地理	150	70
	政治経済	150	70

- 5 合格発表日 昭和64年2月19日(日)
- 6 出願期間 昭和64年1月6日(金)～1月20日(金)

試験科目・配点・時間

- 1 試験日 64年2月9日(木)
- 2 試験日 64年2月10日(金)
- 3 試験地 大阪(本学他) 金沢 名古屋 姫路 広島 高松 福岡
- 4 試験科目・配点・時間

施設関係

◇別府グラウンド防球ネット改修工事
63年2月5日(金)硬式野球部、準硬式野球部が練習場として使用している別府グラウンドのバグネット両翼にある防球ネットを高くする工事が完成しました。従来の防球ネットは高さが14.2メートルであったが、野球部練習中の飛球がネットを越え、近隣の屋根や窓ガラスを破損する事故が多かったため、このたび、ネットの高さを25メートルに改修しました。これによって、近隣の迷惑が大幅に減少することが期待されています。

◇電算事務室が記念館に移転
電算事務室は、昭和61年4月より2年余りにわたって本館2階と記念館6階の二つに分かれて業務を行っていましたが、63年5月2日より、業務用電算機とともに記念館6階に移転することになりました。

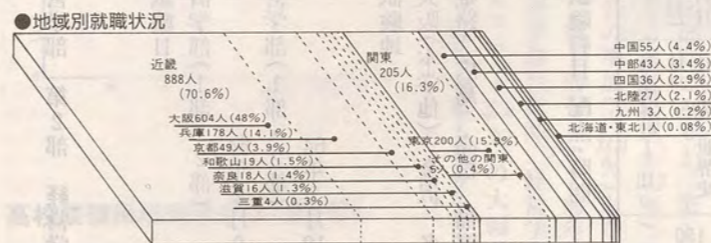
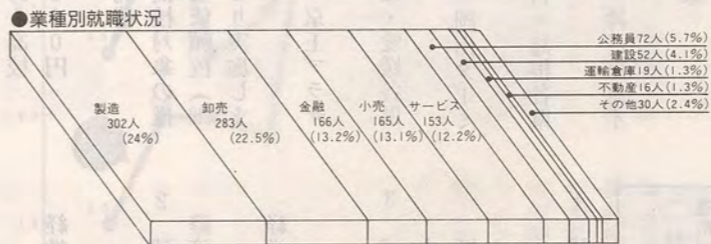
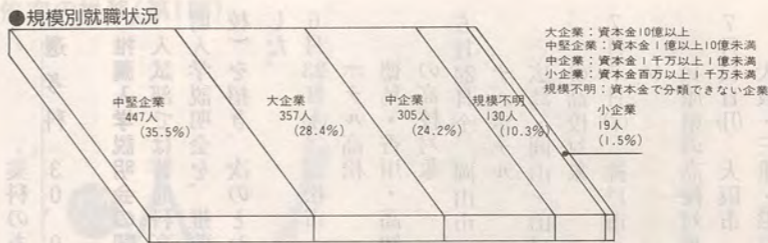
念館6階に移転することで、懸案であった事務室の統合化が図られることとなりました。現在、情報処理センター・情報処理課として教育研究用のサポートおよび業務用システム開発・管理という、それぞれの重要課題の実現の為に努力しております。

◇学生談話室拡張・改修工事
現在学生談話室は記念館1階とC館1階の2カ所に設置されておりますが、この度C館学生談話室の拡張、改修工事を夏期休暇中に行い、予定どおり9月15日に完了いたしました。開設は10月3日。今回の工事内容はC12号教室を新たに談話室に改造、現談話室と合併し、243㎡の広さに拡張、床全面も絨毯敷きとしました。また新しく女子コーナを設け、禁煙室を設置したのが大きな特徴です。授業の合間、休憩時間等の憩いの場として、あるいは学生間の交流の場として有効利用を期待しております。



就職関係

◇昭和62年就職状況
例年になく短期即決型の様相を呈した就職戦線のもとで、別表のとおり優良企業への就職が決定しました。上場会社への就職者は251名(前年度204名、23%増)を数え、内定件数(内定辞退者を含む)にい



たっては仍件という好結果となりました。
なお、求職者は、本人の都合で就職しなかった者を除きすべて決定しました。

◇就職説明会

(第1回)
開催日 4月15日(金)
テーマ 就職活動を始めるにあたって

◇産業セミナーと懇親会開催
就職部では、近畿(2府4県)の優良企業の人事担当者にお集まりいただき、標記セミナーと懇親会を次のとおり開催しました。
開催日 63年5月18日(水)

大阪経済大学産業セミナー



場所 ホテルプラザ
講演 「円高の功罪」
読売新聞大阪本社
政経部長 田村良宏氏
出席者 228名

◇就職講座

(第1回)
開催日 63年5月27日(金)
テーマ 優良企業の見分け方
講師 大阪府経営合理化協会 専務理事 小川泰造氏
(第2回)
開催日 63年6月10日(木)
テーマ 面接の心構え
講師 長尾経営研究所 所長 長尾晃氏(8回卒)

◇先輩就職体験報告会
(第1回)63年5月14日(土)
太陽神戸銀行 池田 裕之氏
ザナックス 森本 剛平氏
フジタカ 岡野 敏昭氏
(第2回)63年5月21日(土)
小林製菓 池西 宏和氏
大和証券 小林 裕之氏
上新電機 岡田 進氏
ジャスコ 山中 和彦氏
(第3回)63年5月28日(土)
フジッコ 古川 政俊氏
丸光 池田 晴由氏
森組 村上 久和氏
(第4回)63年6月4日(土)
日本シスデム・インフラメント 富本 有宏氏
日本商事 松本 浩志氏



(第5回)63年6月11日(土)
日本輸送機 織田 一成氏
そごう 下上 秀樹氏
フジシール 柴田 和弘氏
(第6回)63年6月18日(土)
池田銀行 中元 真一氏
池田銀行 米田 学氏
日本通運 森本 潤氏

日本通運 塩野慎次郎氏
ジヤヴァグループ 木下 浩志氏
星電社 山上 明男氏
(第7回)63年6月21日(土)
近畿相互銀行 堀 康博氏
読売新聞社 三川 治利氏
新興産業 渡辺 芳徳氏

山田達夫・二宮厚美編
『生協運動の新时代』
労働旬報社 1988・1 280ページ
定価 1、600円
泉谷勝美著
『現代簿記精説』
森本書店 1988・3 390ページ
定価 3、400円



◇昭和62年度私立大学等経常費補助金について
昭和62年11月24日付で申請していただきました標記の件について、63年8月26日付で確定通知がありました。
〔確定額〕425、267、000円
(海外研修派遣補助金)
2、894、000円を含む
※前年度比3.6%増

新刊紹介

上島武・中野徹三・藤井一行共著
『トロッキーとゴルバチョフ』
窓社 1987・9 296ページ
定価 2、400円

松村文武著
『債務国アメリカの構造』
同文館 1988・4 243ページ
定価 2、600円

山田達夫・ほか共編(編集代表者 半田良一)
Handa(ed.)『Forest Policy in Japan』Association for Research & Publishing on Japanese Forestry
1988・2 457ページ
Appendix 67ページ(海外研究者向けに出版)

鶴田廣巳・藤岡純一編著
『税制改革への視点』
中央経済社 1988・3 253ページ
定価 2、900円
(重森暁教授は第7章執筆)
重森暁著
『現代地方自治の財政理論』
(大阪経済大学研究叢書第16冊)
有斐閣 1988・6 286ページ
定価 3、500円



◇学内刊行物
『経済史文献解題』昭和62年版
日本経済史研究所編 清文堂出版
62・12 B6判 472ページ

山田達夫編著
『近畿型農業の史的展開』
(日本経済史研究所研究叢書8冊)
日本経済評論社
1988・4 A5判 312ページ
(徳永光俊講師は第3章執筆)
定価 4、800円



本学で開催された
学術講演会・学会

◇学術講演・研究会の開催
62年10月15日(木)、D・シユナイター博士(Dieter Schneider 西独ボーフム大学教授)を本学にお招きし、左記の学術講演・研究会が開催されました。講演会には本学学生ならびに教職員約300名が出席し、研究会には近隣大学の研究者も含め20名が参加しました。通訳は本学の田淵進教授。
講演会(10:20~12:00、D16号教室)
『企業経営の財務的基盤—ドイツ企業の自己資本不足問題』
研究会(13:30~15:00、記念館7階会議室)
『企業者職能による経営経済学の新構築』



◇「企業・社会・大学」パネルディスカッションの開催
62年12月2日(水)午後2時から5時20分まで『企業・社会・大学—産業社会の変貌と臨教審答申—』と題した、「第3回経大生のためのパネルディスカッション」が記念館4階大会議室において開催されました。

当デイスカッションは大阪経大学会主催によるもので、日米経済摩擦、行財政改革に次ぐ3回目にあたり、今回は学生のみならず事務職員の研修の一環としても実施されました。
当日は学会を代表してまず山本晴義学長より挨拶があり、続いて滝内大三教授の総合司会によって活発な報告と討論が行われ、予定終了時間を20分も超過しました。参加学生約50名、教職員約60名。
最初に滝内教授より「趣旨説明、パネリストの紹介と運営」についての説明があり、引き続き下記の基調報告が20分ずつ行われました。

化の進展とそのもつ意味を明らかにしよう。
新しい経済学の追究と、わが国のタテ型社会およびその精神的風土の検討も行おう。
本講座によって現代社会の実像が浮かび上がるであろう。

〔メインテーマ〕
「現代社会を問う」
—変革期の経済と思想—
日時 昭和63年9月9日(金) 10月21日(金)
場所 大阪府立文化情報センター(スケジュール)

- 9・9(金) 「不確実性時代」のアメリカの経済政策
—破局それとも21世紀へ軟着陸?—
森田 寿一
- 9・16(金) ソ連社会主義の新しい波
—ペレストロイカの思想と現実—
上島 武
- 9・30(金) 制服を脱いだ中国社会主義
山本 恒人
- 10・7(金) 経済のソフト化と知の空洞化
—80年代末に節目を読む—

「大学の理念と社会的役割」
植田健男(本学講師)
「産業人からみた大学像」
都筑馨太(旭化成代表取締役 副会長)

「臨教審と私立大学」
保田芳昭(関大教授)
「近未来の経済システムと教育システムの関係」
森田寿一(本学助教)

以後、フロアー(学生)から40件以上の質問用紙が提出され、各パネリストから熱心な回答がなされました。殊に今回初めて実業界から参加していただいた都筑副会長に質問が集中し、学生の関心の程を察することができました。

◇学術講演・懇談会の開催
3月15日(火)午後0時30分より記念館7階同窓会ホールにおいて、大阪経大学会主催による下記の学術講演・懇談会が開催されました。
ニッシュ教授はアジア史とりわけ日英外交史がご専門で、本学の先生方がイギリスへ留学された際



京都大学教授 佐和 隆光
10・14(金) 情報管理社会のリアリティ
重本 直利
10・21(金) 情報化社会と日本文化
山本 晴義

マスコミ関係

- ◇63年新聞紙上での本学記事 (抜粋)
- 新入生に「草魂」を注入
鈴木氏が経大で講演 (スポニチ)
 - 国産材「駆逐」で豊富な資料
山田達夫教授(顔写真) (スポニチ)
 - 「フォレスト・ポリシー・イン・ジャパン(日本の林政)」の紹介 (読売夕刊)
 - 大経大 劇的V
近畿学生アメフット (スポニチ)
 - 関西・大学野球に期待の星
晴れの開幕堂々の完投
有働克也(大経大) (読売夕刊)
 - 大経大 2季ぶりV
(産経 朝日 毎日)
 - 大経大 完全V果たす
最優秀投手に1年・有働 (読売)

いへんお世話になった方です。当日の出席者42名(学内41名、学外1名)。

テーマ 『イギリスと日本』
講師 ニッシュ教授
(Prof. Ian H. Nish)
ロンドン大学国際関係史学部 (Dept. of International History, L.S.E.)
司会 渡辺泉 本学教授

◇その他の学会
関西中小企業研究会
62・11・14
63・3・5
63・4・23
63・9・17

経営分析学会(産業分析・デイス クロージャ部会)
62・11・14
63・9・17

関西教育行政学会
62・3・19
62・4・2
63・9・17

日本中小企業学会(西部部会)
63・9・17



ほん『生協運動の新時代』の紹介
大阪経大がV23
淀都五大学総合定期戦 (産経)



公開講座



◇第6回公開講座 (趣旨)
20世紀末を迎えて、いま世界は激動のさなかにある。各国の経済政策と、それを支えてきた思想は見直しを迫られている。世界をリードしてきたアメリカは、これに双子の赤字と世界最大の債務国転落に苦しんでおり、経済政策の再検討を求められている。またソ連では、ペレストロイカのもとで、既存の集権的経済システムから分権化への移行が図られている。中国でもすでに1980年以降、分権化への経済体制改革が行われている。

現代社会はまたソフト化・情報化・国際化の波に洗われている。経済のソフト化と知の空洞化はどこまで進むのか? 氾濫する情報のなかで現代社会はリアリティーを喪失させたのか? ソフト化・情報



◇NHKが「電子体温計」について
西山豊講師を取材
6月24日(金)東京からNHKテレビの取材班が本学を訪れ、午後2時から記念館5階の情報処理研究室において西山豊講師へ電子体温計についてのインタビュおよびゼミ実習のビデオ撮影を1時間に行いました。インタビュアーは高梨敬一郎チーフアナウンサー。
今回の取材は西山豊講師が「予測式電子体温計は水銀式に比べて少し高めに出るのではないか、また値のバラツキも大きいのではないか」と、疑問を投げ掛け、それが63年2月7日(日)の朝日新聞朝刊家庭欄において取り上げられたのがきっかけ。
7月6日(水)NHKテレビモニターングワイド(全国ネット)で「電子体温計は正確か」というタイトル

前半は、「留学」先生の場合」として、それぞれの先生方から研究と生活、大学の紹介、大学生について、などの体験談。後半は、アメリカ・カナダ社会と日本社会とのモラルの違いについての受け止めかた、日米の大学生比較、サバイバル・イングリッシュとは、中



区分	63. 3. 29現在累計	
	件数	金額
企業	90	67,160,000
一般	2	60,000
在校生父母	1,077	19,670,000
卒業生	2,770	82,118,612
本学法人役員など	8	11,050,000
旧教職員	30	8,420,000
教職員	179	37,480,000
合計	4,156	225,958,612

◆上新庄駅他に電飾広告を増設
本学の電飾広告は、63年2月に上新庄南改札口付近に設置しましたが、今回、さらに次の3カ所に増設しました。

●教職員

- 横山 恵里 50,000
- 邑部 久志 30,000
- 以上 以上

◆募金報告

昭和62年10月30日以降、63年3月29日現在の入金状況についてお知らせします。

寄付金入金状況

(63・3・29現在)

- 卒業生
 - 第13回(昭和22年卒) 浦西シズ子 10,000
 - 第28回(昭和37年卒) 山本 幸伸 50,000
 - 第31回(昭和40年卒) 山崎 敏輝 10,000
 - 第32回(昭和41年卒) 中嶋 正憲 10,000
 - 青木 正晴 10,000
 - 第37回(昭和46年卒) 故大西 正志 30,000
 - (遺族・実雄)
 - 第45回(昭和54年卒) 川勝 敏之 8,000
 - 第54回(昭和63年卒) 吉田 光晴 10,000
- (個人累計 10,000)
- (申出により)
 - 第22回高野 守 100,000
 - は北里ゼミOB会(代表 高野守) 100,000に訂正します。

15:15 図書館閲覧室・書庫見学
15:40 学生会館喫茶部
16:00 購買部・書籍部・大食堂見学
16:10 あいさつ、解散

◆誓ってみようーアメリカ大陸・中国大陸
6月1日(水)図書館3階自由閲覧室

今回は、カナダ・アメリカから帰国のお元氣そうな藤本寿良先生、中国で深い文化摩擦を体験されたとかで(当日の談話より)、憂愁にみちた山本恒人先生のお二人と、先生と学生のギャップを埋めようと橋渡しとしてのコーディネートを引き受けてくださった加藤普章先生をお迎えしました。そして先生方3人に加えて、カナダ・アメリカ・中国に滞在経験のある学生2人(中村君・名田君)、これから行ってみたいという学生(西岡君)にも参加、協力をお願いしました。

その他の行事

◆記念館「雲」のテレビ撮影
「DODAMAはかえる、瀬戸内海の用心棒、流政之」のタイトルで全国ネット放映される番組のビデオ撮りが63年7月3日(日)午後、50周年記念館前庭、ロビーにおいて行われました。
関西地方は読売テレビで、7月30日(土)午後4時から4時55分の間に放映されました。

◆第1回秋のシネマフェスティバル

『Histories In Movie』
スコア・砂漠・オリエンピック
62年11月9日(月)
『アマデウス』
山本正先生 推薦&お話 (歴史学担当)
62年11月10日(火)
『アラビアのロレンス』
加藤普章先生 推薦&お話 (国際関係論・政治学担当)
『炎のランナー』
C・A・渡辺先生 推薦&お話
図書館では秋の文化活動として標

◆「経大における女子学生」
ネルデイスカッション

「経大における女子学生」というテーマで、女子学生によるパネルディスカッションが62年11月20日(金)午後1時から、記念館7階同窓会ホールで開催されました。山本晴義学長にもご出席いただき、司会の本多三郎先生のもと、卒業生の石田直子さんをはじめ、1年生小石美智子さん、2年生宮住真保さん、3年生古市康子さん、4年生阿部衣子さん、教員橋本紀子先生、職員替地勝治氏の7名がパネラー、そして本日の主役である女子学生68名がフリートークの形



で行われました。勿論その他32名の教職員を含めての和やかな中にも厳しい発言、そして討論がなされました。

特に毎日の生活の中で基本的な諸問題、談話室やトイレなどについての不満、また小人数である為のカリキュラム問題、男女間の交流等について色々な問題が浮き彫りにされ取り上げられました。
談話室問題では、たばこの煙の無い部屋、講義の合間の居場所が無い、食事を摂るにも生協食堂は男子学生が多く恥ずかしいし、又たばこの煙が多い、ゆっくりできる場所が欲しい。トイレ問題では、いくら不便を感じても記念館・本館を利用する、といった声が多か

った。又、カリキュラムの問題では、特に体育授業では、男子学生に混って一人での実技は、色んな面でやりにくいと云った、2部学生からの声があった。1部学生では、語学の授業に女子が少数故に何かとやりにくい、という意見がでました。
すべてとはゆかないまでもある程度の本音は聞き出すことができましたと判断出来る結果となりました。大幅に予定時間を超えましたが、初めての試みながらある程度成功したと思っています。

◆東淀川区婦人学級の参観

東淀川区役所傘下に設けられている、婦人学級(43名)では、年度計画の一環である地域再発見の目的で、かねてから本学の見学と講演会の開催を希望しておりましたが、62年12月9日、広報部で実施しました。
本学正門前に集合
13:40 記念館4階AV教室に案内、あいさつ
13:50 岡本昌夫学生部長講演『現代の大学と学生』
14:40 電算室の実習見学
14:50 記念館1階ロビー・談話室、記念映像見学
15:00 校庭見学

定年退職・特任教授就任のごあいさつ

井上ゼミ出身ならびに関係各位の皆さんお元気でしょうか。お伺い致します。小生の方は最近急激に健康を回復し張り切っていますのでご休心下さい。

井上 清 先生

さて私は本年3月末を以って、定年(70歳)退職致しました。昭和22年6月、本学に奉職して以来、40年10ヶ月の長期間、なんとか大過なく勤務し終えることができましたことは誠に感謝・感激に堪えません。恩義を蒙った多くの方々に深くお礼申しあげます。戦後日本の政治・経済の歩みと共に、一喜一憂してきた40年は、誠に多事・多難、激動の40年でした。それだけに緊張と生き甲斐があり、悲喜こもごもの思い出に充たされています。「思い出多い人生はすばらしい人生だ」と思える今日この頃です。

なお、本年4月1日以降、現役を去りましたが、特別任用教授として以前と全く同じ講

ゼミ短信

義(工業経済論・企業形態論・ゼミを担当しています。そして人生の高年段階においては、今まで未経験ないろいろなことにもトライして、一層豊富・多面的な生活に挑戦してみたいと思っています。今後共によろしくお願ひ申しあげます。最後に各位のご自愛・ご健勝の程切に祈りあげます。

記念すべき清寿会

井上ゼミOB会

井上清教授を名誉会長とし、井上ゼミ出身者を中心とした清寿会の総会が、昭和63年4月17日、母校の50周年記念館で行われました。今回は、井上教授の古稀、教授御退任(特任教授として引き続き教鞭を執られます)、清寿会20周年と、特に意義深い年であり、出席者も94名にのぼり、さらに鈴木理事長、山本学長、高城経営学部長、松本大学院委員長、同窓会本部より磯野会長、比企副会長、陰下事務局長のご出席をいただき、非常な盛会となりました。

先生の近況

白内障の手術を受ける

岩井 茂 先生

小生、本年1月左眼の白内障が高じてきましたので手術を受け、眼内レンズを入れてもらいましたが、はからずも眼底出血があり、切角の手術にもかかわらず十分に視力を回復することができず少々ガツカリしたが、手術前よりは明るさが増した右眼の助けとなつていきますのでせめてもの慰めと致しております。その他体調は全般的に良好ですからありがたいと思っております。

短歌を友として

平 実 先生

御無沙汰しています。皆さん御元気で御活躍のことと拝察します。小生も相変らず呼吸をしていますので他事ながら御休心下さい。

青年時代から短歌、俳句、川柳といったものに関心をもっていました。やはり短歌が小生の性格に最も適しているようです。現在、三つの短歌結社に所属していますが、毎月、平均五十首ぐらい作歌しています。過去何十年間に創作したもので最近年次の作歌など集めて、これまで4冊の歌集を上梓しました。

卒回生集計 (昭和63年3月29日現在)

卒回	累計	卒回	累計
1	1,080,000	29	925,000
2	720,000	30	1,463,000
3	3,630,000	31	1,189,222
4	330,000	32	1,713,000
5	790,000	33	1,696,000
6	1,670,000	34	1,225,000
7	3,190,000	35	1,447,000
8	1,550,000	36	1,398,000
9	3,110,000	37	1,271,000
10	5,410,000	38	955,000
11	4,093,000	39	854,000
12	1,815,000	40	805,000
13	2,380,000	41	461,000
14	1,240,000	42	426,000
15	1,329,600	43	468,000
16	745,000	44	337,000
17	1,330,000	45	540,000
18	920,000	46	611,000
19	12,060,000	47	444,000
20	760,000	48	471,900
21	1,523,000	49	458,000
22	1,150,000	50	402,000
23	1,875,000	51	1,132,000
24	940,000	52	558,000
25	1,130,000	53	0
26	1,085,000	54	10,000
27	1,315,000	他	50,000
28	755,000	OB会	2,932,890
計			82,118,612

支部別入金累計 (単位:円 63.3.29現在)

支部名	累計	
	件数	入金額
東京	191	13,906,000
東海	44	1,588,000
岐阜	20	790,000
滋賀	37	750,000
京都	108	3,014,000
大阪市役所	36	1,068,000
大阪市	254	7,130,000
北摂	49	1,256,000
豊中	63	1,618,000
西宮	158	4,099,000
神戸	131	3,073,000
東播磨	72	1,409,000
姫路	50	1,000,000
岡山	133	2,057,000
広島	80	2,250,000
山口	26	710,000
北九州	56	981,000
南九州	27	1,150,000
福井	41	765,000
石川	27	425,000
富山	25	535,000
香川	44	702,122
愛媛	37	725,000
徳島	29	515,000
高知	18	360,000
丹有	85	1,115,000
奈良	111	2,600,000
三重	36	1,025,000
泉南	27	1,670,000
和歌山	98	1,494,000
鳥取	10	135,000
島根	21	333,000
北海道	5	335,000
未支部分	621	21,535,490
合計	2,770	82,118,612





当日、会員の中には静岡、名古屋、広島、香川など遠方から参集された人もおられ、会員同士、旧交を暖める輪が会場のあちこちに出来ました。

古稀を迎えられた井上教授は、最近、非常にお元氣になられ、当日もいの一歩にカラオケのマイクを握られ、日頃の練習の成果を披露されました。

白井 莊治(28)

清寿会文化サロンが出来ました

井上ゼミOB会

清寿会も発足して早や20余年を経過し、大人数のOBを擁する大世帯となりました。か

第8回北里会総会

北里ゼミOB会

9月17日(土)、恒例の北里会総会・懇親会が、阪急伊丹駅前第一ホテルにて開催されました。

この度の総会・懇親会は北里先生御夫妻が、御長男の家に引越されたこともありまして、伊丹の御自宅(〒664 兵庫県伊丹市中央3-1-20)付近のホテルにて行われました。

当日は、午後4時から受付でしたが、天候も良く遠方は四国からも参加者がありました。先生も御自宅から元氣に歩いて参加されました。

総勢24名でお客様として先生御夫妻の他、大学からは泉谷・松本両教授、同窓会からは比企副会長・陰下事務局長が参加されました。



ねて一部の有志より、「益々多様化する激動の時代に対応していくには、単に自分の職業的視野だけでなく、色々な分野にわたる幅広い情報や知識が要求される」と提案されてきましたが、それには「固苦しくなく、気楽に意見や経験を交流しあえる『場』として、清寿会のメンバーを中心にサロンの雰囲気をもった勉強会を作りたい」という気運となりました。そして本年4月、井上清先生の古稀と定年を迎えるのを記念パーティが開かれたのを機会に、「当日有志より「勉強会を作ろう!」の呼びかけがあり、趣旨の徹底が不十分であったにもかかわらず、即日10余名の賛同者を得ました。第1回目の会合は、昭和63年8月6日開催され、参加しやすい場所ということで大阪市内の大市大のセンターを利用しました。今後、公共交通の便利な場所を会場に設定したいので、安くて便利な会場の情報をお待ちしています。今回のメンバーは、やや高年齢者社会になっていますが、この点は構造変革の必要があるようです。また、井上ゼミ出身者でなく他のゼミの人々もいます。井上先生をルーツとした、多数の同窓生に支えられる会にしたいものです。情報化の勉強会には、いろんな職業の人々の参加こそ、その真価が発揮出来るものと信じています。

第2回の例会は会員だけでなく、同窓会の知人・友人約70名に案内をしたところ、参加希望の連絡が事務局に数多くあり、いささか意を強くしている次第です。

菅 脩(16)

北里先生からは「今年で私が北里会から身を引くと家内には言っておったのですが、家内から『あなたが始めた北里会ではない』と一喝され、今後とも皆さんのお誘いがあるなら参加したい」とおっしゃられ万雷の拍手を受けました。途中先生の御長男も挨拶に来られ和やかなうちに会はお開きになりました。

文責 大門(46)

(お礼及びお願い)

62年9月より63年8月まで54名の方々から16万2千円の運営費をご送金下さり有難うございました。厚く御礼申し上げます。

さて、63・64・65年度の運営費として3千円を徴収させて頂きますので、何卒ご理解頂きましてご協力下さいますようお願い申し上げます。運営費につきましては、郵便振替にてお願いいたします。左記宛ご送金下さい。

口座番号 大阪5-300332

加入者名 北里会

住所変更その他ご連絡等ございましたら左記までご連絡下さい。

越川 昇(35)



大槻弘ゼミ「弘有会」発足

大槻弘先生がゼミを担当され早や30年も過ぎようとしています。この間教えを受けた卒業生も千人を越す多きに達し、教えを受けた私達と同様、先生もお歳を重ねられ、早や還暦を迎えられる事となりました。これを機会に卒業生が一堂に会し、先生に

先生の近況

短歌結社に加入し、多くの女性の歌友ができました。歌会などに出席すると「万緑叢中紅一点」でなしに「万緑の中の緑一点」というときもあるのです。そのせいか、ますます若やいだ気持になりつつあるようです。小生の近作一首です。

「中尾茂夫ゼミのOBへ」

中尾 茂夫 先生



それぞれ、社会人になって数年が経つと思いますが、みなさん、お元氣ですか。私の方にも、結婚したという話、転職したいという相談等いくつかの近況が届いております。

私の方は、87年3月で大経大を辞めて、今は、大阪市大の経済研究所で働いています。学部とは異なり、研究その他の原稿/切に追われるという毎日が続いております。そのせいか、これまでの研究をまとめて出版することができました(『世界マナーフロア』同文館)。

他面、学生と接することがなくなったこと(大学院生はいますが)は、少し淋

しい気もします。大経大の時、若い諸君と議論を交わしたり、ゼミ旅行でスナック貸し切りで夜半まで飲み回ったこと、あるいは、大山でスキーに興じたこと等は、今では良き思い出です。諸君の健康と御多幸を祈って、筆をおきます。

大槻弘先生の還暦をお祝する会



大槻弘先生がゼミを担当され早や30年も過ぎようとしています。この間教えを受けた卒業生も千人を越す多きに達し、教えを受けた私達と同様、先生もお歳を重ねられ、早や還暦を迎えられる事となりました。これを機会に卒業生が一堂に会し、先生に

お祝いと感謝の念を表するため、去る昭和62年11月28日、大阪市東区の国際ホテルにおいて、大槻弘先生の還暦をお祝する会を行いました。

当日は近畿在住の大槻ゼミ卒業生と在校の4回生、百数十名が集い、また同窓会本部より磯野会長、萩原顧問にも参加をいただき予定時間をオーバーするほど楽しい一刻を過ごすことが出来ました。

会は、田中氏(27)の司会により進められ、ゼミの第1期生杉原氏(23)が会を代表して

人間、梅田先生

人は皆、与えられた生を終える日を迎えねばならない。その時まで、「どの様に生きて来たか」が大切なのだ。

昨冬、大往生を上げられた梅田先生は実に50年にわたって経大と経大生にその命を注いで下された。その意味で先生は経大の至宝であったと言う事が出来る。

私が昭和23年経大入学以来、今日迄、永年にわたって先生と御深交を頂く事が出来たのは、実は野球のお陰だと思っている。私は在校中、中国語をとらなかつたので、先生の御教鞭を受ける機会が無かつたのだが、当時軟式野球部(現在の準硬式)を新設した私共の最も良き理解者であった先生と、あらゆる面での御交宜を頂けたのは幸せであった。

卒業後、私共の同期で土球会を結成し、

お祝いと挨拶を行い、次いで来賓の萩原氏より祝辞をいただきました。引き続き当日出席できなかった卒業生や、先生の幅広い御活躍による各方面の方々からの祝電披露が行われ、そして、お祝いと感謝の意をこめ、特に富山より駆け付けられた重松氏(23)が記念品、また原氏(31)、藤原氏(在校生)が御夫妻へ花束贈呈されました。

引き続き、北本氏(23)の音頭による乾杯を合図に先生を囲み、また卒業生同士が和気あいあいと歓談し、特に、西岡氏(31)によ

先生にも会員として御参加頂く事が出来、何度か一緒に旅行や会食を行う中で、私は今まで学校で気付かなかつた、人間、梅田先生の姿にそれまで以上の尊敬と深愛の思いを深めた事であった。

先生と語る時、その殆んどの人が先生の誠実さを強調するであろう。又先生の酒豪ぶりも語られるに違いない。しかし、先生程、奥様を愛し、家族を愛された方を私は知らない。土球会の旅行でも、常に奥様を同伴されたし、お嬢さん夫婦と同居され、お孫さんを、それはそれは大切に居られた事は、先生の本当のお姿を知るキーではないだろうか。

又、外大同期の方々との御交宜をとても大切にして居られた先生は、亡くなられる前年迄、グループでの会食のお世話をして楽しんで居られた姿が、今もほうふつとするのである。



私の想いは尽きる事はない。然し、先生が経大に遺されたものは喩えようもなく大きい。それは経大の伝統の中に、又教え子の心の中に今も生き生きと思っているものである。

これを書きながら、「こいつ、えっかつこをしゃがって！」と笑っておられる先

る踊りが披露され、一層会場は盛り上がりました。

また、当日の参加者により今後とも団結と懐旧を温める場とし、大槻ゼミ同窓会を満場一致で「弘友会」と命名し、発足の運びとなりました。そして、次回の弘友会での再会を約し、盛況の内に幕を閉じることが出来たことを感謝しております。



湯呑茶碗

山中 良夫(19)

浅沼 玄真 先生
梅田さんが3年余の闘病生活の後、学生部長に復帰された昭和30年代は、学校の方もえらく忙しい上に、何もかにも無い物ばかり、特に不足したのが時間であった。殆んど毎日夜8時過ぎまでは校門を出られなかつた。

市電の天六の停留所前に、間口一間半位の屋台のすし屋があつた。夏は「力ずし」と染め抜いた暖簾が下がり、冬は「力鮎」と大書した障子戸がはまる。構えは控え目だが、値段は安いとはいえなかつた。若い主人が梅田さんの旧知だったので私もよくお伴をした。梅田さんは海老の鬼がら焼きとかいうのを肴に酒ばかり飲み、私は専ら食べる方だが、すしは余り好きではない。或る時、百貨店のトイレで白い割烹着の若い衆が用を足した後、手水を使わないで出て行くのを見てから、握り鮎が少しこわくなつて来た。がここの赤だしは大変おいしかった。鮎屋では大抵、大きな湯呑茶碗を出す。この店も、堂々たる大茶碗で、店の中で一番気に入つて来た。その夜は風が身に沁み初める晩秋であつた。障子戸が開いて30年配の

女性が入って来て「遅くなって……待つた先生？」と梅田さんの隣りに吸いづくように腰をおろした。「いや、一寸前に来たんや……マア呑めや」来てから既に1時間以上はたつて居た。私は常連の女客位に思つた。それにしては梅田さん、女客、亭主の会話はかなり親しいものであつた。頃を見はからつて私が帰りかける。「その茶碗持つて行けや」と梅田さんが自分の物でも呉れるように、亭主にその茶碗を紙に包ませて私に持たせたので「すまん」と頂戴して帰つた。

それから数度、その女性と同席した記憶がある。冬に入って寒い或る夜、別の友人と鮎を食べに行つた時、若主人が、「あの女は梅田先生のコレだつせ」と小指を立て乍ら、彼女が、梅田さんが入院中の看護婦さんで子供もある未亡人であること、鮎屋自身も患者であつたこと等話し出した。私もホノボノと温かい気持ちになつた。その後、一度だけ、「今夜は彼女と逢引きやねん」といたずらっぽい笑みを浮べた梅田さんの陽炎でも立ち昇るような全身の表情が忘れられない。

守りに護つて来られた82年の命もとうとう土に帰つて行つてしまつた。

あの夜もらつた茶碗は今も愛用している。

さて、もうこれを限りに、がんばがらめの追憶記はご免蒙りたいものと……思つております。 宇余り万謝。

卒業生諸氏の盛りに期待

竹林 祐吉 先生

大病をしてからもう丁度3年になりますが、その後、日によって調子のよい日とそうでない日の変化はありますが、何とか平常の生活を維持して過しています。病前のような状態への全面的回復は無理でしょうから、この頃は適当に病気とつき合うような気持ちで対処しています。したがってゼミ旅行も遠くへは行かず、昨年から信州のペンションを2泊3日借り切りで実施しています。

OB会は卒業生諸氏の盛りに期待がないと実現困難だと思っています。一度考えてみて下さい。

ゼミの人脈は脈々と

徳永 光俊 先生

みんな、元気でやってくるか？ 下を向いてへんか？ 4年生のゼミは少数で男ばかりやから、僕は気落ちしながらもなんとか持ちこたえています。「パチンコと軍艦マーチ」とか、「経大生のフアッション感覚」等々、相変わらずけったいな卒論テーマで、ゼミ生は研究に四苦八苦しています。

澱江（淀川）の河原でのソフトボール十焼肉大会を、またやりました。2年から4年まで総勢50人ほどが参加したので、ソフトそっちのけで、壮絶な肉弾戦になってしまいました。

た。コンパもやっています。この頃は、長淵剛の「乾杯」を歌っています。

3月25日、黒沢君の歌った「乾杯」、覚えてるか？ 良かったな。この歌、僕のゼミのテーマソングにしています。みんなにももらった花束は、ドライフラワーにして今も飾っています。

吉田山の麓で毎日ポニーとしてると、地下水が一年じゅう流れてるのが聞こえます。この水脈は鴨川まで延々と続いているんだそうです。

僕らのゼミの人脈はどうやらな？ 金脈やとなくなってしまうばオジャンやけど、2年間のゼミ生活で気脈を通じ合った僕らは、いつまでも脈々とながってほしいもんです。青春のほんのページにすぎんけど、現在の生き方はやはりどっかでそこつながってんのやから。勿論、現在は未来への意志によっても規定されています。毎日仕事で忙しいと思うけど、せつつかずゆつくりお茶を飲んで自省してみても下さい。あの湯呑み、もう割ったんとちやうか？

45の冷蔵庫にはビールが満杯です。コーヒも簡単に入るようになりました。みんな、ありがとう。次会う時には、胃薬を頼むわな。ほいじゃ、さいなら。(88・8・28)

ゼミの伝統を伝えたい

松村 幸一 先生

れだけ大経大が国際的になったのでしょうか。一昨年出掛けたマレーシアのチェラチンピーチ（地中海クラブ）は大変楽しく、マレーシアの中のヨーロッパという感じでフランス人、オーストラリア人、ドイツ人、北欧の人々に囲まれて、毎日いやが応でも英語（いろいろの言語の人々がいるので、英語が共通語）をしゃべることになり、中川ゼミの最後の演習の場として、最適の場所でした。今年はいの地中海クラブ、プーケット島へ行く予定です。今年度の4回生はすでに2名が休学しています。また短期留学生1人、来年度卒業後留学を予定して居るもの3人とこのところ外国で学ぶ学生が増えています。国際語としての英語や国際感覚が社会で急に必要とされてきたのでしようか。

きました。30何年間、勉強して「やっ」とです。いま40歳代のゼミ生にはまことにチャランポランを教えてきたものと反省しています。みなさんのご多幸（まず健康であること）を祈ります。

就職状況良好

松原 和男 先生

卒業生の皆さん、元気で御活躍のことと思います。今年の就職状況は大変良好でした。学生諸君自身の努力、就職部職員の献身的な協力のほか、日本経済の好景気に助けられた面はありましたが、とりわけ、卒業生の皆さんのご尽力があったためと感謝しております。

就職状況は大学に対する社会の一つの評価となつていようです。来年度は経済情勢の変化も生ずるでしょうが、さらに好成績をあげよう努力するつもりです。

皆さんのより一層のご尽力をお願いします。

国際化を楽しむ

中川 操 先生

中川ゼミの卒業生の皆さん、お元気でそれぞれの職場で活躍のことと存じます。10年余り前、海外ゼミ旅行を始めた当時はぜい沢の特権階級とか非難を受け、肩身の狭い思いで海外へ出掛けましたが、今では当たり前という感じで受け取られるようになりました。そ

久しぶりに「澱江」の誌面をかりてお便りをさしあげます。ふりかえってみますと、松村ゼミの最初の卒業生を送りだしたのが昭和42年の3月でしたから、もう21年になります。

1学年平均20名とすると、400人をこえる卒業生が各界で活躍されていることになりました。最初のゼミ生が卒業したころに生まれた人が現在わたしのゼミで勉強しているのだと思うと、光陰矢のごとしという思いがします。3回生と4回生とが共通の時間をもつことがほとんどありませんから、ゼミの伝統を先輩から後輩へ伝えにくいのが残念です。お忙しいとは思いますが、ときには大学に立ち寄っていただいて、ゼミの後輩に声をかけてやってくださるとありがたいのですが。このところ毎年水曜日の2限（10時20分から）と3限（12時30分から）にゼミを行っています。

句会の秀作を紹介

松本 剛 先生

7月にゼミ合宿を琵琶湖で2泊3日、やりました。卓球、テニス、水泳、など勉強のほかにも成果大でした。句会の秀作をいくつか紹介します。

- 雨やんで新緑光る琵琶湖かな 雄太郎
 - ゼミ合宿筋肉痛いなんのゼミ 孝明
 - そよ風が琵琶湖大橋駆けぬける 武史
 - 朝もやの湖面を渡る舟の音 雅範
 - 夏の夜琵琶湖大橋星走る 義雄
- この頃、会計や簿記が本当に面白くなつて

た）、ワシントン州バスツアー、どれをとっても楽しい思い出ばかりが残っていて、参加した学生にキャンパスで出会うとアメリカの話がはずんでお互いに教室へ行くのを時々忘れてしまいます。楽しかっただけでなく私も卒業証書を書事貰うことが出来、立派に英語留学の目的も果たすことが出来ました。

楽しみなながら学ぶ、学ぶことを楽しむ、楽しむことを学ぶなど実りの多い夏休みでした。大経大には外国人学生がいなくて大学の中で国際化はなかなか実現しませんが、学生の意識は急速に変わっていつているようです。最近半年末、お正月は日本で過ごしています。一度ご連絡下さい。

「両道会」の発足に向けて

松村 文武 先生

卒業生の皆さんお元気でですか。私は今年はずっとひどい風邪に罹りましたが、3月になって元気を取り戻しています。研究の面は順調に推移しているといつてよいと思います。この4月にも、単独書としては3冊目にあたる「債務国アメリカの構造」（同文館）が発刊されたところですが。

さて、早いもので、私が経大に赴任してから満12年が経ち、本年4月から13年目に入りました（近代時代から通算しますと21年目）。この間ゼミの卒業生も数を重ね、1部は10期2部は5期生までが会社で巣立って行きました。丁度そのおり今年卒業した10期生のOB

キャンパスだより



我々硬式野球部は、今春の関西六

硬式野球部

伝統ある淀都五大学総合定期戦も本年で25回を数え、5月28日、6月11日の2週間熱戦が繰り広げられました。
今回もさらに連続優勝を目指し、体育会員一丸となって戦いました結果、13種目の優勝を納め、第9回大会以来、連続17回、通算23回目の優勝を果たしました。

体育会

淀都五大学 総合定期戦

伝統ある淀都五大学総合定期戦も本年で25回を数え、5月28日、6月11日の2週間熱戦が繰り広げられました。

準硬式野球部

我々準硬式野球部は今年度、全日本大学準硬式野球選手権大会でベスト8となりました。2回戦、北海道教育大学函館分校を5-0で下し、準々決勝は福岡大学と対戦し0-4で敗れてしまいました。
過去に準硬式野球部の諸先輩方は、全日本制覇をはじめ幾度となく全日本選手権で輝かしい成績を納められています。現在、秋季リーグ戦中ですが5連勝しています。部員一同一丸となって、準硬式野球部の諸先輩方が築いてこられた伝統を受け継ぎ、33回目、34回目とリーグ優勝を果たし、全日本選手権大会制覇を目標に頑張っていきたいと思えます。

バドミントン部

●関西秋季リーグ戦1部4位

カヌー部

わがカヌー部は、現在4回生2名、3回生2名、2回生5名、1回生5名、計14名です。
本年度は他大学より早く2月上旬

ゴルフ部

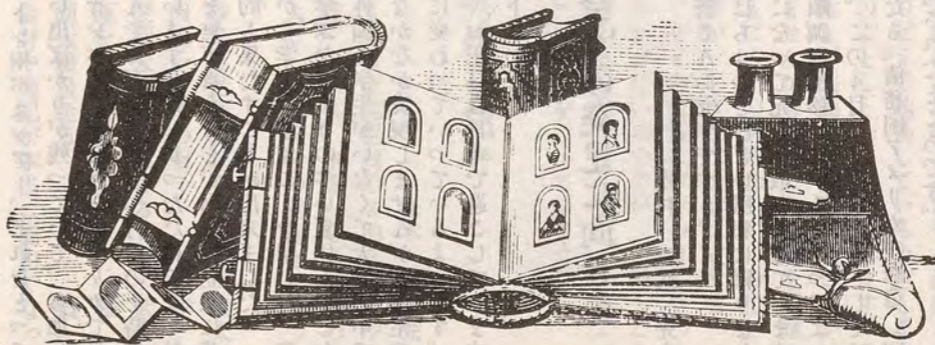
我々ゴルフ部は、今春の関西学生男子3部大学対抗戦において優勝することができました。また、入替戦においても勝ち2部に昇格しました。従来毎年のように入替戦をしているので、これからは2部の位置を上位でまもり、1部昇格を目指して部員一同、なおいっそうの努力をしています。

学術会

簿記会計研究部

から練習を開始し、その甲斐あって大阪学生選手権で総合優勝を果たし、そして念願の関西学生選手権では同志社大学を破り、総合優勝を果たしました。また10月に行われた関西選手権においては、高松室安組と松本飯高組が、ペアにおいて1・2位を独占することができました。
今後は、後輩の育成とともに関西学生選手権の連覇と、今まで以上の成績を残すよう努力していくつもりです。

わが簿記会計研究部の部員数は、現在、4回生4人、3回生12人、2回生21人、1回生22人の計59人(うち女子部員は9人)という学術会では最大の人数を誇っています。
わがクラブの活動は、月、水、金の午後5時30分からの学習会が中心です(ただし、1回生は6月の簿記検定まで月、土。(土は2、3限目)。1回生は、まず6月の検定へむけて会計学の基礎である簿記を学習し、検定後からは本格的に会計学を学習します。2回生は、6月の学習発表会、11月の部内討論会へむけて学習し、また3回生とともに春と秋の関西学生会計学研究会(5月と10月)、春と冬の3校討論会(6月と12



(注)この一文は本年4月に郵送したものです。が、送った方は限られていますので、ここに再録させていただきます。これをごらんの方は御一報下さい。

意見にもとづくものです。この言葉の由来は、小生の名前からのものです。私の名前は「文武両道に秀でた人間になるように」という願いをこめて付けられたようです。かすかに軍国主義的な臭さを感じておりましたが、いずれにしても欲張った名前であることに変わりはありません。したがって、あまり好きとは言えないのですが、ゼミ指導の上では、私は「よく学び、よく遊ぶ」、「切り替え、けじめのきくこと」などは、モットーとしておりますし、社会人としても「よく働き、よく遊ぶ」、「人生と仕事の両立」などといいかえれば、あながち古めかしい死語というわけでもないと思いたしました。何かご意見があればお聞かせ下さい。
最後にこの種の同窓会について私の感想と経験を述べておきます。学生時代の人間関係は、現実的利害関係がないことと、青春時代を共に過ごしたという二つの意味で特異であり貴重なものです。そしてこれは皆さんの年齢に比例して、意義深く、懐かしいものに感じられてくると思います。今回の作業はこの時のためのものということになりましょうか。それでは皆さんの御健勝と御活躍を祈りつつ筆をおきます。
卒業生各位
1988年4月
大学 千533 大阪市東淀川区大隅2-2-18

月、同大・立大―財務)、6月の2校討論会(近大―管理)、それ以外に全日本(7月)、西日本(11月)大会に参加します。そして、3回生はこれらの大会での論文発表にむけて学習しています。

勉強ばかりではなく、リクリエーション面でも充実しています。例えば、新歓や打ち上げなどの各種コンパ、ボーリングやソフトボールや花火大会などのリクリエーション大会、春と夏の合宿などがあり、先輩と後輩または同輩同士(そして、わがクラブの顧問である渡辺大介先生とも)、深い交流をはかれるように行事を行っています。

最終になりましたが、今年5月15日(日曜)に第45回関西学生会計学研究会の主催を無事終えたことを報告しておきます。そしてまた、来年、創部30周年記念祭が控えています。これからもわが簿記会計研究部を充実したものにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

文学研究部

わたしたち文学研究部は、現在部員十数名を擁し、日々討論と創作活動を行い、各々によりよい構想を練り、部員の文章力の向上を目指し、より優れた作品を発表するために切磋琢磨しております。

今後の活動目標としては、文学研究会会誌『もよろん』はもちろんの

こと、現在季刊化を計画している小冊子の発行、それに文学に対する意見の交換などをするためにも、他校との交流を増やすことを考えています。

英文タイプ部

私たちが英文タイプ部は、現在部員数16名、そのうち男子部員は13名、女子部員は3名で活動しています。今年度も新入部員が3名加入し、連日タイプ基礎技術の向上に努力しています。

現在の活動状況としては4・5月の新入生勧誘、6月の学内定期討論会、部内ボーリング大会、7・8月の夏期合宿、10・11月の学園祭、春の合宿、卒業生追出しコンパなどが主な活動です。また、今年度の夏期合宿は南紀勝浦で3泊4日の期間で行い、顧問の先生も参加され成功に終わりました。

これからは、秋の学園祭に向かい模擬店の出店、アートタイプの製作・展示、一般客に対するタイプによる名刺うち、部内外者によるタイプ・コンテストを計画しています。また、時代の新しい波に対応できるように、部としてワード・プロセッサを購入し、英文タイプだけでなく、新しい技術を習得しようと努力しています。

芸術会

軽音楽部

我々軽音楽部は、ロックからジャズまで幅広い活動をしており、定期演奏会、学園祭、各バンドでのライブ活動など多くの行事を催しております。

練習時間は、個々自由で好きな時間に思う存分練習し、夏には合宿(女子大との合同合宿)もあり、楽しいクラブです。

演劇研究部

我が演劇研究部は部員15名で、内女子3名です。わが部は年3回の公演(6月芸術会行事のごくつぶしの夕べ、11月学祭新人公演、12月秋季定期公演)を中心に、日夜練習にはげみ、技量の充実とよりよい人格の形成を目指し活動しております。大阪経済大学の名に恥じないよう、今後がんばってまいりますので後援の程よろしくおねがいします。

写真部

部員数は現在23名ですが、1回生部員のうち2名が2部生という今ま

でに無いパターンが生まれました。いずれも自ら部室を訪ねて来た者で、一人は夏合宿にも参加して部の雰囲気にも慣れた事と思います。ちなみに今年の夏合宿は徳島・阿波池田に拠点を置き、四国全搬の撮影でしたが、合宿の成果はどうだったでしょうか?

映画研究部

わが映画研究部は現在、4回生12人、3回生10人、2回生3人、1回生19人の計44人で活動しています。今までは6月の「ごくつぶしの夕べ」が、唯一の上映機会でしたが、今年から、12月に映画研究部の単独上映会を行います。12月5日、森の宮青少年会館小ホールにおいて開く予定です。これからは頑張ってください。クラブにしていますので、よろしく応援をお願いいたします。

グリークラブ

我々グリークラブは、現在70名近い部員を擁し、マンモスクラブと呼ばれています。本年度の主な活動内容は、大阪府合唱祭に連続25回出場ということで表彰してもらいました。そしてジョイントコンサート「うたをうたってあげたい」では、大谷女子大学合唱団、武庫川女子大学コーラス部のみなさんと盛大に行い、大

邦楽部

我々邦楽部は現在部員数20名、内女性5名でがんばって活動をしています。学生のクラブがながれが目立つなか、現在1回生が7名在籍しております。今日でも、「主体性尊重」「邦楽追及」というクラブ方針は変わっていません。クラブの雰囲気は、「和」を重んじ大変アットホームな状態です。おかげ様で今年も演奏会を開かせて頂く事になりました。部員一同がんばっておりますので、今後とも御指導、御鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

成功を収めました。現在は、10月に行われる第43回関西合唱コンクールと、12月に行われる第24回定期演奏会に向けて日夜、声高らかに歌っています。

美術研究部

我が美術研究部は、現在24名の部員がおり、5月には春季部展、6月には1・2回生展、10月には秋季部展を行っています。また、大学美術連盟に加盟しており、スケッチ大会、8月には京都市美術館で連盟展を行いました。

中学、高校で美術部だった者がほとんどいけませんので、技術面ではまだまだですが、部展に来てくれた人達に「前の部展よりうまくなっている」と言われるよう、部員一同がんばっております。



吟詠部

我が吟詠部は部員数12名という小人数ではあるが、クラブに対する気遣い、意気込みといったものは、どのクラブにも負けないと自負しています。その男らしさ、男くささといったものには、目をみはるものがあるのです。主な活動としては、6月に友情校である岡山大学吟詠部との交歓吟詠発表大会、10月に単独吟詠発表大会等があり、今、それに向けて日々部員一丸となり、練習に次ぐ練習を行っています。とにかく、一人一人が、何事に対しても常にやる気、気遣い、男らしさを総て兼ねそなえた人間の集まりです。

茶道部

私達茶道部和経会は今年で25周年を迎え、その間多くの諸先輩方が培

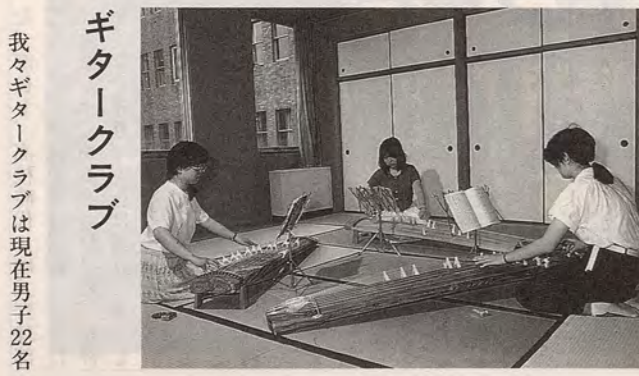


マンドリンクラブ

現在、我がクラブは32名です。おもな活動としては大阪の11大学による合同演奏会、経大の音楽系6クラブで催すミュージックフェスティバル、そして毎年10月に行う定期演奏会があります。御陰様で当クラブは今年で創立25周年を迎え、定演も23回目となりました。

しかし、学生のクラブ活動意欲の減退による部員数の減少は避けられず、また技術面の向上と和の形成という、ある種の矛盾を理想としている為に課題は絶えませんが、来年度の3月にはジョイントコンサートも予定しており、クラブ員一同精一杯頑張っている最中です。

ギタークラブ



我々ギタークラブは現在男子22名

女子1名と小人数ではあるが、「ギターは気合・音楽は気合」をモットーとするひげの部長を中心に、第22回定期演奏会を目標として一生懸命練習に励んでいる様に見えるが、部員が一番力を入れているのは芸術会秋季ソフトボール大会と秋季麻雀大会である。しかしそんな部員でも麻雀とソフトボールの練習のひまを見つけて、ギターの練習も少しはしているらしい。

5月 Joint Concert
6月 Music Festival
11月 第22回定期演奏会

落語研究会

皆さんこんにちは、私はリタラちゃん、ちよつとこれとつていでおなじみの経大亭サザエでございます。ウングラフツフ。今回は私が、経大落研の近況をお知らせします。ウングラフツフ。部員は、20名で、もちろん波平を中心にふね・マスオ・カツオ・ワカメ・タラ・ノリスケ・タエコ・イクラ・浜・ミツコ・タマ・三平・ハナザワ・ナカジマ・カオリでございます。11月には、4回生の最後の寄席をひかえ、それに向かって全員一丸となつてがんばっているのであります。これからも、どうか私たちを、応援してくださいね。ウングラフツフ。

監督紹介

准硬式野球部監督 牧田安夫



準硬式野球部は、戦後生まれの若い部である。といっても39年になる昭和24年大学昇格年に創部した、いわば大学と共に歩んできた部である。創部の理念は、「学問とスポーツの両立」を第一にあげている。当時、旧制中学時代硬式野球をやってきた者達が、野球を忘れることができず、学問と両立できる理想の運動部を、若き日の夢を託して創った部である。

戦、中央大学との定期戦や東北地方への帯同遠征等々、物も金もない時代に、よくぞそこまでといわれるほど思いきったことを部が一体となつてやってきた。しかし、ここで申しあげたいのは、決してどうした自慢話ではなく、このような活動ができた陰に、学校当局の理解や、当時、まだ部の先輩を持たない我々に対して、気持ちよく応援をしてくださった他部出身のOBの方々が多くいらしたことである。ここで、改めてお礼を申しあげたい。

さて、いまは、二度目の務めである。時間的に少し余裕ができたので、5年前から監督を引き受けたが、何分にも遠隔地のため、思うように面倒をみる事ができないが、時間の許す限り東京・大阪を往きまわっている。私がいけない間は、西宮在住で、共に部を創り名マネージャーとして活躍してくれた山中君(現準硬式野球近畿六大学リーグ理事長)が、補なってくれている。また、土井、山本両コーチをはじめOB達が、忙しい仕事の間に後輩達の面倒をみてくれているので、実は私自身の出番はあまりないのである。

それと、部の方針として、学生自身の自主性を最大限に尊重して部を運営させている。従って、野球に関する技術的、精神的な面における指導は勿論だが、決して、世にいう管理野球ではなく、あくまでも選手の自発的なやる気を起させる動機づけとして行っているにすぎない。ま

た、部員も、高校時代に硬式野球部員として、訓練を受け活躍してきた経験をもっている者達だけに、規律を正しく守り、現在は素直に育つてくれていると思う。

運動部である以上、スポーツとしての技量をみがき、勝負に勝つことも大きな目標であるが、それと同時に、その活動を通じて、チームの一員として、自分を如何に生かし、チームの目標を達成するかという、将来、社会の一員として活躍する場合の参考となる点についても考えさせている。しかし、まだ、まだ努力しなければならない点が多い。それは決して部員達だけでなく、指導する側でもある。ただ、積み重ねた成果は、今年の春もリーグ優勝をとり、全国大会にも出場できた。

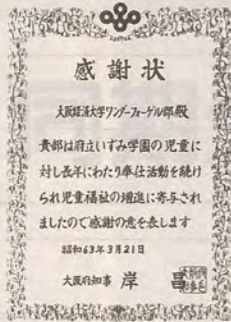
リーグ発足以来75シーズンを経た、そのうち実に32回の優勝を上げている。特に最近の10年間は、23シーズン中、16回の優勝をはたしている。そして、それらの成果をあげ活躍して卒業して行った者達が、社会にでも、それぞれ大いに頑張ってくれている。たまに会うたびに、たくましい社会人となつていく姿を見る時、疲れていても、又、大阪へ行こうという気になるから不思議である。

最後に運動部としては、あまり華やかな存在ではないが、卒業生の諸先輩も、是非、ご声援下さるようお願いして、編集子のご要請による筆を擱く。(東京都交響楽団常任監事)

ワンダーフォーゲル部

ワンダーフォーゲル部では活動の視野を広げるため、20年前から毎年、家庭の事情により子供達をあずかっている「大阪府立いずみ学園」を1年に1度訪問し、1泊2日にわたり食事を共にし、昼は運動会、夜は子供達と一緒にテントに泊つたりして、子供達との交流を深めています。

この度、この活動が児童福祉の増進に寄与したとされ、大阪府知事より感謝状が贈呈されました。今後も部活動の一環として、また、自分達の社会勉強のためにも続けていこうと思っております。



ハンドボール優勝

ハンドボール部現役チームは、昭和63年10月、関西学生1部リーグにおいて、6戦全勝にて優勝することが出来ました。昭和46年以来17年ぶりの快挙であり、しかも近年常勝を続けて来た大阪体育大学を破つての優勝という事で、OB一同その内容について満足しております。

その優勝祝賀会を10月16日(月)新阪急ビル、レストラン・ラクトールで開催しましたところ、大学側からは、米田学生部次長をはじめとし体育会代表等、又同窓会からは磯野会長・比企副会長・陰下事務局長、さらには関西学連からも前田理事長、大学後援会からも多田会長に出席して戴き、夫々お祝辞を頂戴し、OB現役一同大変感激致しました。大学当局初め皆々様に、あらためて厚く御礼申し上げます。現役チームが地力をつけて来た要因の一つに、一昨年OB会が寄贈しましたビデオの活用が効果を上げたこと聞き、贈呈のしがいがあったと喜んでおります。今後も福井顧問・上野監督を中心に、一致団結して連続優勝・全国制覇を目指して努力しては

しいと念じております。

一方、OB会活動も辻村副会長の努力により、順調に推移しております。昨春秋には、第10回ハンドボールフェスティバル(関西各大学OBの親善試合)を、江口グラウンドと同窓会ホールにて行い、他大学より大変感激されました。大学当局と同窓会本部のご好意に対し、厚く御礼申し上げます。

以上近況を簡単に報告致しましたが、全国各地でご活躍のOB諸兄には、今後も格段のご協力、特に資金面でのご支援を賜りたく、ご配慮の程お願い申し上げます。

ハンドボール部OB会 会長 鮫島 圭



同期生クラブ B 会



別府在住の同期の一人、今戸国広君の肝入りで、昭和62年9月27日、別府湾を見下ろす「ホテル白雲山荘」にて、第4期の同期生会を開催。会の名は昭寿会。
岡山より恩師武田長太郎先生の御臨席を仰ぎ、半世紀昔の昭和髙商時代を偲び、飲む程に歌う程に美妓連のもてなしも手伝って、回春の情しきり、夢うつつの中を埋没していく心境、波瀾に充ちた同

昭寿会

じ世代を生き抜いてきた同期の会ならではの会合でした。

武田先生は本年85歳とは思えぬ位お達者で、我々教え子を凌ぐ程に心身共に御丈夫、老後の手本を眼の当りにする心地でした。

翌日、別府名物の地獄巡りを楽しみ高崎山の猿と少時遊んだ後、

1988年10月19日、昭寿会(同期生会)を瀬戸大橋を眼下に望む下津井の国民年金保養センター「しもついで」で開催。

当日、恩師武田長太郎先生のおひざ元岡山駅に集合、瀬戸大橋線で児島に出、備讃瀬戸に架かる瀬戸大橋を1時間余りに亘っての海上遊覧。終わって下津井の丘に建つ宿舎「しもついで」で先生をかこんで3時間余りに及ぶ歓談。

特に感激したのはここ数年肝臓障害で酒・たばこを断っての闘病生活中の志田尾輝雄君が島根より病いを押しての参加、51年振りの再会！

1902年3月生まれの武田先



生の老いを感じさせない姿に一同あやかりたい念願新たに、過ぎし青春時代を今ここに再現せりの昭寿会でした。
(宮平 盛助)

第4期生会

別府駅まで引返して名残は尽きねど来年の再会を約し、湯の町別府に別れを告げた。

写真右より、今戸国広、山本富郎、小幡孝三、武田長太郎先生、佐々木聡、三木 薫、宮平盛助、内田辰四、桜井秀雄、原 秀夫
(宮平 盛助)

1988年度 活動状況(体育会)

クラブ名	活動状況・戦績	
空手道部	関西学生空手道選手権大会	ベスト8
	関西学生空手道個人選手権大会	坂本 ベスト8
日本拳法部	全日本学生拳法個人選手権大会	片岡 第3位
	龍峰杯優勝大会	河瀬 ベスト8
柔道部	全日本学生柔道大会出場	
剣道部	関西学生剣道選手権大会出場	
	大阪学生剣道選手権大会	西上 第3位
合気道部	全日本合気道演武大会出場	
少林寺拳法部	関西学生少林寺拳法大会出場	
硬式野球部	関西六大学野球リーグ戦	春季・優勝 秋季・第3位
	近畿六大学準硬式野球リーグ戦	春季・優勝 秋季・第3位
準硬式野球部	全日本軟式野球選手権大会	ベスト8
硬式庭球部	全日本学生硬式庭球選手権大会	ダブルス 長尾・小田組 ベスト16
	関西学生硬式庭球リーグ戦	春季1部・第3位 秋季1部・第4位
軟式庭球部	全日本学生選手権大会	ベスト16
	関西学生軟式庭球リーグ戦	春季1部・第3位 秋季1部・第4位
サッカー部	関西学生サッカーリーグ戦	春季2部・第2位 秋季・優勝 1部昇格
ラグビー部	大阪学生ラグビー大会	Aグループ第7位
ハンドボール部	関西学生ハンドボールリーグ戦	春季・第2位 秋季・優勝
卓球部	西日本卓球選手権大会	馬場 ベスト4
バスケットボール部	西日本学生バスケットボール選手権大会出場	
アメリカンフットボール部	近畿学生アメリカンフットボール選手権大会	優勝
バレー部	西日本学生バレーボール選手権大会出場	
ボクシング部	近畿学生ボクシングリーグ戦出場	
陸上競技部	関西学生陸上競技対抗選手権大会	三段跳 宮本 第1位 ハンマー投げ 大上 第1位
	全日本大学駅伝対校選手権大会	第15位
	関西学生対校駅伝競走大会	第2位
バドミントン部	関西バドミントン選手権大会	ダブルス 森山・藤原組 第3位
自転車部	西日本大学対抗自転車競技会	角 第6位
山岳部	夏山合宿(黒部)	
アイススケート部	関西学生氷上競技選手権大会	総合 第6位
	関西学生新人戦	八野 第2位
ゴルフ部	関西学生ゴルフ3部リーグ戦	優勝 2部昇格
競技スキー部	関西学生スキー選手権大会出場	
カヌー部	全日本選手権 兼 オリンピック選考会	K-1 300m 第4位
	瀬田川カヌーレガッタ	SK-1 10,000m 富山・室安組 優勝
	関西学生カヌー選手権大会	総合優勝
自動車部	関西学生ラリー選手権大会出場	
ヨット部	関西学生ヨット個人選手権大会	スナイプ級 高畑・好田組 第14位
洋弓部	関西学生アーチェリー2部リーグ戦	第4位
重量挙げ部	西日本学生ウェトリフティング大会	110kg級 西田 第2位 団体 第6位
	関西学生選抜ウェトリフティング大会	67.5kg級 西川 第4位

臨時「殿友会」開催

第5期生会



殿友会は会の命名を昭和57年にし、その後、昭和59年に開催以来開いていませんでした。幹事不行き届き深くお詫びいたします。

昭和62年11月3日の同窓会総会に参会された下川、村上、柳内、阪本の諸氏と、今年も残り少ないが集まれるだけでも集まろうと決し、開催することになりました。会場は下川氏に加太国民休暇村をお世話いただき、会員には電話で連絡して左記の方々にご参加頂きました。

当日は和気あいあいの内に、お互いわけがかりなく一日を楽しく過ごしました。

今後は定期的に開きたいと思っておりますので、皆様のご参加をお待ちします。

参加者（順不同）
伊吹義雄、堀 平八郎、倉垣一郎、安田光雄、芝田礼二、山田元省、下川舜三、綿谷三郎、内藤直哉、木村清太郎、村上静雄、岸本健蔵、中尾大輔、阪本克己、福島 繁、長岡辰生

（長岡 辰生）

「郷愁」

第6期生会



我々6期生が昭和高商を巣立ったのは昭和15年。戦中戦後の苦難の過去を思えば感慨もひとしおだが、青春時代を共に過ごした3年間は、郷愁にも似た思い出ばかりである。我々は思い出の校庭で昔を偲び、一夜を共にする同期会を開くことが、かねてからの念願であった。

我々はこの希望に沿って、88年5月11日の午後、母校50周年記念館の同窓会ホールに全国より総勢26名が集まった。卒業以来初めての人も多く、学校界隈がすっかり変わり、昔の校舎が見られないのが淋しいと言ふ人もあった。しかし、我々が労働奉仕で植えた苗木が今や大木に育ち、緑豊かなキャンパスで懐かしい黒正先生の銅像と、黒正展示ホールでは先生の貴重な遺品の数々の特別展示に接し、今昔の感無量なるものがあつた。会は町井君の司会で始まり、土手君の経過報告、建林先生からの祝電披露があり、お元氣な恩師藤原先生の丁寧な挨拶には恐縮した。又、母校の田所総務部長より

同期生クラブB会

会とては同

大学の現状について、次いで同窓会の磯野会長、陰下事務局長からは同窓会の詳しい説明を聞き、4階の映写室では母校の素晴らしい発展ぶりをビデオで紹介され、学内の諸施設も見学した。雑談のうちには予定の時間となり、昔の噴水跡、今の正門前で皆と記念撮影を行い、母校の発展を祈りながら迎えるバスで懇親会場へと向かった。

懇親会場は大阪の百万ドルの夜景が売りものの生駒山麓「ホテル・セイリユー」。到着後、くつろいで広間に集まり改めて記念撮影。先ず物故者97名に黙禱を捧げた後、黒正先生のご子息で母校就職部に勤務の明氏のご挨拶、各自の自己紹介に移る。飲む程に積もる話に花が咲きカラオケあり、軍歌あり漫談ありで夜の更けるのも忘れて楽しいひと時を過ごした。時間となり最後は学歌斉唱、万歳三唱で来年もきつと逢おうと握手で名残を惜しみつつ閉会した。同室の級友達は更に深夜まで昔話を肴にメモートをあげたようだ。

翌12日朝食の席で、今後この会は毎年必ず地区を変えて実施することになり、次回の同期会は岡山で開催することに決定し解散した。なお、今回の開催については献



身的に世話をされた町井、土手の両幹事に心から厚くお礼申しあげます。

（文責）大森侃二

七生会大いに
気炎をあげる

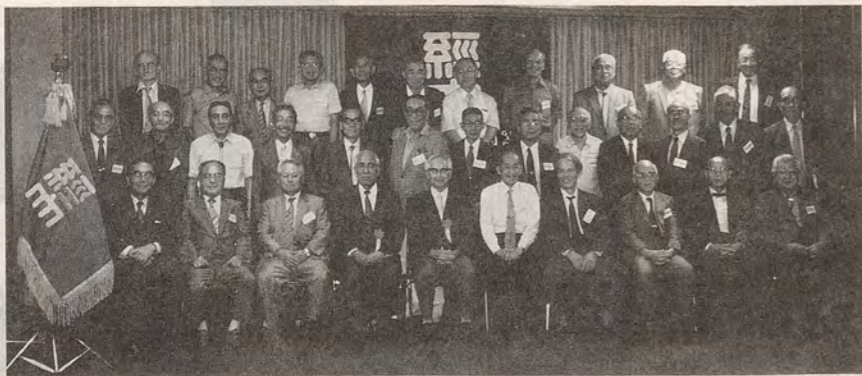
第7回同期生会

「人生七十古来稀なり」と、中国の詩人、杜甫にいweiseた70歳前後の老青年が、去る7月30日(土)、梅田、新阪急ビル12階のレストラン・パレス、ラ・クルールに集まった。

今回の集いは、世話人の前田君が、「この前、七生会を開いてから何年になる。今年こそ、むつかしいことを考えずに、集まれるものだけでも集まろうや……」と丸石君と相談し、真鍋君も同調して一カ月位で開催を決定した次第である。

ところが、なんと当日33名ものしぶとく生き残っていた「おじん」が集まったのは、世話人一同、驚き入った。5時間開会というのに、2時頃から来ていた友もあつたとは……。

今回は、いつも色気がない……という「おじん」の意見をくんで、比企君がなお現役の教授として勤務している浪速短期大学の学生4人（孫のような年齢）の美少女をアルバイトとして、会の盛りあげに協力してもらった。



さて、定刻5時には、われらの会には、必ずご出席いただいている山村京都大学名誉教授（あの英語の山村先生といった方が親しみ

があるだろう)、渡辺学校法人理事・同窓会名誉会長、陰下同窓会事務局長のご臨席のもと、比企君の司会で開催された。あのなんでも屋の比企君が「おい、比企、はようはじめようや……」の一声で、受付から司会席へ……。さすがに入れ込んでいたのだろう。いつもの「黙禱」は忘れるし、山村先生の紹介のときには京都帝国大学とやるわ、司会者として、あんな比企君を見たのも、この会はじまって以来のことである。何はともあれ、アルコールの入りぬ前に記念写真をというわけで、別室で（パレスのご好意により）パチリ、一枚一枚「パチリ」。

さあ、本番。本日、一番遠くから、ビデオ・カメラを持参で参加してくれた片田江君の音頭で祝杯後は、いつもの通り……。おじんの30人余りの集団かと思う程、元

ぼたん会例会の記

本会も7回を迎えることになった。早速案内状が発せられた！
『死んでから 拝まれることなど いらぬこと 生きてるうちにこそ 拝みあうべし：古歌』 会

気な声がとびかう……。世話人が心から喜びを感じる時である。しかし、反面、アルコールと料理の減りかたが一回ごとに少なくなることである。飲食量の減少と年齢は正比例するのかな……。フト淋しさを感じた。

楽しい時間は早く過ぎ、別れの時が来た。「商都の東北灘江に……」と声高らかに、そして、渡辺おやじの発声で、次回を約しての三唱。

会える間に、また会いましょう。元気で。年を考えて……。

今年の七生会が盛大に楽しく終了できた陰で、口ではいえぬ程ご協力をいただいた同窓会本部の陰下事務局長、広瀬さんに心からお礼を申しあげます!! 本当にありがとうございました。

(世話人日記)

八期生会阪神部会

えるうちこそ花ぞ！ 久々にデカンションで有名な篠山で檜風呂に入り、イロロで丹波肉の網焼き、アマゴの串焼、山菜めし、勿論サケ、お好みの方には、牛サシ、鹿

サシ、熊肉、猪肉の用意あり。素晴らしい自然の中で生命の洗濯という趣向。

梶村君のお世話で格安とか。「遠くて、寒い」……とんでもない、さつそうと、「一日青春」ということで如何！

日時：63年1月23日(土) 13:00より
場所：篠山町火打岩―山小屋民宿「いわや」会費：¥6,000
寒さも何のその、一行12名JR福知山線の「篠山口駅」前から地元のホテルで梶村君の案内でマイクロスバスで20分、山あいの静かな丹波の合掌造り「いわや」に到着。去る10月5日修善寺での8回生の同窓会には夫婦同伴で、更には11月3日恒例の経大同窓会総会にも元気で出席した木村彦二(旧名豊)君が12月3日に急逝した。高校の先生を引退後、ヨガの普及に世界中を飛び回って活躍していたのに、心筋梗塞で卒然として逝く、まことに悲しい。彼を含めて物故者のご冥福を祈り肅然として黙禱を捧げた後、開宴。まずは世話人の挨拶、同窓会の新事務局長、陰下嘉典さんと初参加の丹家邦夫(旧姓政井)君の紹介、そして伊賀の上野から出てきてくれた画家の関田庄司君の音頭で金箔入りの



酒で乾杯。

写真のように大きなイロロに車座になって肉を焼く、アマゴの串さしを炭火の側にたてる、鹿肉の刺身がでる、ぼたん肉にも舌鼓、そして山菜めし。終わって学園歌を斉唱。マイクロスバスで「篠山口駅」へ名残を惜しみながら再会を約してそれぞれ帰路につく。

出席者：同窓会事務局長陰下氏、

市川、石森、大橋、沢田、柴田(秀)、関田、梶村、琴野、丹家、長尾、柴田(真)君の12名。時を同じくして東京でも「東京昭八会」が開かれたとか、偶然の一致、感

激である。

『人と人 つれなくなりし 今の世に 君と酔い泣く 嬉しからずや』
八回生 万歳！ (長尾記)

第15回八期生会総会報告記

世話人 長尾 晃

「朋友はわが喜びを倍にし、悲しみを半ばにす」と。その朋友ども25名が10月8日(土)母校50周年記念館に集まった。学校のご好意で記念館完成までのビデオ・テープを観、そのあと田所総務部長のご案内で学内を見学、あまりの変わりよう、発展のしように、ただただ感無量、満足！といった顔付でパーティー会場の記念館7階の同窓会ホールに帰ってきた。13時30分パーティー開始に先立って、奥様から赴報が届いた鍛冶 清君、一色圭蔵君等亡くなった友のご冥福、病の床にいる友たちの回復と出席者の健康と幸せを祈って頭をたれる。ご多忙中をわざわざ来て下さった、磯野同窓会長の軽妙な健康話を交えた御挨拶。続いて田所総務部長の大学の近況と展望のお話しをいただいた後、柴田(真)世話人から「案内発送数137名、返



信のなかった人が42名。いろいろな事情があると思うが、年1回の

同期生会にせめて一言でいい、消息がほしかった。本当に残念である」との報告がなされた。

パーティーは全国支部長会のまとめ役を引き受けて活躍している梶村文弥君の乾杯の音頭で開宴。大学生協のアレンジによるご馳走をほうばりながらの昔話！ 昔話！ 昭和商高に入學した年から数えて丁度50年になる。波乱万丈の激しく、厳しい50年だったなとしみじみ思う。宴は15時30分柴田(秀)世話人の締めで第一次会を終わり、次いで大阪は南の心斎橋近くのスナック「子午線2」を16時から18時まで借り切ったの第二次会を開宴。久しぶりに学生時代に返って、痛飲する者、踊る者、昔懐かしい

九友会の集い

第9回同期会

例年は9月に開催される処、広島地区の世話人は9月までは待ち切れず、陽春4月16日(土)、日本三景の一つ「安芸の宮島」で開催する事になりました。

当日午後4時、広島駅新幹線待合室に集合し、先ず護国神社に参拝、次いで平和公園慰霊碑に詣でた後、宮島に渡り棧橋前の「みな

歌をカラオケで楽しむ者、あつという間の2時間。黒正先生作詞による昭和商高の学園歌を合唱、再会を約して三々五々暮れかけている街へ散っていった。

我々は今もう古稀に近づいている。これからこそが真の友情を高め合うことが必要なのではあるまいか。来年もまた元気なお顔を見せてほしい、八期生万歳と祈るや切である。

出席者名 伊藤、石井、市川、石垣、石川(照)、大橋、岡田、梶村、川村、河田、申田、琴野、滝中、富永、丹羽、林、福田、藤沢、三原、横川、佐藤(順)、藤原、柴田(秀)、柴田(真)、長尾、以上25名

と館」に到着しました。宿泊は敢えて小じんまりした宿を借りきる事にしました。

同窓会から磯野会長を迎え、東京、東海、京阪神、岡山等の各地から20数名が集い、別館で「瀬戸内料理」を賞味し乍ら思い出話に花を咲かせ旧交を温め合い、夜の更けるのも忘れ語り明かしまし

今回は坪内、佐々木、岡村3君の奥さんが出席下さり宴会は華やかに盛りあげられました。次回からは同伴者が更に多くなる事を切望します。来年は九州で開催する事を決議した後、歴史と伝説、美しい自然とロマンが一杯の宮島の宿で一夜の夢を結びました。

翌17日も絶好の晴天に恵まれ、朝食後、来年の再会を約して散会、三々五々、厳島神社参拝や紅葉谷散策を楽しみ各自帰路につきました。



(世話人 広島会)

還暦クラス会

経専卒業以来40年の月日がたち、数々年齢・満年齢の60歳を迎えるの同窓会は、「泊旅行」という案を頂き、何となく心寒さか、心細さかを覚えながらも「アア 60歳 連れもて 行こう」の精神発揮、総勢17名が金沢の駅へ降り立ちました。ここは年を取っても「経専イズム」、ベタベタなしで、さつさと行きたい所へ三々五々と散ったのですが、初夏の金沢は緑にあふれ、広々とした道を近代文学館、尾山神社と回ったのみ、年の精か花よりだんごか、早々に兼六荘入り。早速、宴会場へと集まりました。40年前の面々、少々しわがあり、肉づきの良くなった方(やせ)の方は見あたりません、貫禄充分で自己紹介、幹事の方の心くばりのきいたお料理を頂きながらのしやべりに、時を忘れ、最後には口三昧線でのおどりまで、何と色っぽいこと、皆ヤンヤンヤの拍手でした。散会後は、狭いホテルの一室の、ツインベッドに縦横に陣取った昔のお嬢さん達、隣室にお客のないのが幸いで、お箸がこ



第14期生

ろんでもおかしいとばかり、キヤアキヤアと本当に楽しいひとときでした。60歳とは程遠い皆さんの笑顔が、今もって思い出されます。翌日は、又熟女の顔に戻って、大阪や能登白川郷へと散って行きましたが、子供の話も孫の話もなく、今を楽しく打ち興じた皆さん、本当に若いナート、つくづくと思いつ返し、また会う日を楽しみたいと思えました。幹事さんの乗物への配慮や、宿泊の心遣いが大変だったと思いますが、又、このような企画を立てて頂けたらと思います。

場所 金沢 兼六荘
日時 昭和63年5月29日・30日

文責 楠生(植木)美佐思



クラブ0日会

登山のあとの「いい湯だな」

経大山の会(同窓の集いで春秋2回山歩きを楽しむ会)

今春は名古屋の世話人久保康夫、矢井久義氏のお世話で養老公園の三方山登山に決定した。昨秋京都愛宕山・清滝に錦繡を訪ねてから半歳、春秋に相集う楽しみを胸に約束の滝の前に集合した途端、沛然たる雨足に茶店に釘付け、そのお陰で「すぐにわかった」という卒業30年振りの再会もあった。世にも聞こえた雨の名所止むまもない豪雨に山登りは次回にと、早ばやと滝元館の温泉で湯ぶねの中、「いい湯だな」続してお定まりの「コリヤコリヤ」とたつぷりとキコシメシタ上機嫌で、次回は関東の山と約束してお開き、1名だけ残置謀者となったご仁にはその夜のロマンスを聞きたいものだ。雨が幸いしてお酒の士は堪能したが山の写真は撮れなかった。その代わり第1回発足の時の六甲山での記念写真をご披露します。次回は「伊豆のヤマヤマ月青く」には是非多数ご参加下さい。

経大山の会 世話人 事務取扱 桑田利雄(19)



クラブ0日会

少林寺拳法部 創部20周年に際して

少林寺拳法部OB会

合掌
経大OB諸先輩、現役諸君におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申しあげます。

さて、私共少林寺拳法部は昨年11月8日、大阪ミナミのニューミニオンにおいて、創部20周年記念パーティーを開催いたしました。学内より諸先生方、又、体育会本部及び武道関係各位、大阪府連、関西学連、友好諸大学他OB諸氏のご出席、ご祝辞を賜り、盛大な20周年記念行事を無事終えることが出来ました。これも皆様方のお陰と誌上をお借りいたしました。心から厚くお礼を申しあげ、次第でございます。一口に20年と申しましても苦有り、楽有り、とりわけ創部当時は苦勞の連続でしたが、それなりに楽しい事も脳裏に焼きついています。

修養、肉体錬磨を主眼におき、素直な人間形成の場として活動していく所存であります。何卒宜しくご指導賜ります様お願い申しあげます。

結手

副会長 若松 馨(36)
(20周年記念実行委員長)

当日は、諸先生方との楽しい会話、過ぎ去った青春を取り戻したかの様に旧交を暖めるOB諸氏、それぞれに楽しく過ごして戴けた事かと存じます。

今後私共少林寺拳法部は、精神



クラブOB会

寄多郎会

宇治の清陰『静山荘』に集う!!

柔道部OB会

88年5月7・8日の両日、宇治の静山荘に於いて、過去在学時に柔道部に籍を置き、苦業を共に汗を流した24回卒から27回卒の学友14名が再会しました。今年27回卒卒業生が幹事当番で、小生が宇治に住んでいる関係上、場所設置その他案内役を務めました。過去有馬温泉、湯郷温泉、琵琶湖ホテル、レークビワ、今年で4回目の会合でありました。静かな宇治で例年同様、青年の域を過ぎた若年層の楽しい一刻が過ぎていきました。夕食の宴では各氏が3分間スピーチを行い、各自の近況も話してくれました。来年は5回記念で大変期待をしております。又、この寄多郎会がいつまでも続く事を望んでおります。来年も元気で諸氏と再会出来ることを楽しみにしております。

28回卒 川添暉元(京都府在住)
特別出席者 以上14名
伊藤宏(27)



クラブOB会

OBの援助で新車購入

自動車部OB会

礼を申し上げます。

昭和63年6月26日(日)午後1時、大阪経済大学本館3階第1会議室において、OB総会を開催しました。

クラブ顧問の稲原康雄教授をはじめ、各方面より多数のOB諸氏にご列席いただき、現役員16名を含めて、活動報告、会計報告、さらに総会議題として「トラック購入の件」等が活発に論議されました。

現在使用していたキャンターは、10数年の使用のため、数々の故障箇所も出てきて、そろそろ乗り替えの時期になりましたので、OBの方々に援助をお願いしましたところ、心よく多額の援助をしていただけることになりました。

そして、午後3時過ぎ、学歌、逍遙歌を歌い、会議室内とピットの前で記念撮影をし、次回総会の再会を約束して散会となりました。なお、今回の総会の開催に際して、ホールの準備等、同窓会本部事務局の皆様、そしてOBの方々には、多額の援助をいただいたことをこの誌面を借りて厚くお



クラブOB会

来れ二十一世紀へ! 花の劇研大集合

演劇部OB会

仕掛人陰下嘉典、田中富三両君によって、第2回演劇部OB会が盛大に開催された。時は5月21日、所はキタの料亭「本むさし」。

当日集まった面々は経大演劇部の第一期黄金時代を築いた人々。次々と若き日の名優、名監督が登場。「やあ!」「おう!」「時に、あなたは何?」「何いうてんのや××やで!」「いやあこれこれ!」と寸劇があちこちで。

14期からは小松(旧小林)、梶本(旧門山)さんが出席。名女優三羽鳥の渡部(旧中谷)、中川(旧小西)、杉山(旧三好)さんの欠席はなんと寂しかった。然し心温まるお便りをギッシリ頂く。15期では本田、松本、尾島、岡田(幸)氏と女優名花二輪、刀根(旧岡田)、駒(旧平田)さん。名花といえは可憐な役どころだった16期の木下(旧中谷)さん、そして両伊藤、中山、内田、中村、17期から19期にかけて箕形、松島、田中、陰下、長谷、応田、今政の諸君と、同窓会の波根広報部長の参加も得て総勢22名。さながら当夜は経大演劇部の華々しき一族の

オンパレード。席上、30年振りの逢瀬に抱きつかんばかりの感激派。校庭にいたら通行人の役が足らるので、ちよいと応援頼む、と狩り出されてそのまま劇研に居ついたという涙ぐましい話や、ページにあつた脚本を上演の為、悲壮な決意でGHQに赴いた思い出など各諸氏のスピーチは続く。あの頃は今のように豊かな時代ではなかった。然し我等の青春はみずみずしく、限りなく夢があつた。

また今は亡き恩師、梅田、石川先生にも練習を見て頂き指導も賜つた。師弟が一緒になつて燃えた確かな手応えのあつた良き時代でもあつた。朝日会館、大手前会館、毎日会館と文化活動も盛んだつたあの日、あの時と話題は盡きず宴は最高潮。——やがて名残りを惜しみつ「再会」を約束して万歳三唱、ネオン輝くキタを後に散会した。

末筆ですが、懐かしいお便りを筒井(旧桃井)、林(旧松井)、坂本、山口さん有難うございました。中村 行男(16)

クラブOB会

家族と共にOB会

II部会計学研究会OB会

昭和63年1月23・24日の両日、松本剛先生ご夫婦を迎え、三重県鳥羽ロイヤルホテルに於いて、恒例の新年OB会を開催しました。

今回の会合は例年とは趣向を変え、OB諸兄の家族サービスを兼ねて家族の参加を呼びかけ、7家族総勢30名で開催することができました。

当日、午後2時半に近鉄上六駅に集合、一路鳥羽に向け出発、車中楽しい話らいのうちに鳥羽に着、現地集合組とも無事落ち合い、6時半より宴会を始め、アツという間に宴会の時間も過ぎ二次会へと流れるのかと思われたのですが、三々五々誰からともなく一室に集まり深夜まで話が弾みました。

翌日は観光組とゴルフ組に別れ、大変寒い日ではありましたが、それぞれのグループで楽しい一時を過ごしました。OB会結成以来初めて「家族と共にOB会」も大成功のうちに無事終わりました。

当クラブのモットーである「楽しく学び、遊ぶ」というスローガンそのものであったと思います。参加者の強い要望もあり、次回もまた家族でのOB会を開催することを約して散会しました。

幹事 吉岡 哲夫(45)

創部30周年を
迎えるにあたって

1989年という新しい年を迎えるとともに、我が簿記会計研究部OB会も、創部30周年を迎えることとなりました。
そこで、30周年をお祝いして、創部30周年記念OB総会を開催致しますので、お忙しいとは思いますが、

簿記会計研究部OB会

税理士を中心に研究会開催

「プロフェッショナルとしての研鑽の場」

法税研究会

本学卒業の税理士、経営コンサルタント、公認会計士、会計事務所勤務者、会計問題に関心のある者等が集まって、春と秋に研究会を開いています。会の名称は「法税研究会」で、現会員は39名です。税法に限らず、商法、その他の経済法、経営法も含めて勉強しようというので、あえて名称を法税研究会としました。次回の研究会は次の予定です。入会希望者は年会費2,000円を振替口座大阪6164279、法税研究会あて払い込み下されば、案内状をお送りします。

日時 1989年4月23日(日)午後1時~5時
場所 大阪経大本館3階特別会議室
講演 商法改正と税理士業務
—会計調査人を中心に—
大阪経大専任講師 伊豫田隆俊氏
会員報告 企業内教育のすすめ方とその事例
とエデュース代表取締役 原 清氏
右のように例会は講演と会員報告の二本立てになっています。これまでの例会の内容は次の通りです。

第1回 1987年4月5日(日)
講演 中小企業問題めぐって
—中小企業観の変化などについて—
大阪市信用金庫本店企画部長 大林弘文氏
会員報告 私の事務所経営法
—各種専門家による複合発想—
税理士 塩見 哲氏
参加者 22名

第3回 1988年4月24日(日)
講演 税制改革への視点
大経大教授 鶴田廣巳氏
会員報告 月次決算経営をしていきますか
税理士 松本茂郎氏
参加者 21名

第2回 1987年11月8日(日)
講演 中小企業の倒産分析
—財務比率による倒産比率を中心にして—
税理士 逸見 啓氏
参加者 23名

第4回 1988年11月6日(日)
講演 商法改正試案における会計調査人調査の問題点
大経大大学院講師、公認会計士
税理士 瀬戸 進氏
参加者 21名

益々発展する
会員同志の集い

毎年同窓会の御配慮でこの紙面をお借りしておりますが、当商建懇話会も発足以来8年を迎えました。先輩後輩の区別なく会員相互の融和と親睦をはかっております。

本年も2月大阪市内に於いて総会を開催し、同窓会側より陰下事務局長を迎え、大学の近況等を承りました。本年は役員改選を行い、若返りを計りました。

と思う。また、近隣にも同種の大樟会があるので、いつの日か交流ができたらと思つてみたりする。今年の総会には、同窓会から陰下事務局長をお迎えできた。その

昔、事務局長が、市内を縦走する能勢電車の沿線近くにお住まいであったことを聞き、心強く感じている。

新しく幸福相互銀行に職域会
「幸福大樟会」結成される

幸福相互銀行に勤務する母校卒業生が100名を超えたのを記念して、同行に「大阪経済大学大樟会」なる職域会が結成されました。去る5月23日(月)の大安吉日を選んで、新阪急ビル12階のレストランパレスで大学1回卒から今年卒業して新しく入行した行員まで総勢104名中80余名が参加して、

その創立総会が盛大に開催されました。当日、大学からは大槻先生(理事)、同窓会からは磯野会長、陰下事務局長が出席して祝辞を述べ、また、同行の関係各位から多くの祝電が寄せられていました。本会の今後益々のご発展を祈ります。(文書 陰下)

『青春の記録』目下編集集中

第13期生

戦中・戦後に青春の3年間を送った私たちが還暦を迎える年となりました。あのころの貴重な経験が、ひたむきな若さのあのころが時間の経過とともに風化してしまわない前に、はつきり記録しておこうと、記念文集の作成を思い立ちました。当初の計画からはだいぶ膨らんできて100ページぐらいに

なる予定です。各自の寄稿文を中心に、グラビアにセピアの写真を、会員から寄せられた資料、年表(苦心の作業でも付記、'89年3月発行を目標に現在大わらわです。ご期待ください、と同時に費用の方も当初の倍ぐらいかかりそうです。拠出金のご協力をお願いいたします。(発起人代表 前田悦子)

「川西だより」

川西市役所大樟会

職域OB会

前田耕作(24)

会長 逸見 学(26)株ABC商会
部長 大場謙二(24)大和シャツ
1(株)部長 菅原正雄(28)三晃塗装社長
役員 上村良三(37)大成建設(株)大阪支店
山口義雄(40)株西川造園



我が大樟会も発足して10余年になる。どこの自治体も同様かと思うが、確実に平均年齢が高くなってきた。あと数年で定年を迎える人達があり、より多人数でという状況ではない。しかし、多様化・高度化した行政ニーズに対応すべく、それぞれの部局で、昼夜をわ

かたず重責を果たしている。本会発足時からそうであるが、主目的は親睦であり、会員相互の同窓意識はより良い方向にあると言える。これは歴代幹事が飲む打かさずに実行された成果であり、今後も長く続けて行く価値がある

初代ラグビー部主将 大坪光雄氏を悼む

下川 正(3)



大坪光雄氏の訃報に接し、これ程早く別れの日が来るとは夢にも思っていませんでした。思い起こせば昭和59年2月、京都における鮮鉄ラグビー部の集いの後、思い出の母校を訪問するとの報を受け小松君と上新庄駅へ出迎え、学校卒業後半世紀振りに再会したのが、戦後交友の始まりでした。三人で学校を訪問し、在学時代ラグビー部で汗と泥にまみれ、球を追った昔を語り、又不幸にも若い身空で戦場に散って逝った友、又戦後復興の途中で病魔に倒れた友の冥福を祈り、今後の交友を温めようと、現在生存の旧部員を掌握し、同窓会の開催を決議しました。数カ月の準備の後、

第1回の会合を同年7月大阪の「なにわ会館」で開催、その折りは貴殿は不幸にも病気の為に参加出来ず、当日参加の13人は本当に淋しい思いをし、全員で病氣全快を祈念し、署名してお送りしました。そして翌60年5月奈良の「飛鳥荘」の2回目の会合には元氣な姿でおいでになり、参加者全員本当に歓びに満ちた会合になり、深夜まで青春時代の昔話に耽り一夜を過ごし、翌日は小松君の車で奈良から生駒山を越え大阪へ、雨に煙る大阪城を眺め、中之島を通り新大阪駅で別れたのが、貴殿の大阪との最後の別れになってしまいました。

その後ずっと病床に伏せられどれ程苦しい思いをされた事か、今年の正月の便りに、どうか元氣になられ、もう一度だけでも大阪に来られる様激励しましたが、これ程早くこの様な結果になろうとは思像もありませんでした。佐賀の

葉隠れの古武士の風格を備えておられた貴殿は爛漫の桜花の散る如く、昭和63年4月17日、奥さんの手厚い看護のもとに、多くの御息やお孫さんに見守られて、心安らかに逝かれた事と思います。

ただご妻子も無く若い身空で戦場に散った、貴殿の相棒の豊田マネージャー、一年下の河野、谷口、川西、豊島、村木、上原、二年下の武田、元田、谷、南の諸氏の物故者となった球友よりは、貴殿は立派な国鉄マンとして名を為し、願業を成就されて逝かれた事は、本当に幸福な一生ではなかったろうかと思えます。それにしても学生時代は本当に御世話になりました。貴殿は現在と違って、監督もコーチもない、部長はあってもラグビーを知らない教師がなつた時代に、初代ラグビー部の主将として部員の指導訓育は大変だったと思えます。貴殿は本当に清廉にして温厚篤実、更に高邁な識見を蔵され、多くの部員から敬愛されていきました。腕白盛りの我々にラグビーの敢闘精神と技術の錬

磨と数々の薫陶は今も心の中に生きています。今の大経大ラグビーの基礎を築かれた貴殿の功績は計り知れない程だと思えます。

昭和9年初めて高専大会に出場して、花園で天理と対戦し21対3で負けた事覚えていて欲しい。昨冬後輩達が大激戦の末見事に20対14で勝ち、長年の恨みを晴らしてくれた時は、大感激で思わず涙が飛び出して来ました。この場に貴殿も居合わせたらきっと大歓喜して抱き合っただけで泣いたでしょう。二十数年間関西の第1部に在位する大経大ラグビーは今後も益々発展する様、OB一同老骨に鞭打って支援する決意ですから御安心下さい。

学生時代の貴殿は勤勉実直、黒いカバンを持って黙々と歩かれる姿を、皆は「院長さん」と言った。だが院長さんにはなられず、寸分の狂いのない旧国鉄の駅長さんになられた。学生時代からその片鱗が見えていた様に思えます。奈良公園の松乃屋での合宿で、休暇を費って全員が遊びに行つて

も、貴殿は一人合宿舎に残って、皆が無事に帰ってくるのを待っておられた。戦争中でも朝鮮の孤島の守りに就かれた貴殿は、私の名隊長だったそうですね。長い間の御苦労・御敬闘本当に御苦労でした。これで病苦もすべて消滅、本当にゆつくりと永い眠りについて下さい。そして目が覚

めたら先に逝った球友達と飲談して下さい。逢うは別れの初めとか、いま永遠の別れをするに当たり再び貴殿の温顔に接する事は出来なくても、ありし日の事績を偲び限りなき哀悼の誠を捧げると共に、ひたすら御冥福を祈りお別れの言葉にします。



中村 源さんを偲ぶ

服部 博(4)



早いもので、中村源さんが亡くなって4カ月が過ぎました。あの元氣であった源さんが、脳出血のため突然倒れ入院との報に接したときは、すぐに飛んで行きたかった。しかし、かえってご迷惑だと思ひ、会話ができる日を千秋の思いで待っていました。

一言も言葉を交わすことなく去って逝った源さん、あまりにも冷たいといいたくなるし、ただそのことが私としては悔やまれてなりません。突然のできごとには彼自身も、きっと心残りがあつたことでしょう。ときは、昭和63年5月6日午前0時6分、73歳でついに不帰の客となられた。あまりにも早すぎますよね。あの人も早すぎた笑顔とユーモアにみちた言動に接することがもうできないと思うとき、人生の無常を感じ、寂寥の想いに堪えません。

顧みますと、彼の同窓会への献身的な努力はひとしおのものがありました。終戦後のあの混乱時代、率先して同窓の名簿作りに奔走し、いち早くできあがったことを覚えております。私達は常に信頼と敬服してやまざるところでありました。又、学生時代を思うとき、入学して間もない頃、学校が経営問題での転換期、彼は素早く情報をつかんで適切な指示をしてくれた親切には胸が痛むものがあります。そして彼と共に励み、最終学年に夏休み、サンフランシスコ航路の当時の豪華客船「浅間丸」で神戸から横浜までの船旅を楽しみました。彼は船が大好きであつたようです。

広いデッキで思う存分船旅を満喫していたあの姿は、彼の青春の1ページとして忘れることができませぬ。又社会人になつてからも、飲めない彼が、たびたびお酒の席へ誘ってくれるという心遣いのある人柄でした。彼を語ると思ひはつきませぬ。誠実で資性温厚な人物とは彼のことをいうのでしよう。

このような友人にめぐり合えた私は幸せでした。

源さん、どうぞ安らかに眠りください、ご冥福を心から祈っております。

中村 恭子様
長女 記三代様(23歳)

池田善雄君の逝去を悼む

泉台勝美 (ゼミ教授)

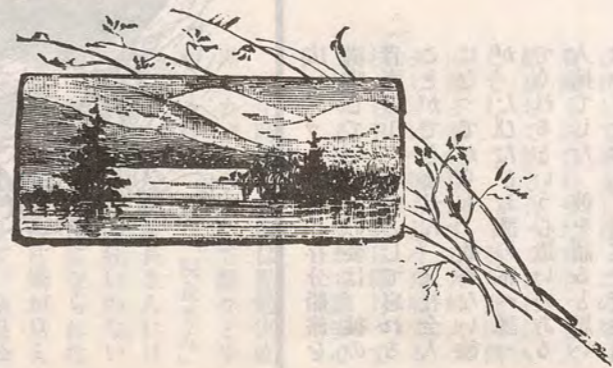


本学図書館職員池田善雄君は昨年10月21日、思わぬ大病を患い、病院関係者による手厚い手当の甲斐もなく、11月10日、ついに不帰の客となられた。ここに謹んで哀悼の意を表する次第である。

同君は昭和41年、本学に入學され、当時、私が顧問をしていた簿記会計研究部に入部され、続いて私のゼミに入られて会計学を専攻された。卒業と同時に縁あって本学職員に採用され、中小企業経営研究所で故藤田敬三所長や鍋島哲郎課長のもとで、資料収集や資料整理法をはじめ、本学職員として一般事務を身につけられた。とりわけ、課長のどんな欲な資料収集欲に魅せら

れ、いつも敬服しておられた。図書館に移ってからも、閲覧係として学生へのサーブに精をだす傍ら、同窓会の仕事やクラブ学生の面倒をみることもにも労を惜しまれなかった。昭和53年、きぬ子夫人と結婚され、三女をもうけられて家庭ではやさしいパパさんぶりを発揮された。私自身一昨年5月ワープロを買った時にも、彼からその手ほどきを受け、本年3月刊行した拙著『現代簿記精説』の校正も彼の好意に甘えていた矢先のことである。いまでも忘れられない10月20日、ちょうど98頁まで初校のすんだところで、「明日から一章ずつみていく」とのメモを残してその翌日入院された。これが彼の絶筆になろうとは思わなかった。今もその本を開くとありし日の池田君の面影がしのばれるのである。彼が息をひきとる5日前、入院先のベッドを訪ねたとこ

ろ、幸いにもその日が一番調子がよかつたらしく、「先生、もう好きな酒もたばこもやめますわ」と酸素吸入をしながら元気に話されていた。この禁酒、禁煙が永遠のものになろうとはまだその予感もなかったのである。治療にあたっては病院関係者のお力添えに加えて、輸血について多数の本学職員および学生諸君の献身的なご協力を賜った。仕事や勉強で多忙ななか、わざわざ病院までお出掛けいただいた関係者に対し、本誌をかりて厚くお礼を申し上げる。遺されたきぬ子夫人と3人の遺児たちもお父さんの遺志をつがれて立派に育つてくれることを願っている。それにしても、8歳・5歳そして0歳の乳飲み子を抱えての子育ては並たいていなことではないものと察せられる。このようなどころから、葬儀の当日、皆様から頂戴いたご厚志は、



甚だ勝手ながら、そのまま育児資金に充てさせていた。この心からそのおわびとお礼を申し上げるとともに、ご遺族の幸せと故人のご冥福をお祈りする次第である。

母校の発展を祈るのみ

山下 三吉(1)

一、近況。平凡で自由な生活をしていきます。
二、同窓会および母校に対する希望。特別に希望はないが発展を祈るのみ。

三、『道理貫天地』を読んだ感想。黒正先生とは出会いがなかったが、『道理貫天地』を読んだ感想は、一口に言って、先生の徳の偉大さであり、多数の良き人々の助けを得て今日の大阪経大の基礎をつくられたことを知りました。今少し長命でおられたらと惜しまれます。

青春時代

大森(森) 侃(6)

サムエル・ウィルマン曰く「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのである」と。古稀を迎え人生の黄昏期と考えるのは未だ早い。常に目標を掲げ努力することによって、年相応の青春が楽しめる筈だ。それにしても卒業してから48年、昔の青春時代が胸をよぎる。17春が訪れて、18恋を知り初めて、ハルバル来たのが上新庄。昔静かな大隅通り、春の小川は水ぬるみ、空にはヒバリがさえずりて、ノンビリムードの界限も、今では繁華な街と

なる。昔の学園今何処。

黒正イズムで鍛えられ、ノラクロ過ぎた3年間。ゲマインシャフトの米津さん、イガ栗頭で労働奉仕。ラジオ体操、中島さん、チョコ髭生やして1・2・3。英語が苦手でチンブンカンブン、ハッラー女史には最敬礼。ゴツトル先生、藤原さん、未だに経済本質わからない。昼の食事はキー井で、これがタツタの12銭みのる食堂のハッチャンは、今でも元気であるのかい。

青春の思いは尽きず。今夏は異変続きで予報官泣かせの夏だったが、夜には秋を告げるコスモスの花が咲き始めた。秋はもう近い。上戸には酒のうまい季節、下戸には味覚の秋を迎える。同期生諸兄のご健勝を祈る。

『未完成高商学』

田中 高治(8)

一、開戦時の師走に最初の繰上げ卒業、まさに「未完成高商学」でしたが、以来48年余、会社員、軍隊、公務員生活を送り、7年前退官し、年齢相応に老化しましたが幸い息災でいます。

二、母校が変遷を経て質量共に発展されましたことご同慶にたえません。商都にあつて個性のある、また存在価値のある大学になられることを願っています。

『澁江』に将来計画を

吉沢 正美(1)

一、42年に亘る県立の英語科教員を退職し、現在は中学の生徒に英語のレッスンを楽しく教えています。

二、『澁江』に母校の将来計画等を掲載していただければと思っています。

三、黒正先生の教育にかける情熱若者を愛する気持ちを読み取ることが出来て、今更に先生に対する感謝の念を禁じ得ませんでした。母校の発展を祈って止みません。

人生を意義あるものに

金子 道夫(1)

同窓会で50周年記念事業として発行された『道理貫天地』は黒正先生の生い立ちから、京大教授を経て、

昭和商の基礎を築かれ、戦前・戦後を通じて学校経営にご苦勞されたこと、大阪経済大学の設立、そして54歳で他界されるまで、先生の学風及び人物について各方面の先生方が書かれております。先生の教育に対する情熱は皆知るところですが、歴史・短歌等研究しておられた裏面も伺い知ることが出来ました。我々は、先生より約10年、何なすことなく生き永らえています。が恥かしい思いです。残る人生に意義あるものを残したいと思ひます。次男が岡山大学を出親子2代お世話になったことを感謝しています。

黒正イズム、再び

嶋田 茂(1)

卒業以来43年が経過しました。私も35年にわたる税界勤務を終え、税理士と家庭裁判所調停委員をして元気に過ごしております。

『道理貫天地』脈々と流れる黒正イズムに再び接し、当時を偲び感慨深く説破しました。

在学なれば兵役に服し、卒業式にも出席できず、また卒業以来、再び相会う機会もなく戦没され、又は今日までに物故された同期の皆さんを思うと心痛みます。

同期の皆さんの御健康と母校の発

展をお祈りいたしております。

ガンバリズムは永遠

保賀 欽治(1)

『濶江』は毎号楽しく拝見して頂きます。10年程前に一度寄稿させて頂きました。今更なる相変わらず保険業界に身を置いており、毎年東京支部総会に出席させて頂いておられます。元気で先輩・同窓諸兄弟にお会い出来るのは大変な喜びです。

『道理貫天地』を拝見、黒正先生の温容を思い浮かべ、また、今日競争激甚な業界に11年もすごして来られたのは、当時身を以って教えられたガンバリズムのおかげと感謝しております。まだまだ元気であと10年は頑張ってみたいと思います。よろしくお願ひいたします。

敗戦当時の深刻さを伝える

小林 紀子(1)

ひとみ会の皆様如何お過ごしでしょうか。

今年も敗戦前後に在学学生だった私達の在学中の体験を綴った記念集を

美容師から美容家へ

永原 康男(1)

4半世紀勤続したアメリカ銀行を7年前に勇退後、和歌山高等美容学校理事長として次元の高い美容師の育成に情熱を燃やしております。

弁護士が代言人から、行政書士が代書屋から変身したように美容師も髪結から美容師を経て美容家として社会的・文化的使命を果たし、社会から認知されるよう一生懸命努力しております。

どうか全国同窓会員の皆様も美容師を再認識していただくようお願いいたします。

後輩達も今や管理職

田中 富三郎(2)

卒業して早くも34年の年月が流れてしまいました。

同窓生の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。小生も卒業と同時に久保田鉄工に勤務し、主としてパイプ事業本部の幹部として過ごし、一昨年度退職し、現在関係代理店の監査役として過ご

残そうとの企画がもたれました由、遠い昔をふり返り、しばし感傷的になりました。

若かりし当時のおなつかしい恩師やお友達のお顔が当時のままの姿で思い出されて参ります。

深刻だった体験も次第にうすれうすれになりつつある現在、当を得た企画に賛同し拙文を送らせて頂きましたが、皆様方の貴重なご体験文を拝見出来すことを心待ちいたしておりますと共に世話下さる方々に感謝いたしております。

各地にお住まいの皆様方、おすこやかに過ごして下さいませ。

戦中戦後の良き思い出

三好(頼富) 地栄子(1)

新幹線で郷里四国へ度々往復する昨今ですが、車窓から母校大阪経大の大きく立派になった校舎を眺める度にその昔の校舎のたたずまいなどがなつかしく思い出されます。

戦中戦後の大変な時代を一緒に過ごしたお友達とは今もって一三会で親しくお付き合いいただき、友ならではいつも感じております。

思えば昭和19年4月の入学式には今は亡き父と共に出席、父が黒正先生のお話にて、さすが立派な校長先生と深く感激していたのが今も心に残っています。

しております。年月が経過しても、36年前の竹林(庄)ゼミ等の思い出がよみがえっています。

日頃は仕事に追われて同窓会等に出席出来ず申し訳ない事と思っております。その後、久保田鉄工に入社した後輩達も今は管理職として頑張っております。

後輩の成長と活躍に期待すると共に母校のご発展を祈念しております。

民主主義を守る

竹島 寛之(2)

無作為抽出とは言え、濶江No.10の「北から南から」欄に拙文があるのので、大学や同窓会とは強い絆で結ばれているはずなのに、とんと疎遠で申し訳ない次第です。

職場では古参の部類に属する年齢となっても、毎日の営みは青年教師に負けない気力・体力で接しているつもりです。

この頃、世の中の流れに不安を感じ「これだけは言っておきたい」とこがますます増えてきています。

野党の翼賛政体化・労組の右傾統一・君が代や日の丸の強制・職命による初任者研修等々の諸施策は、まさに大戦前夜をおもわす様相です。「再び子どもたちを戦場に送らない」の誓いのもとに結成した日教組の先行きにも不安を感じる今日この頃です。

『道理貫天地』は感銘深く読ませていただきました。

偉大な黒正先生、立派な諸先生方母校愛に燃える同窓の皆さんの当時のご活躍に強く胸をうたれました。

この本は、まさに私どもの「バイブル」のように思われます。

自由へのリハビリ

領五 三郎(1)

脳こうそくを患い、もう半年程にもなるが、リハビリ生活に精を出しております。お陰で病状も次第に快復し、左の手足だけが不自由な状態です。

毎日のリハビリも、なれてきますとやらない日は何か心もとないように思われます。

早く手足が自由になり、一度ヘタなゴルフでもやりたいと、うずうずしています。



自由と平和の尊さ

神原 勝(1)

小学校3年生で日中戦争。中学1年生で太平洋戦争。敗戦の20年、焼野ヶ原の大阪に特攻隊より私は復員した。欠乏生活の中で学生生活は苦しいけれど、自由と平和は何よりも尊い事を肌で知りました。頭で考え、討論し、行動しながら経專を出しました。あれから37年3人の息子は当時の私の年齢を、とうに過ぎ、教員・医師・研究員として、それぞれ社会に出ています。しかし、私達と息子達との平和と自由に対する考え方には大きな開きがあります。

息子達が育った時代背景、そして専門が理系なのだからか、目の前の自由と平和が空気のようにあたり前のことと考えており、どうして得られたかを知りません。

今、世界は軍縮に向かって大きく揺れ動いています。

しかし、厳然として核兵器、その他の兵器が存在しています。ただ、爆発する危険性はあります。一度爆発すると連鎖爆発が起ります。

私達は、世界から核兵器や戦争をなくすために、皆学生の頃にもどってよく考え、よくしゃべり、よく行動して老化防止のためにも役立ててはと思ったりしています。

いや、体の方がどうも、という方が増えたのだと思います。

ご自愛の程を!!

愛犬に学ぶ

南(福本) 信男(2)

8月の盆休みに新住所に移転しました。勿論、愛犬(秋田犬)と共に。社会の人間関係が複雑化し、疎外感が深まるに従って、愛犬と生活を共にすることは、小生の高血圧症のためにもよい影響があるようです。

愛犬との散歩は、社会の人間関係や、人間集団の組織を全く忘却させてくれ、人間の心を豊かにし、生活に潤いをもたせてくれるパートナー役を演じてくれます。犬が教えてくれる生命の尊さと生き方を学ぶことが出来ませう。

母校の発展に感激

三好 正夫(2)

日々、母校同窓会の発展のため、ご尽力を頂き有難く感謝致しております。

小生、勤務先では総務の仕事をしていて関係で、求人季節になりますと仕事上毎年母校を訪れる機会があり、その都度母校の発展ぶりを目のあたりにし、大いに感激している次第です。

会社が鉄鋼関係の仕事で、最近の学生に人気がなく、採用には毎年苦



戦っておりますが、現在6名の卒業生が在職し、各地で活躍しておりますが、まだまだ増やして行きたいと思っております。昭和ひと桁、そろそろ足腰の衰えが気になる年齢……、最近では月に一、二度気のむくまま六甲の山歩きに励み、健康維持の一助としております。役員の方々並びに同窓生の皆様方も御健康に留意され、益々御発展されん事を祈り致します。

個性と魅力ある大学へ

金井 好明(24)

先生はじめ同期のみなさんご無沙汰しております。地元で市役所に勤め30年、年々同窓の同僚も多くなり、仕事に遊びによく頑張っています。又評判もよく就職のポストにつく者も多くなり、よき後輩に恵まれ、これまた、仕事にも遊びにもより一層熱が入ります。昨年の統一地方選挙では、同窓の森安欣吾氏(42・3卒)が市議会議員に当選され活発な活動をされています。仕事の関係上、最近特に上京する機会も多く、その都度新幹線の車窓にうつる母校をなつかしくながめ、在学中の思い出にふけています。

スポーツに理解と援助を

真野 靖久(31)

渋谷と赤坂に飲食店を4店舗経営し、青山に美術品ギャラリーを1店舗経営しています。母校への希望として、スポーツに対する理解と援助をもっと増やして欲しい。アメリカのスポーツエリートに対する社会のニーズを理解、勉強してほしい。

母校の名譽に貢献する

石橋(池田) 隆夫(32)

卒業以来22年、福井の地にて頑張っております。同窓会福井支部も活発にやっております、この年になると楽しい会合の一つでもあります。8月20日も同土を集めて家族共々母校を訪問しました。あの頃のあの人は今どうしていることや、41年卒だけの同窓会を一度も開いていないので、どなたか大阪の方が機会

現在は個性の時代、感性の時代と言われています。歴史ある母校の21世紀をめざした個性と魅力ある大学に再構築され、経済系は大阪経済大学……とより一層の発展されることを願うものです。最後に、当市の紹介を簡単にいたします。大阪から40km、南海電車で約50分のところに位置し、水と緑と太陽に恵まれ、その資源を生かし開発を進めているウエルネスのまちです。

遠くで想う大阪

関 泰一(25)

母校と同窓会の発展を祈って。34年に卒業後、早や29年が経過しました。この間、岩国、下松、堺を回り、45年に関東に出てきて東京・横浜暮らしが一番長くなりました。その間、関西方面への出張も神戸、広島等が多く、大阪はつい通過してしまい、立派になった母校の姿も新幹線から見ると立ち寄れないのが残念です。同窓生との接触・連帯の少なかつたことは私自身が反省していることであり、同窓会会員名簿を見ても不明者が多いのは非常に残念です。同窓会でも積極的に不明者が判明するよう努力したいものです。

をつくってくださるよう切に願望しております。私達が地方で頑張つて名を成すことが母校の名譽となることと信じて今後も頑張るつもりです。

経大スピリット

丸岡(近藤) 弘(32)

5反百姓の3男坊が家の金かき集めて虎の子の55,000円を握りしめて入学受付窓口に立ったのがちょうど26年前。3度のめしを2度にして、どうにか卒業して郷里の高校の教壇に立つて22年が過ぎ去った。純朴で素直な生徒に夢を託して、日夜教職に打ち込む毎日。好きな教職の道に一生を捧げられるのも母校経大のお陰。厳しい教育環境に負けず経大スピリットで頑張りたいと思う。ときには可愛いひとりの娘17歳、来年は受験生。どうすることやら……。

システム部長に就任

矢田 正己(26)

卒業して28年経過し営業一筋に参りましたが、昨年6月突如としてシステム部長を拝命し、かつ、機種のオール入替え、システムも将来の「あるべき姿」を想定し、営業サイドにたつたシステム構築を納期1年間で完成する様にとのことで、私も今までコンピュータ経験皆無で二の足を踏んだが「これからのシステムは現場経験豊富な者が」の言葉にのせられて昨年7月キックオフし、頭の痛くなるミーティング、研修の連続、現場ユーザーへの教育等々、あつと言間に一年間が経過し、本年7月稼働にこぎつけ、プログラムバグ、運用間違い等一週間程徹夜の連続であったが、貴重な経験をした1年でした。

今や娘も大学生

藤原 茂夫(29)

卒業して早や25年になりますが、澱江など毎年送っていたいただいてありがとうございます。澱江をみている

地域の社会的奉仕活動

山本 正明(33)

卒業して最早20年も過ぎてしまいました。卒業後一度も学校へは顔を出しておりませんが「澱江」などですばらしい校舎に生まれ変わったのを見て、その後の発展ぶりに驚いております。入学当時、旧校舎の中庭でスキー同好会の先輩に入会を申し込み、雪国のスキー経験を生かし、スキー部への昇格に熱を上げ、夏の陸トレ、冬のスキー合宿とスキーに明け暮れた4年間でした。幸いにも競技スキー部として、その後も活躍しているのを聞き嬉しく思っています。ゼミの恩師山本晴義先生をスキー部の顧問にお願いしたことなども思い出に残っています。家業の時計店を継いでからは、スキーとの縁も切れ、地域に密着した小売店として、また地域の社会的奉仕活動に精を出している今日この頃です。

最後になりましたが、母校が今後も経済人輩出のため、開かれた大学としてより充実した学校になりますようお願い申し上げます。

と母校の様子も随分変わってきております。学生時代の級友とも卒業以来一度もあつておらず、もう顔も忘れていたかも知れません。農家の長男であつたこともあり、今はブドウなどの果樹を作り兼業農家としていそがしい毎日を送っております。子供も今春大学に行くようになりまし。最近、娘に昔の学生時代の写真をみせたら頭のこととひやかされるような今日この頃です。機会があれば是非大阪へ行きたいと思っております。

「澱江」の素晴らしさ

工藤(南沢) 信広(29)

郷里で教員生活20年を越えました。目下進路指導主事をやっておりますので、大学関係の印刷物を目にする事が多いのですが、母校の活字は少し小さいようです。大いにマスコミの活字を考えていただきたいものです。年1回の澱江は楽しみに拝見しております。卒業後、他大学に学士入学したので、その大学の月刊紙は毎月送られてきますが大経大のような同窓会のものはありません。大変すばらしいことだと思つています。母校は、決して変えることのできないものですからそれだけに愛着を感じます。

つまずくたびに母校を想つ

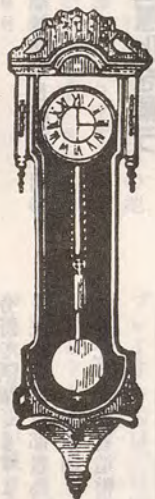
清水 龍雄(34)

社会へ出てから転々と職を変わりましたが、地元の食品卸売市場に勤めて10年がたちました。いろいろつまずきもありましたが、経大を卒業したことをささえとして立ち直つてきました。これからの困難はあると思つています。が乗り越えて行きたいと思つています。今でも在学当時のことがなつかしく思い出されます。経大も学部増になるとのこと、ますます発展することを祈つています。

すみませんの連発

羽広(加畑) 悦子(35)

早いもので卒業してから20年もの年月が流れようとしています。皆さんお変わりありませんか? 重田ゼミの皆様には度々同窓会の案内を頂きながら一度も出席出来なくて申し訳ありません。10数年の間、専業主婦で居座つていた私ですが、プロの主婦になれそうもなく、2人の子供も手が離れ始めたので、昨年よりお勤めに出ています。新人類といわれる若い人達の間に入り少々ともどうともあります。



マネようとしてもスピードの速さなど到底ついてゆけません。金融機関は全く初めてで、印かんもれ、伝票もれ……ミス数を数えあげたらキリがありませんが、「すみません」を連発しながらマイペースで頑張っておりますので応援して下さいね。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍を期待いたします。

総合大学をめざして

片野(青木) 勉(30)

卒業してから18年が過ぎましたが、母校の発展を心よりうれしく思っております。

母校の近況は「澁江」を通して知ることができ感謝しておりますが、当時と比べて格が低下しているのではないかと残念に思います。

創立50周年の伝統に誇りをもって関西の4私大と肩を並べるためにも新学部増設(総合大学に向け)、学生・教授陣の質の向上、各報道機関へのPRなどに鋭意努力すべきだと思います。

学術面、スポーツ面での活躍と産業界・中央界にも誇りの持てる優秀な人材が母校より数多く輩出されるような母校の発展を期待しております。

後の発展を心よりお祈り致します。

車窓に写る立派な校舎

赤塚 孝久(47)

現在、私立専門学校で学生募集を担当しておりますが、ライバル校も多く悪戦苦闘の連続です。

各種進学ブックの原稿作成もしており、時々、大学・短大と専門学校を併せた進学ブックもありますが、なかなか母校「大経大」の広告を見る機会はありません。

昭和67年以降の18歳人口の激減期に備えて、しかるべき「手段」をお考えのこととは思いますが、広告の見られないのがちよつと残念です。

先日、新幹線から立派になった校舎を拝見しました。母校のますますの発展とOBの皆様の活躍を心よりお祈り申し上げます。



大経大の国際化を願う

越野 信治(40)

私は、現在ダスキン石川工場の工場長をしております。本社は大阪ですのでぜひ優秀な卒業生を就職させて下さい。

母校は、地方に対する広報活動を強化してほしいと思います。更に国際化に対応できる人材の育成と特色のある大学を目指してほしいと思います。

そのためには外見も重要だと思われまますので設備・環境の整備をお願いします。

大都会住めば都も若いうち

西 正(41)

「澁江」に載る構内の写真を見ると在学していた時分と随分変わってきたと感じる。

月日のたつのは早いもので卒業してから13年経過した。今は東京に転勤して3年になる。物も人も金も情報も集中してくる大都会、住めば都も若いうちかも知れない。何はともあれ、卒業生がいろんな

校舎の地下、高層化

大塚 忠幸(47)

大阪経済大学を卒業しまして、早くも7年が経過しましたが、今から思えば色々懐かしいものです。

私は、現在姫路市に在住しており、神姫バス(神神戸)に通勤しております。さて、母校についてですが、在籍中、卒業後と他校を回りましたが、全般的に校舎・学生共にこじんまりしているように思われます。

真中に道路があり、グラウンドがないせもあるかも知れませんが、校舎を1カ所に集め、地下・高層化されてもよいかも知れません。失礼なことを書きましたがお許し下さい。

銀行を取り巻く環境

田原 正(47)

卒業して、早くも7年の年月が過ぎました。

池田銀行に入行して3カ店目の池田東支店に勤務しております。同じ店に後輩もひとりいます。6月には行内の同窓会である経友会も開かれました。

分野で活躍しますように……。

生徒の激減にぞなえる

高口 仁孝(42)

私を含めて、現在本校で6名の大経大出身者がおり、各々頑張っております。

数年後には生徒が激減しますので危機感ももっています。大学においても大変な状況になるのではないかと思います。

毎年本校から2人の生徒が推薦入学しています。できれば現在2人の枠を増やしてほしいと思います。もちろんよい生徒を送ります。

個性と魅力ある大学へ

前田真由乃(43) (高木真裕美)

早いもので大学を卒業しまして、12年の年月が経ちました。卒業して2年後に結婚し、現在小学3年生の娘と幼稚園年中児の息子がおります。

今は家庭にあつて育児に専念しています。私も受験戦争を経験してきましたつもりでおりましたが、小学生の娘の勉強をみておりますと、私の学

昨今の銀行を取り巻く環境は、金融の自由化・国際化・機械化の一層の進展とともに、自己資本比率の規制基準の目標達成が銀行経営にとって大きな問題となっております。各行ともその存続をかけて経営基盤と体質の強化を目指し、効率化・合理化を推し進めております。現在は渉外係としてがんばっておりますが、従来の資金調達中心から資金運用中心のコンサルティング涉外に大きくかわってまいりました。最後になりましたが、同窓の皆様のご活躍と母校の発展を期待しております。

仕事か恋人

野田 満(48)

大学を卒業して7年目、昨年より母校の富山商業高校で教えています。その一方、硬式野球部の顧問として、今年は地方大会決勝戦で奇跡とも思える逆転勝ちで15年ぶり6回目の甲子園出場を果たしました。

甲子園では強豪沖繩水産高校に惜敗しましたが、教師として、自分の教えた生徒達が舞台上で生き生きとプレーする姿は、日頃の苦勞を忘れ感動を呼びます。

若いと言われる機会も少なくなり、結婚話も出ていますが、当分は仕事か恋人の状態が続きそうです。

生時代はまだ恵まれていたのを痛感しました。

教育環境がますます厳しくなっている今日、これからの子供たちがかわいそうな気になりません。日本は、他国に比べて物質上裕福になつてはいますが、精神的にはいつもみんな何か追われて心のゆとりを失つてきているように思います。私は、いつも心にゆとりをもつて暮らして行くことを心がけています。

世界おもちゃ博覧会

山本 雅宏(43) (藤井) 保恵(43)

「澁江」掲載文依頼のハガキをいただきペンを執りました。

私達夫婦は、昭和52年の卒業生です。山本学長のゼミで、私達の結婚式には山本先生にも出席していただき、1時間にも及ぶスピーチをしてくださいましたエピソードもありました。

現在主人は、鳥取市役所に勤務し来年度の鳥取市制100周年記念事業「89鳥取・世界おもちゃ博覧会」を担当する企画課に所属しております。

「北から南から」の紙面をお借りして昭和64年7月29日(同8月20日まで開催の「89鳥取・世界おもちゃ博覧会」)に是非来て下さいませようお願いいたします。最後になりましたが、大経大の今

「道理貫天地」は必読の書

小谷 哲生(49)

一、久米町の小学校に赴任して3年目になります。何かとけつこう忙しく充実した毎日です。

二、6月4日には、同窓会岡山支部総会に出席しました。今年も若い人は少ないだろうと思っておりましたが、今年3月に卒業の沢井明彦君が来られ、後日挨拶状までもらいました。

三、ところで「道理貫天地」を読みました。大経大創立の経緯や、黒正巖先生のお人柄を知ることができ、大経大関係者必読の書であると感じました。今後大経大同窓会の益々の発展を祈つてやみません。

長崎での再会

中平 均(49)

53年入学の皆さんお元気に過ごされていられることと思います。私は今、大阪外国語大学会計課に

勤務しております。就職の際には公務員になりたいと言って、ゼミの竹林祐吉先生にもいろいろご心配をかけたのですが、なんとか合格して元気に働いています。

母校の大経大にも、現在の職場の2次試験会場となっているため毎年1回伺うこととなり、そのたびに気楽だった学生時代をなつかしく思い出します。

ゼミの時の友人ともいまだにゆききがあり、この秋には横田君の結婚式に長崎へ行くことになっており、再会を楽しみにしています。

若やいだ日々

橋本 妙子(49)

苦学した後のしあわせ。私は現在58歳です。卒業したのは52歳です。在学中に教師の資格を取りました。年齢的にだめだと思っていました。機会がありました。大阪府立高等学校の講師として、若い方々と共に勉強しております。生徒さんたちが進学に就職に一生懸命になっている姿を見ますと、私もおつられて何かの試験を受けたくなくなりました。

香港でソフトボール

伊藤 英明(50)

入社後2年、本社海外事業部勤務後、本年4月より香港現地法人で、日本からの輸出を担当しています。香港島に住み、大陸側九竜半島にある事務所へ海底を通る地下鉄で通勤しています。

日本のデパート・スーパーも多く進出しており生活の不自由は全くありません。休日には日本企業のソフトボールチームのメンバーとして汗を流しています。

「ソニー」の一日

高谷 淳(52)

私は今、会社から帰ってこれを書いています(23時55分)。

朝6時起床、8時出社、21時30分退社、23時帰宅という毎日です。ステジューも殺人的であり、シンドイの一言で私の今の生活が表現できます。在学当時との違いは、少しの余暇

を徹底的に(日曜日は24時過ぎまで)、プライベートをより如何に有効に使うかを考えるようになったことくらいですね。

学生から院生に

松尾 美紀(53)

私は現在、大阪経済大学の大学院の博士前期課程(修士課程)に在籍致しております。

学部の時とは違い、小人数制です。授業はゼミ形式です。院生のみなさんはとても勉強ができていきますので、ついていくのに必死です。

毎日、図書館に通い充実した日々を送っております。

先輩の母校愛に感激

沢井 明彦(54)

「初めて同窓会岡山支部総会に出席して」

社会人になって、学生時代とは全く違う生活の中で4カ月が過ぎ、ようやく今の環境にも慣れてきました。

現在ではミサワホーム岡山倉敷店で営業をしています。徐々にはありますが仕事のおもしろさがわかってきたような気がします。

先般行われました大阪経済大学同窓会岡山支部総会に出席させていただきました。諸先輩方の母校を愛されるお気持ちに深く感激しました。その反面、新卒の出席者が私一人だけということで諸先輩方には大変申しわけなく、これからはできるだけ多くの者が参加するよう同期の者に強く呼びかけてゆきたいと思っています。

私たちが後輩が出席させていただいた際には諸先輩方に社会人の先輩として指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

来年は、先輩方とともに楽しいひと時が過ぎ、岡山支部総会がより一層盛大であることを祈っています。

北から南から「依頼ハガキ

- 1. あなたの近況
2. 同窓会および母校に対する希望を
3. 「道理貫天地」の読後感想
4. その他
各回無作為抽出で発送しました。

『黒正巖先生遺稿集』の出版について



このたび、黒正家より、黒正巖先生の戦後の御活躍の一端をうかがうことのできる資料を御提供いただきましたので、黒正先生の御高弟で、黒正先生が京大農学部に創設された農史講座を継承された三橋時雄先生(京都大学名誉教授)のお力添えを得て、日本経済史研究所から刊行することとなりました。

黒正先生の遺稿集としては、百姓一揆の専門的な研究を収録した『百姓一揆の研究 続編』が、昭和34年に本学の研究叢書の第一冊として公刊されていますが、これは戦前に発表されたものを三橋先生

を中心として本学経済学部教授山田達夫先生も参加してまとめたものです。今回の遺稿集は、戦後から逝去されますまでの短い期間のものです。なお御研究に、青年の教育にと献身的な御努力を傾けられた先生のお姿を偲んでいただけると幸いです。また私生活の面でも日記がわりに記されていた漢詩や和歌なども収録されておりますので、この際は是非ご購読されることをおすすめいたします(A5サイズ、177頁)。日本経済史研究所

◆頒価 一冊 1,500円 (送料込)

黒正巖先生の思い出 『道理貫天地』購読のすすめ

同窓会の記念事業として昭和62年11月3日に発刊されたもので、先生のご生涯を知るだけでなく、本学園の歴史を知るうえでも貴重な読みものです。既に多くの方が購読しておられますが、今少し残部があります。

同窓会広報部が中心となって、

購入方法

郵便振込。銀行振込。いずれの場合も同封払込用紙をご利用下さい(郵便局または三和銀行本支店をご利用になれば払込手数料はいりません)。

現金書留の場合の送金宛先 〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学同窓会事務局 大阪経済大学同窓会事務局 電話06・328・2431代

写真でみる 変容された 母校の学内 風景絵葉書 (8枚組セット) 「風と雲」



母校、大阪経済大学の新しいシンボルとして、創立50周年記念に同窓会並びに後援会から寄贈された流政之氏の彫刻「風にむかって風に立つ」を、雲にむかって雲に立つ」を標題に、変容を遂げた美しい学内風景の絵葉書(8枚組セット)を作製しました。

去る、11月3日(文化の日)の同窓会総会にご出席の方々にはお土産として配布しました。

今後、全国各地で開催されます支部総会に出席の皆さんにはお土産として支部長から配布します。記念になると思いますので奮って支部総会にご出席下さい。

61年度版『同窓会名簿』の販売 ご希望の方は上記購入方法で申し込み下さい。

◆頒価 一冊 6,000円

オリジナル・テレホンカード 記念品として作製しました50周年記念館をデザインしたもので好評です。ご希望の方は1枚800円でお分けします。

まとめてお買い上げの方は10枚で1枚進呈いたします。 購入方法は上記と同様です。



会則改正について

◆会則を改正した主な経過及び改正点

〔経過〕

昭和62年10月17日(土)開催の全国支部長会で、同窓会組織並びに運営の中で、支部並びに支部長会の位置づけを明確にされたいとの要望があり、具体策を検討するにあたり数人の支部長に意見を求めたところ、

1、同窓会会則の中に、支部長の職責を明確にするとともに、年1回支部長会を開催することを明記されたい。

2、支部と本部との連携を密にするよう十分配慮されたい。

3、支部長は、支部長会を構成し、支部運営に関する諸事項を協議することを明確にするとともに、本部との連絡、調整機関的なものを設けるよう考慮されたい、などの意見に集約された。

以上の意見具申に基づき、常任理事会で改正案を作成し、昭和63年度理事会の承認を経て改正された。

〔改正点〕

第1条(旧1条)に旧第5条を包含して一条文にまとめた。

第5条(旧6条)第5項の理事

の定数を実情にあわせ理事の数を「3名以内」とした。

第7条(旧8条)は第5条と同様の理由で訂正した。

第10条(旧11条)及び第11条(旧12条)は表現を変更した。

第12条(旧13条)は会議の招集権者を明記するとともに一部表現変更した。

第16条(旧17条)は今後の同窓会運営を考慮して、会長またはその代理人が必要と認めるときは、名誉役員各位に随時協議に参画を請うることを明確にした。

第17条(旧18条)は社会通念上適当と思われる表現に変更した。

第18条(旧31条)は従来、追加条文として設けられたもので、常任理事会の所管事項であるため、第2章、第18条に移し、同時に表現を変更した。

第4章(旧21条-23条)は今回の会則改正の主要部分で、旧会則では第28条に支部設置基準のみを定めていたが、今回新しく「支部」の章を設け、旧第28条を21条に移すとともに、第22条に支部長の職務、第23条に支部長会の構成並びに本部、支部間の協議規定を明記した。

第30条(旧27条)は表現統一のため「時」を「とき」に変更した。

大阪経済大学同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は大阪経済大学同窓会と称し、本部を大阪経済大学内に置く。
- 第2条 本会は会員相互の融和親睦並びに社会的地位の向上をはかると共に母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達するため下記の事業を行う。
 1. 会員相互の親睦をはかるに必要な事業
 2. 学術の研究、講演会等の開催
 3. その他必要な事業
- 第4条 本会は下記の会員によって組織する。
 1. 正会員 母校卒業生
 2. 特別会員 母校教職員・旧教職員及び本会に特別に関係あると認め、常任理事会において推薦したもの

第2章 役員及び役員会

- 第5条 本会に下記の役員を置く。

会 長	1 名
副会長	若 干 名
事務局長	1 名
常任理事	20名以内
理 事	各回3名以内及び各支部長
監 事	3 名
- 第6条 本会に名誉会長、相談役、顧問を置くことができる。
- 第7条 理事は各回より選出された3名以内及び各支部長とする。
- 第8条 常任理事及び監事は理事の中より選出する。
- 第9条 会長、副会長及び事務局長は常任理事の中より選出する。
- 第10条 役員任期は3年とし再選を妨げない。但し、任期満了後といえども次期役員が就任するまで引き続きその職務を行う。
- 第11条 役員に欠員を生じたときは常任理事会の決議により補充することができる。但し、任期は前任者の残余期間とする。
- 第12条 会長は本会を代表し、本会則に定める会議を招集する。副会長は会長を補佐し事故あるときはこれを代行する。
- 第13条 理事は理事会を構成し会務及び会計、その他重要事項を決議する。但し、決議は出席者の過半数とする。
- 第14条 常任理事は常任理事会を構成し会務の運営に当る。
- 第15条 事務局長は会長、副会長を補佐し会務を掌理する。
- 第16条 名誉会長、相談役、顧問は重要事項について会長の諮問に応ずるものとする。
- 第17条 監事は会務を監査する。監事は理事会、常任理事会に出席して意見を述べることができる。
- 第18条 常任理事会は学校法人の同窓会評議員の候補者を推薦する。
- 第19条 常任理事会は会務を円滑ならしめるために次の部を置く。
 1. 総務部 2. 広報部 3. 財務部 4. 組織部

異動のあったときは、ただちにご連絡ください。

◆住所変更 ◆呼称変更 ◆勤務先変更 ◆所属部課 ◆役職異動 ◆電話番号変更

などの場合は、同封してあります「名簿作成調査票」をご利用のうえ、本部へお届けください。とくに、官公庁、金融機関、損保関係、国公立学校にご勤務の会員のご協力をお願い申し上げます。

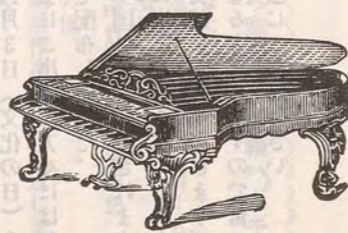
◆コンピュータシステムの名簿をご利用ください。同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、

- 1、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
 - 2、ゼミ別会員名簿作成
 - 3、卒業回数別会員名簿作成
 - 4、クラブ別会員名簿作成
 - 5、業種別会員名簿作成
 - 6、封筒用漢字ラベル作成
- などのアウトプットが可能です。会員の皆さん、大いにご利用ください。

◆63年度の購読料のお願い

「自らの購読料で、『濠江』を育てよう。1、000円にご協力を！」を合言葉に、59年度からスタートしました濠江購読料につきましては、お陰さまで深いご理解とご協力をいただき、感謝いたしております。59、63年度の濠江購読料は、2、458名の方から2、817、760円頂戴いたしました。ありがとうございました。

このご声援に見合うような「濠江」と、編集子一同、一ふんばり、二ふんばり頑張っております。63年度の購読料につきましては、11月21日現在で、すでに118名、133、000円集まっております。引き続きよろしくご協力のほどお願いいたします。何卒よろしくご声援ください。(広報部)



学 歌

作詞 秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(放送大学教授)

- 1. 大淀の 水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑が泌みる
この若さ 希望は明るい 蒼穹かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学
- 2. 大樟の 蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負いもちて
諸汗に 確かと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

学 園 歌

作詞 黒正 巖(昭和高商初代校長)
作曲 水野康孝(元本学教授)

- 1. 商都の東北澱江に 臨みて高く聳り立つ 我等が昭和学園は
産業日本を双肩に 担うて進む若人の 力の糧の広野原

逍 遥 歌

作詞 中村行男(16回卒)
作曲 松川圭一(15回卒)

- 1. 此処 城北に迎えたる 紺碧淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり
- 2. 水や濁れる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わるまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が青春を
- 3. 集いの庭に共にせし
我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

でんこう 澱江 1988

■発行日 1988年12月20日
■編集 広報部
■発行所 大阪経済大学同窓会
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話(06)328-2431
■印刷 凸版印刷株式会社
〒553 大阪市福島区海老江3-22-61
電話(06)454-3256

▼「もういちど記念館で逢いましょう」を合言葉に、今年も母校で総会が開かれました。▼支部総会、クラブOB・同期会も活発、全国支部長会の活躍が特筆に値します。▼昨年の『道理貫天地』に続き、『黒正巖博士遺稿集』が出版されました。ご購入をお勧めします。▼母校の写真『絵葉書』(8枚セット)完成。支部総会で配布します。▼澱江購読料本年度は倍増、59年度からの累計額はお陰様で280万円を突破しました。今後ともよろしく願います。▼「動く広報部」を目指し、卒業生座談会・インタビューを実施した本年度の『澱江』、ご意見をお聞かせ下さい。▼数々のご投稿ありがとうございました。心から深謝します。

編 集 後 記

第3章 総 会

第20条 定時総会は毎年1回開催し会務の重要事項を報告して、会員相互の融和親睦をはかるものとする。

第4章 支 部

第21条 地方に在住する会員はその地に支部を設置することができる。但し、支部を設置するときは下記事項を本部に通知し、常任理事会の承認を得なければならない。

1. 支部の名称及び支部長名
2. 支部の所在地
3. 支部の規約及び役員並びに支部会員の氏名
4. その他参考となる事項

第22条 支部長は支部を代表し、年1回開催する全国支部長会に出席すると共に支部の活動状況、支部会員の年間異動状況を本部に連絡するものとする。

第23条 支部長は全国支部長会を構成し、本部並びに支部間の連絡を密にすると共に支部の運営について協議する。

第5章 会 計

第24条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第25条 本会の経費は会費、寄付金及びその他の収入を以てこれにあてる。

第26条 正会員の会費は理事会において定め母校在学中にこれを予納するものとする。

第6章 総 務

第27条 本会の財産は理事会がこれを管理する。

第28条 本会は下記の帳簿を備付けるものとする。

1. 会員名簿
2. 会計帳簿
3. 備品台帳
4. 業務日誌
5. その他必要な帳簿

第29条 本会は事務を処理するため嘱託をおくことができる。

第30条 本会員は住所、氏名、職業、勤務先等一身上の変更を生じたときは速かに書面にて本会まで通知しなければならない。

第31条 この会則の改正は理事会の議決を経なければならない。

第32条 この会則に定めなき事項で運営上必要なことは理事会で決める。

附 則

この会則は昭和63年6月25日より実施する。



經
市